



Advanced Card Systems Ltd.
Card & Reader Technologies

ACR1555U



リファレンスマニュアル V1.06



目次

1.0.	紹介	6
1.1.	記号と略語	6
2.0.	特性	7
3.0.	ACR1555Uのアーキテクチャ	8
3.1.	PC/SCドライバとPICCおよびSAM間の通信	9
4.0.	ハードウェアのデザイン	10
4.1.	電池	10
4.1.1.	充電	10
4.1.2.	バッテリー持続時間	10
4.2.	ブルートゥース	10
4.3.	USB	10
4.3.1.	通信パラメーター	10
4.3.2.	エンドポイント	11
4.4.	非接触スマートカードインターフェース	11
4.4.1.	搬送波周波数	11
4.4.2.	ポーリング	12
4.5.	ユーザーインターフェース	13
4.5.1.	LED	13
4.5.2.	ブザー	14
4.5.3.	ボタン	15
5.0.	ハードウェアデザイン	16
5.1.	リーダーライターモード選択	16
5.2.	ブルートゥース通信	17
5.2.1.	Bluetooth 接続フロー	17
5.2.2.	Profile セレクション	18
5.2.3.	通信配置ファイル	20
5.2.4.	ブルートゥース通信プロトコル	20
5.2.5.	認証	34
5.2.6.	相互認証と暗号化プロトコル	34
5.3.	PCSC API	42
5.3.1.	SCardEstablishContext	42
5.3.2.	SCardListReaders	43
5.3.3.	SCardConnect	44
5.3.4.	SCardControl	45



5.3.5.	SCardTransmit	47
5.3.6.	SCardDisconnect.....	49
5.3.7.	APDU の流れ.....	50
5.3.8.	直接的なコマンドの流れ	51
5.4.	接触式スマートカードプロトコル.....	52
5.4.1.	ACOS6-SAM カードコマンド.....	52
5.5.	非接触スマートカード プロトコル.....	68
5.5.1.	ATR の生成	68
5.5.2.	APDU、私有 APDU およびカード固有コマンド.....	72
5.5.3.	PICC の PCSC 私有 APDU (独自の拡張機能付き)	73
5.5.4.	PCSC 2.0 パート 3 サポートできる APDU コマンド (V2.02 及びその以降のバージョン)	84
5.5.5.	PICC の専属の私有 APDU	97
5.5.6.	PCSC 準拠のタグをアクセスする (ISO 14443-4)	100
5.5.7.	MIFARE DESFire タグをアクセスする (ISO 14443-3)	101
5.5.8.	FeliCa タグのアクセス	102
5.5.8.	ISO15693 タグのアクセス	103
5.5.9.	サポート PICC ATR	110
6.0.	Escape コマンド.....	113
6.1.	PICCEscape コマンド.....	113
6.1.1.	RF 制御 (RF Control) [E0 00 00 25 01 ...].....	113
6.1.2.	PCD/PICC 状態取得 (Get PCD/PICC Status) [E0 00 00 25 00].....	114
6.1.3.	ポーリング/ATR オプションの取得 (Get Polling/ATR Option) [E0 00 00 23 00]	115
6.1.4.	ポーリング/ATR オプションの設定 (Set Polling/ATR Option) [E0 00 00 23 01 ...]	115
6.1.5.	PICC ポーリングタイプ取得 (Get PICCPolling Type) [E0 00 01 20 00]	116
6.1.6.	PICC ポーリングタイプ設定 (Set PICC Polling Type) [E0 00 01 20 02 ...].....	117
6.1.7.	自動 PPS 取得 (Get Auto PPS) [E0 00 00 24 00].....	118
6.1.8.	自動 PPS 設定 (Set Auto PPS) [E0 00 00 24 01...].	118
6.1.9.	PICC タイプ取得 (Read PICC Type) [E0 00 00 35 00].....	120
6.1.10.	PICC- HID キーボードの Escape コマンド.....	121
6.1.11.	PICC-カードシミュレーションの Escape コマンド	128
6.2.	ICCEscape コマンド.....	137
6.2.1.	カード電源取得 (Get Card Power Configuration) [E0 00 00 0B 00]	137
6.2.2.	カード電源配置設定 (Set Card Power Configuration) [E0 00 00 0B 01...].	137
6.3.	周辺設備制御と他の Escape コマンド	139
6.3.1.	ファームウェアバージョン取得 (Get Firmware Version) [E0 00 00 18 00].....	139
6.3.2.	シリアルナンバー取得 (Get Serial Number) [E0 00 00 47 00]	139
6.3.3.	USB 記述子内の S/N を設定する (Set S/N in USB Descriptor) [E0 00 00 F0]	140
6.3.4.	ブザー制御の設定-単発 (Set Buzzer Control - Single Time) [E0 00 00 28 01 ...].....	140
6.3.5.	ブザー制御の設定-重複 (Set Buzzer Control - Repeatable) [E0 00 00 28 03 ...]	142

6.3.6.	LED 状態取得 (Get LED Status) [E0 00 00 29 00]	142
6.3.7.	LED 制御設定 (Set LED Control) [E0 00 00 29 01 ...].....	143
6.3.8.	UI 操作取得 (Get UI Behaviour) [E0 00 00 21 00]	143
6.3.9.	UI 操作設定 (Set UI Behaviour) [E0 00 00 21 01 ...].....	144
6.3.10.	BLE UI 操作取得 (Get BLE UI Behaviour) [E0 00 00 4B 01 05]	145
6.3.11.	BLE UI 操作設定 (Set BLE UI Behaviour) [E0 00 00 4B 02 05 ...].....	146
6.3.12.	スリープモードオプションの取得 (Get Sleep Mode Option) [E0 00 00 50 00]	147
6.3.13.	スリープモードオプションの設定 (Set Sleep Mode Option) [E0 00 00 48 ...]	148
6.3.14.	Tx パワー数値取得 (Get Tx Power Value) [E0 00 00 51 00].....	148
6.3.15.	Tx パワー数値設定 (Set Tx Power Value) [E0 00 00 49...].....	149
6.3.16.	MAC アドレス取得 (Get MAC Address) [E0 00 00 43 00]	149
6.3.17.	BLE 放送名称取得する (Get BLE Advertising Name) [E0 00 00 44 00].....	150
6.3.18.	バッテリー取得 (Get Battery Level) [E0 00 00 52 00].....	151
6.3.19.	BLE バインドレコードの削除 (Remove BLE Bonding Record) [E0 00 00 5B 00].....	152
6.3.20.	BLE 通信モード読み取る (Read BLE Communication Mode)	153
6.3.21.	BLE 通信モード設定 (Set BLE Communication Mode)	153
6.3.22.	顧客マスターキーリライター (Customer Master Key Rewrite)	155
6.3.23.	認証エラーカウンタを読み込む (Read Authentication Error Counter)	155
付録 A. NDEF メッセージ		157
付録 B. ロットビット状態とスロットビットエラー		158

図示一覧表

図 1 :	ACR1555U リーダーライターの機能ブロック図	8
図 2 :	ACR1555U のアーキテクチャ	9
図 3 :	BLE スプロトコル・スタック	9
図 4 :	リーダーライターモード	16
図 5 :	Bluetooth 接続フロー	17
図 6 :	認証手順	34
図 7 :	ACR1555U の APDU 流れ	50
図 8 :	ACR1555U 直接コマンドの流れ	51
図 9 :	透過セッションフローチャート	84

チャート一覧表

表 1 :	記号と略語	6
表 2 :	推定のバッテリー持続時間	10



表 3 : USB インターフェース配線	11
表 4 : Bluetooth モードでの LED 表示	13
表 5 : USB モードでの LED 表示	14
表 6 : ACR1555UBluetooth サービス.....	18
表 7 : ACR1555U のサービスハンドルと UUID メッセージリスト	19
表 8 : コマンドコードの概要.....	20
表 9 : 応答コードの概要.....	21
表 10 : カード通知コード概要.....	21
表 11 : 相互認証コマンドの概要	35
表 12 : 相互認証エラーコード.....	41
表 13 : MIFARE Classic 1K カードのメモリマップ	78
表 14 : MIFARE Classic 4K カードのメモリマップ	78
表 15 : MIFARE Ultralight カードのメモリマップ	79
表 16 : NFC フォーラムタイプ 2 ラベルのメモリマップ (2000 バイト)	129
表 17 : FeliCa カードのメモリマップ (160 バイト)	130
表 18 : スロットビットステータスレジスタ	158
表 19 : スロットビットエラーレジスタ (bmCommandStatus = 1)	159

1.0. 紹介

ACR1555U NFC Bluetooth®リーダライタは ISO 14443 第 1-4 部と ISO 18092 規格に適合し、非接触カード、MIFARE®カード、FeliCa™カード、NFC タブ及び ISO 7816 A、B と C 類（5 V、3 V と 1.8 V）SAM カードをサポートしています。

このリーダライタは Bluetooth®5.2 標準的なシングルモード操作をサポートする iOS、Android™、Linux®、Windows®などの各種オペレーティングシステムに対応できる USB Type-C デバイスである。

ACR1555U は 450 mAh 3.7 V リチウムイオン電池を用いて電力を供給します。設備の運転状態を表示するために、3 つの LED ランプと 1 つのブザーを装備しています。また 2 つのボタンがそれぞれに電池、設備状態及び Bluetooth®状態を制御します。

1.1. 記号と略語

略語	説明
ATR	属性要求と属性応答 (Attribute Request and Attribute Response)
DEP	データ交換プロトコル要求及びデータ交換プロトコル応答 (Data Exchange Protocol Request and Data Exchange Protocol Response)
DSL	要求の選択解除と応答の選択解除 (Deselect Request and Deselect Response)
PSL	パラメータ選択要求とパラメータ選択応答 (Parameter Selection Request and Parameter Selection Response)
RLS	要求リリースと応答リリース (Release Request and Release Response)
WUP	要求ウェイクアップと応答ウェイクアップ (Wakeup Request and Wakeup Response)
DID	設備 ID (Device ID)
BS	ビット周期送信 (Sending bit duration)
BR	ビット周期受信 (Receiving bit duration)
PP	プロトコルパラメータ (Protocol Parameters)

表1 : 記号と略語

2.0. 特性

- USB フルスピード・インターフェース
- ブルートゥースインターフェース
- CCID準拠
- スマートカードリーダー：
 - 非接触インターフェース：
 - 読み書き速度が 26 kbps (ISO 15693 カード) および 848 kbps (ISO 14443 カード)
 - 内蔵アンテナを使って、ACR122U の通信距離は最大 5cm です。(タグのタイプに応じて)
 - ISO 15693 カードサポート
 - ISO 14443 A および B カード、MIFARE®シリーズ、FeliCa、5 タイプのすべての NFC タグ (ISO/IEC 18092) もサポートしています。
 - 衝突防止機能内蔵
 - 拡張の APDU サポート (最大 64 KB)
 - SAM インターフェース：
 - 1つ SAMカードスロット
 - ISO7816クラスA のSAMカードサポート
- アプリケーション プログラミング インターフェース：
 - PC/SC サポート
 - CT-API サポート (PC/SC 上のレイヤーによるパッケージ)
- 内蔵されている周辺機器：
 - 3xユーザー制御可能な LED (青色、黄色、赤&緑の二色 LED)
 - ユーザー制御可能なブザー
 - バッテリー、デバイス、Bluetooth®ステータスを制御するボタン
- USBファームウェアアップグレードサポート¹
- Android™ 4.3と以降のバージョンサポート²
- iOS とiPadOS 12とその以降のバージョンサポート³
- 以下の規格に準拠：
 - IEC/EN 62368
 - CE

¹PC リンクモードに適用

²ACS 定義された Android ライブラリ使用

³ACS 定義される iOS または iPadOS ライブラリを使用する

- UKCA
- FCC
- VCCI
- RoHS
- REACH
- Bluetooth® BQB
- TELEC (日本)
- Microsoft® WHQL
- KCC (韓国)
- ISO 14443
- ISO 15693
- ISO 7816
- PC/SC
- CCID
- WEEE

3.0. ACR1555U のアーキテクチャ

リーダーの機能アーキテクチャ図

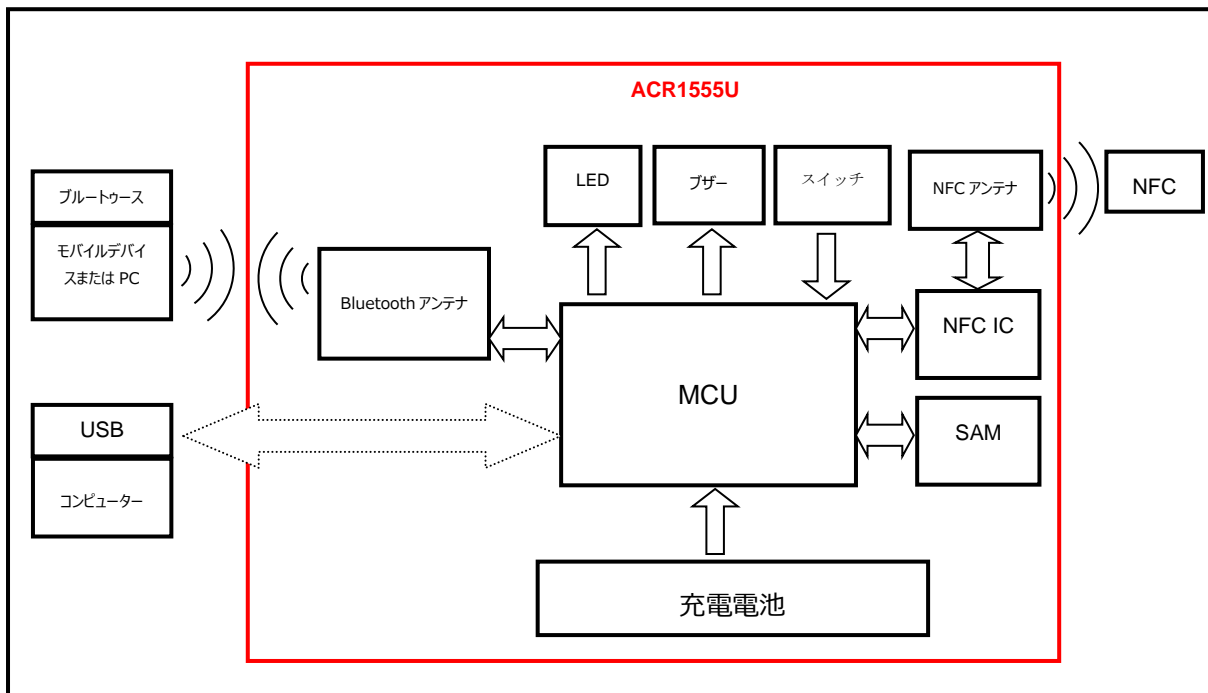


図1 : ACR1555U リーダーライターの機能ブロック図

3.1. PC/SC ドライバと PICC および SAM 間の通信

ACR1555U が CCID プロトコルを使用して PC とデータ通信します。PICC と SAM 間の通信は PC/SC 規格に準拠しています。

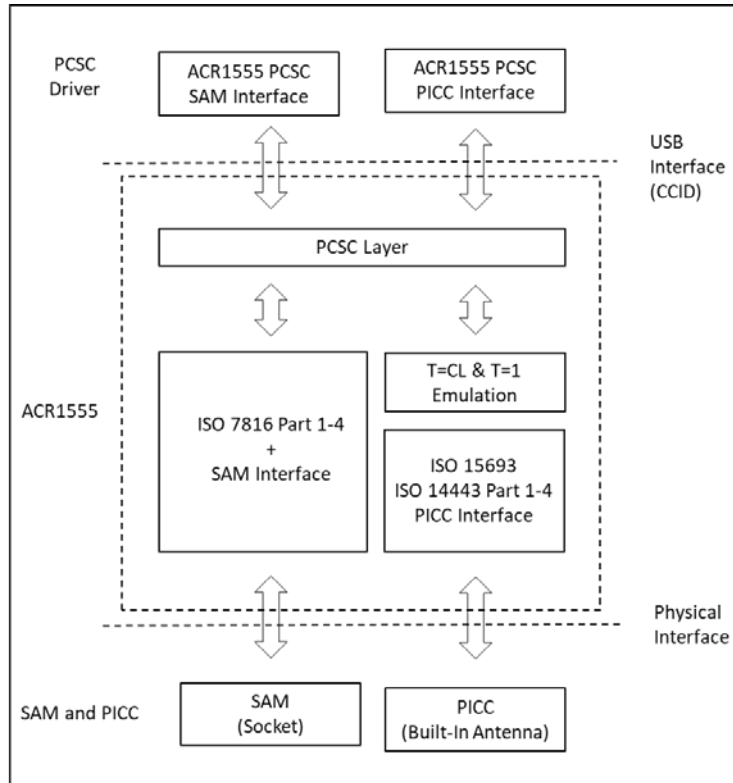


図2 : ACR1555U のアーキテクチャ

ブルートゥース低エネルギープロトコル・スタック・アーキテクチャは次とおりです :

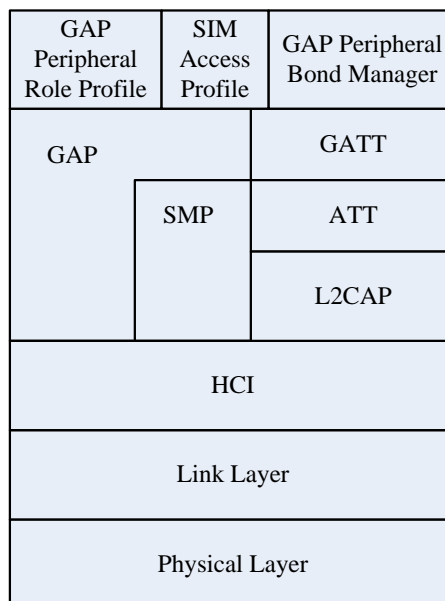


図3 : BLE スプロトコル・スタック

4.0. ハードウェアのデザイン

4.1. 電池

ACR1555U は 450 mA の充電式リチウムイオン電池を使用しています。

4.1.1. 充電

ACR1555U バッテリの電力が切れた場合は、電源オフ、USB、または Bluetooth モードで電源コンセントに接続して充電できます。

4.1.2. バッテリ持続時間

バッテリーの持続時間はデバイスの使用状況によって異なります。様々な作業条件に応じて、バッテリー持続時間の推定値は以下のように：

モード	推定のバッテリー持続時間
動作モード	5.5 時間 * (1)
スタンバイモード	12 時間 * (2)
オフモード	48 日

表2：推定のバッテリー持続時間

注：結果がスマートカードによって異なります。

- (1) Bluetooth モードでは、スリープモードをオフにして連続動作する。
- (2) Bluetooth モードでは、スリープ時間を 60 秒に設定し、1 日に 10 回の操作を起動し、毎回 1 分間操作する。

4.2. ブルートゥース

ACR1555U は、Bluetooth でデバイスをコンピュータおよびモバイルデバイスとペアリングします。

4.3. USB

ACR1555U が USB 規格に準拠した USB を介して PC と接続します。

4.3.1. 通信パラメーター

ACR1555U は USB 2.0 規格 2.0 に従って USB インタフェースを通じてコンピュータと接続を確立します。USB 全速モードをサポートし、レートが 12 Mbps になります。

ピン	信号	機能
1	V _{BUS}	カードに+5 V の電源を供給
2	D-	ACR1555U が PC との間で差動信号でデータを伝送する
3	D+	ACR1555U が PC との間で差動信号でデータを伝送する
4	GND	参考用の電圧レベル

表3 : USB インターフェース配線

注 : ACR1555U が USB インタフェースを介して正しく機能するためには、**ACS 独自のデバイスドライ**または **Microsoft CCID CCID ドライ**のいずれかをインストールする必要があります。詳細は『デバイスドライインストールガイド』を参照してください。

4.3.2. エンドポイント

ACR1555U 下記のエンドポイントを介して、ホスト PC と通信します :

Control Endpoint 設置と制御用

PICC :

EP1 Bulk OUT ホスト PC から ACR1555U PICC インターフェースにコマンドを送信する (パケットサイズ 64 バイト)

EP1 Bulk IN ACR1555U PICC からホスト PC に応答を送信する (パケットサイズ 64 バイト)

EP2 Interrupt IN ACR1555U PICC からホスト PC にカード状態のメッセージを送信する (パケットサイズ 8 バイト)

SAM :

EP3 Bulk OUT ホスト PC から ACR1555U SAM インターフェースにコマンドを送信する (パケットサイズ 64 バイト)

EP3 Bulk IN ACR1555U SAM からホスト PC に応答を送信する (パケットサイズ 64 バイト)

4.4. 非接触スマートカードインターフェース

ACR1555U と非接触カードとの間のインタフェースが ISO 14443 規格に準拠しており、ACR1555U の実用的な機能を強化するためにいくつかの制限または向上が行われています。

4.4.1. 搬送波周波数

ACR1555U の搬送波周波数は 13.56MHz です。



4.4.2. ポーリング

ACR1555Uに入る非接触カードを自動的に検出します。この機能は ISO 14443-4 の A と B タイプのカード、Topaz カード、MIFARE カード、ISO15693 カード、FeliCa と NFC タグをサポートします。

4.5. ユーザーインターフェース

4.5.1. LED

LED インジケータは、Bluetooth モード、電源、USB モードの状態を表示するために使用されます。青色 LED が Bluetooth モードの状態を表示するために使用され、緑色 LED がデバイスの電源状態を表示するために使用され、赤色 LED がバッテリー状態を表示するために使用され、黄色 LED が PICC 状態を表示するために使用されます。

モード	色	LED ステータス	状態
Bluetooth モード	青色 //(LED1)	OFF	リーダーライター電源オフ Bluetooth デバイスとペアリングしていない USB モード
		速く点滅する (4 Hz)	ユーザーのペアリング確認を待つ (モードボタンを 1 回押す必要 がある)
		ゆっくり点滅 (0.5 Hz)	信号放送 デバイスのペアリング待ち
		点灯	Bluetooth デバイス接続完了
	赤 //(LED2)	OFF	バッテリー充電終了 リーダーライターは USB のみで電源支給/ 電池の電圧が 3.5V より高く、USB 電源もありません
		ゆっくり点滅 (0.2Hz)	バッテリー残量不足 (30%未満)
		点灯	充電中
	オレンジ ⁴ (LED2)	点灯	デバイスに電源が入り、充電中
	緑 //(LED2)	OFF	設備電源オフ
		点灯	設備電源入り
	黄色 //(LED3)	OFF	RF オフ
		速く点滅する	スマートカードがリーダーと読み/書きます
		点灯	カードが存在して、リーダーがコマンドを待っています :

表4 : Bluetooth モードでの LED 表示

⁴緑色と赤色が同時に点灯する

モード	色	LED ステータス	状態
USB モード	青色 //(LED1)	OFF	USB モード
	赤 //(LED2)	OFF	バッテリー充電終了 リーダ/ライタは USB のみで電源支給/ 電池の電圧が 3.5V より高く、USB 電源もありません
		ゆっくり点滅 (0.2Hz)	バッテリー残量不足 (30%未満)
		点灯	充電中
	オレンジ ⁵ (LED2)	点灯	デバイスに電源が入り、充電中
	緑 (LED2)	OFF	設備電源オフ
		点灯	設備電源入り
	黄色 //(LED3)	OFF	カードが存在しなくて、RF オフ
	黄色 //(LED3)	速く点滅する	スマートカードがリーダと読み/書きます
		点灯	カードが存在して、リーダがコマンドを待っています：
		OFF	カードが存在しなくて、RF オフ

表5：USB モードでの LED 表示

4.5.2. ブザー

カードポーリング、Bluetooth 接続、スリープモード、低バッテリー状態をユーザに通知するために使われます。

ブザー操作	イベント
1 回ビープ	1.リーダが電源と接続済 2.カードが検出された/カードが外した 3.USB モードから Bluetooth モードへの切り替え (長いビープ音)
2 回ビープ	リーダが電源と接続済、バッテリー残量不足
3 回ビープ	電源接続切れた

⁵緑色と赤色が同時に点灯する

4.5.3. ボタン

ACR1555U には BLE ボタンとスイッチボタンの 2 つのボタンがあります。

ボタン	条件	モード	ボタン状態	説明
モードボタン	-	BLE モード (ペアリング)	短く押す	Bluetooth バイン드의確認
	PC USB 挿入	USB モード	長く押す	BLE モードに切り替える
スイッチ	リーダーオフ	任意	長く押す	NFC の電源オン/アクティブ化
	リーダーオン		長く押す	オフ

5.0. ハードウェアデザイン

5.1. リーダーライターモード選択

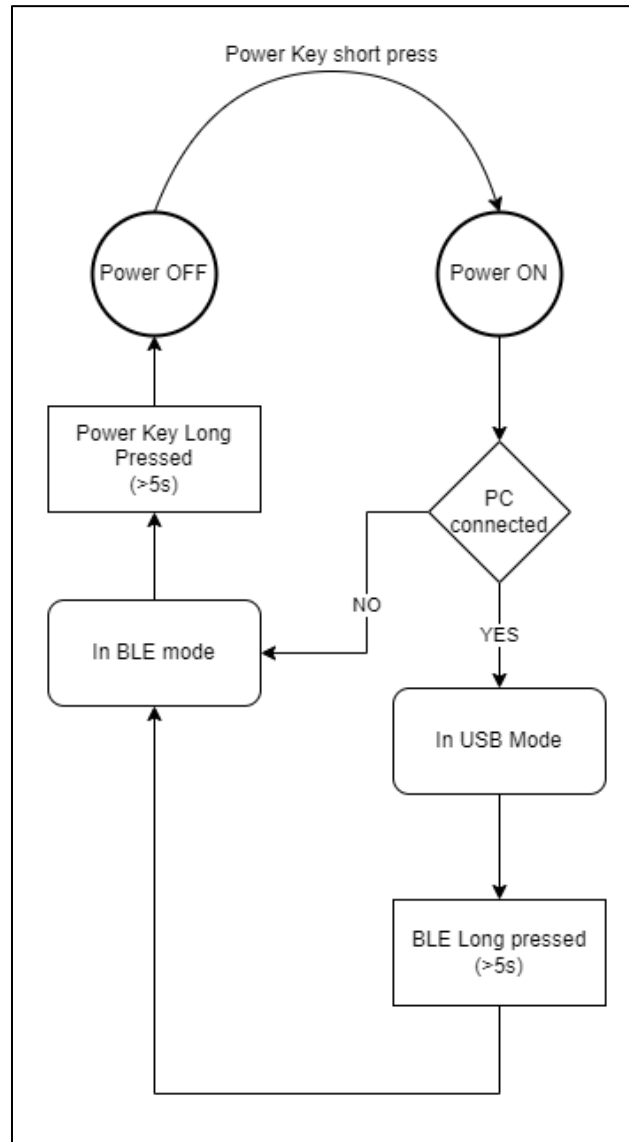


図4：リーダーライターモード

リーダーライターが起動すると、まず USB ポートとの接続状況を検査します。ポートに 5 V の電圧が検出されると、リーダーライターは USB モードを起動します。正常に起動すると USB モードのままになります。USB モードが起動できなかった場合、リーダーライターは Bluetooth ブロードキャストモードをオンにします。Bluetooth モードから USB モードに切り替える必要がある場合は、ユーザーはデバイスの電源を切り、再び電源を入れて、USB デバイスを再確認する必要があります。

5.2. ブルートゥース通信

5.2.1. Bluetooth 接続フロー

下記は Bluetooth の接続フローです :

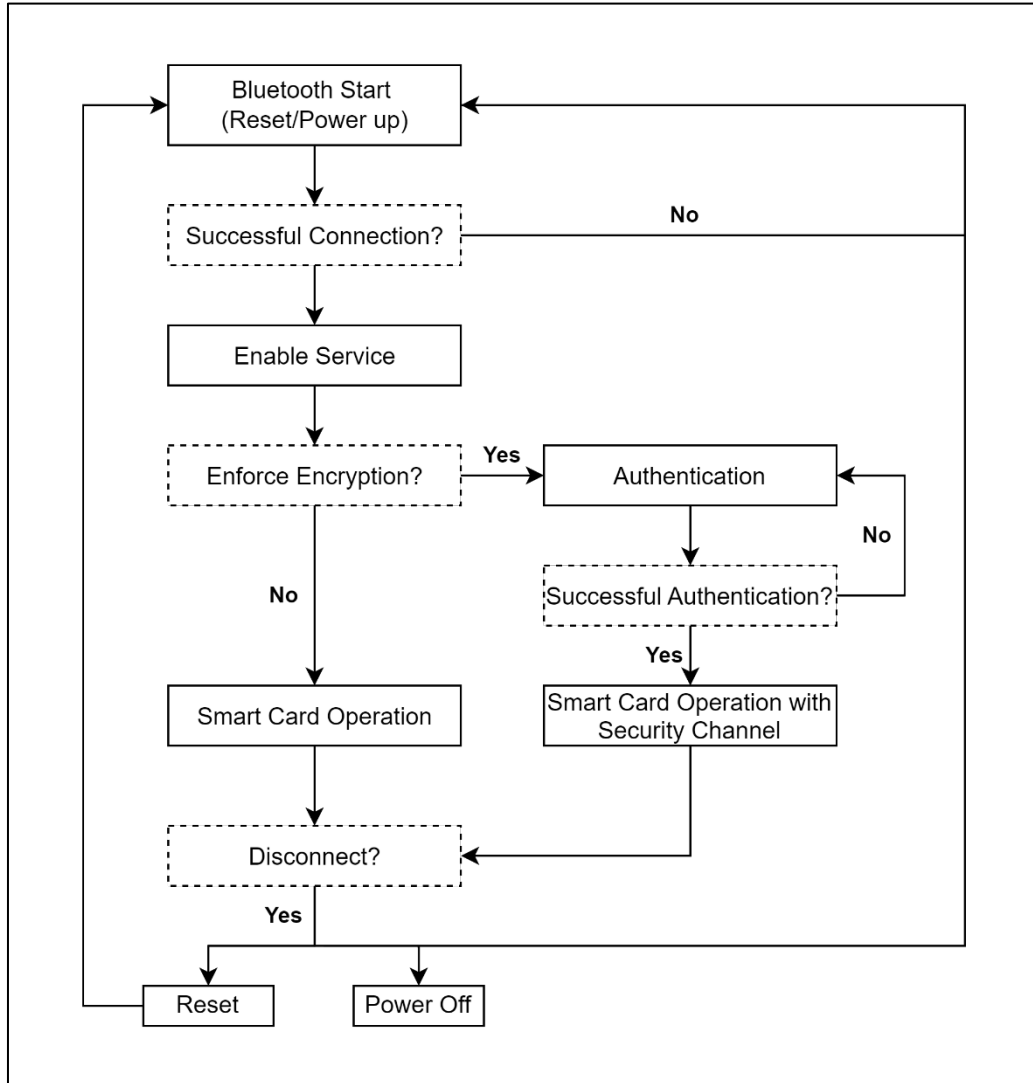


図5 : Bluetooth 接続フロー

5.2.2. Profile セレクション

ACR1555U はインターフェースを送信するためのデータとしての Bluetooth 技術を使用するように設計されたスマートカードリーダーです。3 つのチャンネルを介してコマンド通信のカスタムサービスを採用しています。1 つ目のチャンネルはコマンド要求に使用され、2 つ目のチャンネルはコマンド応答に使用され、3 つ目のチャンネルはカード通知に使用されます。

また、リーダーライターが Bluetooth モードの場合、現在の消費電力が大幅に増加するため、標準バッテリーサービスを使用して、ペアリングデバイスの現在のバッテリー状態を通知します。電池状態が変わった場合、リーダーは、特定のチャンネルを介してペアリングデバイスに通知します。操作を簡単にするために、バッテリーが 3 つのグループに分けられています：残量十分 ($\geq 3.78\text{ V}$)、残量不足 ($< 3.78\text{ V}$ と $\geq 3.68\text{ V}$) およびバッテリーなし ($< 3.68\text{ V}$)。

最後に、ユーザに多くのリーダーの情報を提供するために、カスタマイズされたデバイス情報サービスが追加されます。この情報を手動で読み取り、またはアプリケーションの要求によって読み取ることができます。情報の中にはモデル番号、シリアル番号、ファームウェアバージョン、およびデバイス名が含まれます。

サービス	UUID	パイプ
スマートカード	00003971-817C-48DF-8DB2-476A8134EDED	コマンド請求
	00003972-817C-48DF-8DB2-476A8134EDED	コマンド応答
	00003973-817C-48DF-8DB2-476A8134EDED	カード通知
電池	2A19	電池残量
デバイス情報	2A23	システム ID
	2A24	型番
	2A25	シリアルナンバー
	2A26	ファームウェアのバージョン
	2A27	ハードウェアのバージョン
	2A29	メーカー名称

表6 : ACR1555UBluetooth サービス



属性名称	UUID	ハンドル
DeviceName	2A00	06h
送信 (リーダーライター →ペアリングデバイス)	00003971-817C-48DF-8DB2-476A8134EDE0	28h
受信 (ペアリングデバイス →リーダーライター)	00003972-817C-48DF-8DB2-476A8134EDE0	2Bh
カード通知する (リーダー →ペアリングデバイス)	00003973-817C-48DF-8DB2-476A8134EDE0	2Fh
ABatteryLevel	2A19	20h
Manufacturer	2A29	19h
SerialNumber	2A25	11h
FW_Version	2A26	13h
ModelNumber	2A24	0Fh

表7 : ACR1555U のサービスハンドルと UUID メッセージリスト

5.2.3. 通信配置ファイル

通信配置ファイルが次のようになります。

開始バイト+スロットビット+長さ+保留（1バイト）+データブロック+チェックサム+終了バイト

データフィールド	大きさ (バイト)	説明
開始バイト	1	値 : 55h
スロットビット	1	カードスロット 00h : PICC、カードスロット 01h SAM
長さ	2	長さは Datablock データフィールド中のバイト数を示す
保留	1	保留
ホストのシリアルナンバー	1	ホストが新しいフレームを送信するときに 1 バイト増やす
リーダーライターシリアルナンバー	1	リーダーライターが新しいフレームを送信するときに 1 バイト増やす
データブロック	N	データ (CCID に一致するメッセージ体)
チェックサム	1	スロットビット、長さ、フレームタイプ、ホスト&リーダライタシリアル番号、およびデータメインの排他的 OR (XOR) 値
終了バイト	1	値 : AAh

5.2.4. ブルートゥース通信プロトコル

ACR1555U は、予め定義されたプロトコルを採用して、ブルートゥース・インターフェースでペアリングされたデバイスと通信します。このプロトコル、CCID コマンドチャンネルと応答チャンネルの形式に似ています。

コマンド	サポートモード	送信側	説明
62h	明文 認証済	ペアリングデバイス	PICC 電気入れる
63h	明文 認証済	ペアリングデバイス	PICC パワーオフ
65h	明文 認証済	ペアリングデバイス	カードのステータスを取得
6Fh	明文 認証済	ペアリングデバイス	APDU 交換
6Bh	明文 認証済	ペアリングデバイス	Escape コマンド
61h	明文 認証済	ペアリングデバイス	パラメーターを設定する

表8 : コマンドコードの概要

コマンド	サポートモード	送信側	説明
80h	明文 認証済	リーダー	データブロックに対しての応答
81h	明文 認証済	リーダー	カードスロットステータスに対しての応答
82h	明文 認証済	リーダー	パラメーターに対しての応答
83h	明文 認証済	リーダー	Escape コマンドに対しての応答
53h	明文 認証済	リーダー	エラーに対しての応答

表9：応答コードの概要

コマンド	サポートモード	送信側	説明
50h	明文 認証済	リーダー	カードステータスを通知する
52h	明文 認証済	リーダー	スリープモードに入るのを通知する

表10：カード通知コード概要

5.2.4.1. PC_to_RDR_IccPowerOn

スロットを活性化して、カードから ATR を返す。

オフセット	データフィールド	大きさ	数値	説明
0	bMessageType	1	62h	-
1	dwLength	4	00000000h	メッセージの余分なバイトのサイズ。
2	bSlot	1	00-01h	このコマンドのスロット番号を識別します。 00h : PICC 01h : SAM
5	bSeq	1	00-FFh	コマンドのシーケンス番号
6	bPowerSelect	1	00h-02h	ICC 用の電圧 00H - 自動電圧の選択 01H - 5 ボルト 02H - 3 ボルト
7	abRFU	2	0000h	保留して将来使います。

このメッセージの応答は RDR_to_PC_DataBlock メッセージです。返されたデータはリセット応答 (ATR) です。

5.2.4.2. PC_to_RDR_IccPowerOff

アクティベーション 状態をキャンセルします

オフセット	データフィールド	大きさ	数値	説明
0	bMessageType	1	63h	-
1	dwLength	4	00000000h	メッセージの余分なバイトのサイズ。
5	bSlot	1	00-01h	このコマンドのスロット番号を識別します。 00h : PICC 01h : SAM
6	bSeq	1	00-FFh	コマンドのシーケンス番号
7	abRFU	3	000000h	保留して将来使います。

このメッセージの応答は RDR_to_PC_Parameters メッセージです。

5.2.4.3. PC_to_RDR_GetSlotStatus

現在のカードスロットの状態を取得します。

オフセット	データフィールド	大きさ	数値	説明
0	bMessageType	1	65h	-
1	dwLength	4	00000000h	メッセージの余分なバイトのサイズ。
5	bSlot	1	00-01h	このコマンドのスロット番号を識別します。 00h : PICC 01h : SAM
6	bSeq	1	00-FFh	コマンドのシーケンス番号
7	abRFU	3	000000h	保留して将来使います。

このメッセージの応答は RDR_to_PC_Parameters メッセージです。

5.2.4.4. PC_to_RDR_XfrBlock

ICC にデータブロックを転送します。

オフセット	データフィールド	大きさ	数値	説明
0	bMessageType	1	6Fh	-
1	dwLength	4	00000000-000001E7h	このメッセージの abData データフィールドのサイズ データメインはリトルエンドフォーマットで格納されます
5	bSlot	1	00-01h	このコマンドのスロット番号を識別します。 00h : PICC 01h : SAM
6	bSeq	1	00-FFh	コマンドのシーケンス番号
7	bBWI	1	00-FFh	現在転送している CCIDs ブロックの待機タイムアウトを拡張するために使用します。 「この数値にブロックの待機時間を掛け」の期限が切れた後、CCID はブロックをタイムアウトにします。

オフセット	データフィールド	大きさ	数値	説明
8	wLevelParameter	2	-	<p>フィールドはリトルエンドフォーマットで格納されます</p> <p>TPDU レベル、RFU、= 0000h</p> <p>短 APDU レベル、RFU、= 0000h</p> <p>拡張 APDU レベル：</p> <p>APDU がコマンドで開始または終了するかどうかを標識します。</p> <p>0000h</p> <p>コマンド APDU がこのコマンドで開始および終了、</p> <p>0001h</p> <p>コマンド APDU がこのコマンドで開始して、次のコマンド PC_to_RDR_XfrBlock で継続、</p> <p>0002h</p> <p>abData データフィールドは継続にコマンド APDU を転送し、APDU コマンドを終了します。</p> <p>0003h</p> <p>abData データフィールドが継続にコマンド APDU を転送し、後にもう 1 つのデータブロックを追跡し、</p> <p>0010h</p> <p>空の abData データフィールド、次の RDR_to_PC_DataBlock が応答 APDU を転送し続ける</p>
10	abData	バイト配列	-	<p>CCID に送信されるデータブロック。データは ICC に「そのまま」送信されます (TPDU 交換レベル)</p>

このメッセージの応答は RDR_to_PC_Parameters メッセージです。

5.2.4.5. PC_to_RDR_Escape

拡張機能をアクセスする

オフセット	データフィールド	大きさ	数値	説明
0	bMessageType	1	6Bh	-
1	dwLength	4	00000000-000000FFh	このメッセージの abData データフィールドのサイズ。 データドメインはリトルエンドフォーマットで格納されます
5	bSlot	1	00h - 01h	このコマンドのスロット番号を識別します。 00h : PICC 01h : SAM
6	bSeq	1	00-FFh	コマンドのシーケンス番号
7	abRFU	3	000000h	保留して将来使います。
10	abData	バイト配列	-	CCID に送信されるデータブロック。

このメッセージの応答は RDR_to_PC_Escape メッセージです。

5.2.4.6. PC_to_RDR_SetParameters

カードスロットのパラメータを設定します。

オフセット	データフィールド	大きさ	数値	説明
0	bMessageType	1	61h	-
1	dwLength	4	00000005h もしくは 00000007h	このメッセージの abProtocolDataStructure データフィールドのサイズ。 データドメインはリトルエンドフォーマットで格納されます
5	bSlot	1	00-01h	このコマンドのスロット番号を識別します。 00h : PICC 01h : SAM
6	bSeq	1	00-FFh	コマンドのシーケンス番号

オフセット	データフィールド	大きさ	数値	説明
7	bProtocolNum	1	00-01h	<p>下記は指定されたプロトコルのデータ構造です。</p> <p>00h = T=0 プロトコル構造</p> <p>01h = T=1 プロトコル構造</p> <p>下記の値を保留して将来に使います：</p> <p>80h = 2 線プロトコルの構造</p> <p>81h = 3 線プロトコルの構造</p> <p>82h = I2C プロトコル構造</p>
8	abRFU	2	0000h	保留して将来使います。
10	abProtocolDataStructure	バイト配列	-	プロトコルのデータ構造

T=0 プロトコルのデータ構造 (dwLength=00000005h)

オフセット	データフィールド	大きさ	数値	説明
10	bmFindexDindex	1		<p>B7-4 – FI – ISO/IEC 7816-3:1997 中のテーブル 7 をインデックスして、クロックレートの変換係数を選択します。</p> <p>B3-0 – DI - ISO/IEC 7816-3:1997 中のテーブル 8 をインデックスして、ボーレートの変換係数を選択します。</p>
11	bmTCCKST0	1	00h、02h	<p>B0 – 0b, B7-2 – 000000b</p> <p>B1 – 交換用 (b1=0 : 直接 ; b1=1 : 逆)</p> <p>注 : CCID がこのビットを無視します。</p>
12	bGuardTimeT0	1	00-FFh	2 文字間の余分な GuardTime。正常な GuardTime (12 ETU) に 0–254 ETU を追加します。FFh と 00h が同じです。
13	bWaitingIntegerT0	1	00-FFh	T=0 の場合 WI が WWT を定義する時に使われます
14	bClockStop	1	00-03h	ICC クロック停止サポート

				<p>00h = クロックを停止することは許可されていません</p> <p>01h = クロック信号が低い時に停止されます</p> <p>02h = クロック信号が高い時に停止されます</p> <p>03h = クロック信号が低い時または高い時に停止されます</p>
--	--	--	--	---

T=1 プロトコルのデータ構造 (dwLength=00000007h)

オフセット	データフィールド	大きさ	数値	説明
10	bmFindexDindex	1		<p>B7-4 – FI – ISO/IEC 7816-3:1997 中のテーブル 7 をインデックスして、クロックレートの変換係数を選択します。</p> <p>B3-0 – DI - ISO/IEC 7816-3:1997 中のテーブル 8 をインデックスして、ポーレートの変換係数を選択します。</p>
11	BmTCCKST1	1	10h, 11h, 12h, 13h	<p>B7-2 – 000100b</p> <p>B0 – チェックサムタイプ (b0=0 : LRC ; b0=1 : CRC)</p> <p>B1 – 交換用 (b1=0 : 直接 ; b1=1 : 逆) 注 : CCID がこのビットを無視します。</p>
12	BGuardTimeT1	1	00-FFh	<p>余計の保護時間 (二つのキャラクタ間は 0 – 254etu) 。値は FFh である場合、保護時間が 1etu 減らします。</p>
13	BwaitingIntegerT ₁	1	00-9Fh	<p>B7-4 = BWI 値 0-9 有効</p> <p>B3-0 = CWI 値 0-Fh 有効</p>
14	bClockStop	1	00-03h	<p>ICC クロック停止サポート</p> <p>00h = クロックを停止することは許可されていません</p> <p>01h = クロック信号が低い時に停止されます</p> <p>02h = クロック信号が高い時に停止されます</p> <p>03h = クロック信号が低い時または高い時に停止されます</p>



15	bIFSC	1	00-FEh	交渉された IFSC の大きさ
16	bNadValue	1	00h	NAD = 00h だけサポートできます

このメッセージの応答は RDR_to_PC_Parameters メッセージです

5.2.4.7. RDR_to_PC_DataBlock

このコマンドは ACR1555U によって送信されて、PC_to_RDR_IccPowerOn と PC_to_RDR_XfrBlock メッセージ に対する応答です。

オフセッ ト	データフィールド	大き さ	数値	説明
0	bMessageType	1	80h	CCID がデータブロックを送信しています。
1	dwLength	4	00000000-000001E7h	このメッセージの abData データフィールドのサイズ。データドメインはリトルエンドフォーマットで格納されます
5	bSlot	1	-	Bulk-OUT メッセージ中の値と同じです。
6	bSeq	1	-	Bulk-OUT メッセージ中の値と同じです。
7	bStatus	1	-	附属 B 定義されたスロットビットステータスレジスタ
8	bError	1	-	附属 B 定義されたスロットビットエラーレジスタ
9	bChainParameter	1	-	短 APDU レベル、RFU = 00h 拡張 APDU レベル： 00h - 応答 APDU がこのコマンドで開始および終了します。 01h - 応答 APDU がこのコマンドで開始および続ける。 02h - abData データフィールドが継続に 応答 APDU を転送し、APDU 応答を終了します。 03h - abData データデータフィールドが継続に 応答 APDU を転送し、後ろ別のデータブロックが付いています。 10h - 空の abData フィールド、次の PC_to_RDR_XfrBlock はレスポンス APDU を転送し続ける
10	abData	バイト配列	-	このデータフィールドは CCID から返したデータ

5.2.4.8. RDR_to_PC_SlotStatus

このコマンドは ACR1555U によって送信されて、PC_to_RDR_IccPowerOff と PC_to_RDR_GetSlotStatus に
対しての応答です。

オフセット	データフィールド	大きさ	数値	説明
0	bMessageType	1	81h	-
1	dwLength	4	00000000h	メッセージの余分なバイトのサイズ。
5	bSlot	1	-	Bulk-OUT メッセージ中の値と同じです。
6	bSeq	1	-	Bulk-OUT メッセージ中の値と同じです。
7	bStatus	1	-	<u>附属 B</u> 定義のスロットステータスレジスタ
8	bError	1	-	<u>附属 B</u> 定義のスロットエラーレジスタ
9	bClockStatus	1	00-03h	数値 = 00h = クロック動作中 01h = L 状態に止まっている 02h = H 状態に止まっている 03h = 不明な状態に止まっている 残された値を保留して将来使います。

5.2.4.9. RDR_to_PC_Parameters

このコマンドは ACR1555U によって送信されて、PC_to_RDR_GetParameters、
PC_to_RDR_ResetParameters および PC_to_RDR_SetParameters メッセージに対しての応答です。

オフセット	データフィールド	大きさ	数値	説明
0	bMessageType	1	82h	-
1	dwLength	4	00000005h もしくは 00000007h	このメッセージの abProtocolDataStructure データフィールドのサイズ。 データメインはリトルエンドフォーマットで格納 されます
5	bSlot	1	-	Bulk-OUT メッセージ中の値と同じです。
6	bSeq	1	-	Bulk-OUT メッセージ中の値と同じです。

7	bStatus	1	-	<u>附属 B</u> 定義されたスロットビットステータスレジスタ
8	bError	1	-	<u>附属 B</u> 定義されたスロットビットエラーレジスタ
9	bProtocolNum	1	00-01h	<p>下記は指定されたプロトコルのデータ構造です。</p> <p>00h : T=0 プロトコルの構造</p> <p>01h : T=1 プロトコルの構造</p> <p>下記の値を保留して将来使います :</p> <p>80h = 2 線プロトコルの構造</p> <p>81h = 3 線プロトコルの構造</p> <p>82h = I2C プロトコル構造</p>
10	abProtocolDataStructure	バイト配列	-	プロトコルデータ構造が <u>5.2.4.6</u> 概述をご参考ください

5.2.4.10. RDR_to_PC_Escape

このメッセージは ACR1555U によって送信されて、PC_to_RDR_Escape メッセージに対しての応答です。

オフセット	データフィールド	大きさ	数値	説明
0	bMessageType	1	83h	-
1	dwLength	4	00000000-000000FFh	このメッセージの abData データフィールドのサイズ。データドメインはリトルエンドフォーマットで格納されます
5	bSlot	1	-	Bulk-OUT メッセージ中の値と同じです。
6	bSeq	1	-	Bulk-OUT メッセージ中の値と同じです。
7	bStatus	1	-	<u>附属 B</u> 定義されたスロットビットステータスレジスタ
8	bError	1	-	<u>附属 B</u> 定義されたスロットビットエラーレジスタ
9	bChainParameter	1	00h	RFU
10	abData	バイト配列	-	C C ID から送信されたデータ

5.2.4.11. RDR_to_PC_Error

デバイスが間違ったコマンドを受信した場合、このメッセージによりエラー情報を返します。

オフセット	データフィールド	大きさ	数値	説明
0	bMessageType	1	53h	-
1	dwLength	4	00000000h	メッセージの余分なバイトのサイズ。
5	bSlot	1	-	Bulk-OUT メッセージ中の値と同じです。
6	bSeq	1	-	Bulk-OUT メッセージ中の値と同じです。
7	bStatus	1	-	附属 B 定義のスロットステータスレジスタ
8	bErrorCode	1	-	01h = チェックサムエラー 02h = タイムアウト 03h = コマンドエラー 04h = 許可とれていません 05h = 未定義のエラー 06h = 受信データにエラーある 07h = 受信データの長さにエラーある 08h = 認定再試行回数超過エラー
9	abRFU	1	00h	RFU

5.2.4.12. RDR_to_PC_NotifySlotChange

このメッセージはカードの状態を通知するためにリーダ/ライタによって発行されます。

オフセット	データフィールド	大きさ	数値	説明
0	bMessageType	1	50h	-
1	bmSlotICCState	1	-	状態： 02h = PICC カードなし 03h = PICC カードある



5.2.4.13. RDR_to_PC_Sleep

このメッセージはスリープモードの状態を通知するためにリーダ/ライタによって発行されます。

オフセット	データフィールド	大きさ	数値	説明
0	bMessageType	1	52h	-
1	bParam	1	00h	RFU

5.2.5. 認証

強制暗号化が有効になっている場合、ACR1555U に機密データをロードする前に、リーダライタ内部のセキュリティデータを変更する権限を持つために、データ処理サーバは ACR1555U の認証を取得する必要があります。ACR1555U は相互認証を採用します。

良く説明するために、下の図示を参照してください（シンプルさとより良い説明のために、下の図示がブリッジデバイスを省略している）

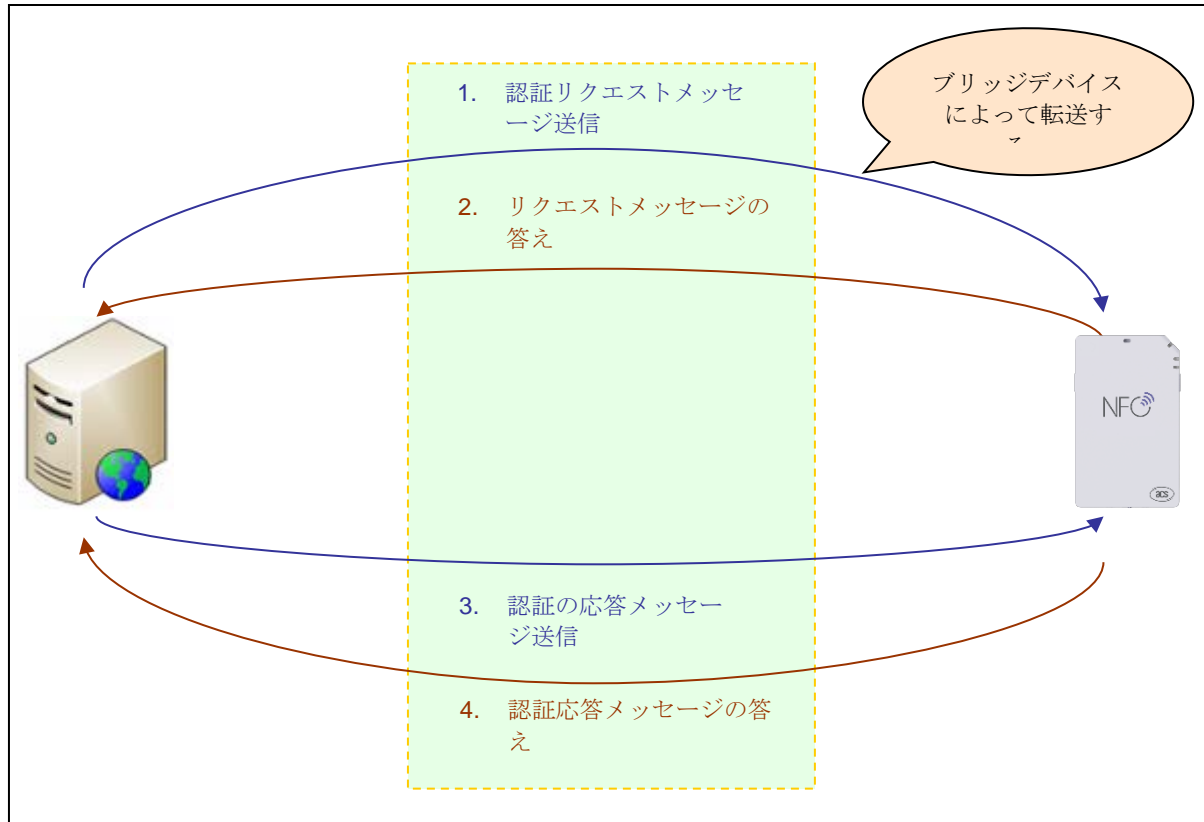


図6：認証手順

認証が成功すると、ACR1555Uとデータサーバが 16 バイトのセッションキーを生成する。

デフォルト顧客マスターキーキー（16 進法式で **41 43 52 31 35 35 35 55 2D 41 31 20 41 75 74 68**）

注意：認証鍵が間違っ 10（10）回を超えると、リーダライタはロックされるか、使用できなくなります。

詳細については、ACS 営業担当者にお問い合わせください。

5.2.6. 相互認証と暗号化プロトコル

ブルートゥースモードで相互認証が成功してから、**20**を暗号化し、転送します。

5.2.6.1. ブルートゥース認証プロセス :

認証セッションに示されるように、相互認証が man-in-the-middle 攻撃を回避するために使用されています。関連するコマンドの要約は次の表の通り :

番号	コマンド	サポートモード	送信側	説明
1	6Bh	プレーンテキスト	ペアリングデバイス	SPH_to_RDR_ReqAuth
2	83h	プレーンテキスト	リーダー	RDR_to_SPH_AuthRsp1
3	6Bh	プレーンテキスト	ペアリングデバイス	SPH_to_RDR_AuthRsp
4	83h	プレーンテキスト	リーダー	RDR_to_SPH_AuthRsp2

表11 : 相互認証コマンドの概要

5.2.6.2. SPH_to_RDR_ReqAuth

このコマンドは、ACR1555U がペアリングした鍵生成装置に対してアイデンティティ認証を要求する。

認証プロセスの詳細については、[認証セッション](#)を参照してください。

オフセット	データフィールド	大きさ	数値	説明	暗号化するか
0	bMessageType	1	6Bh	-	NO
1	wLength	4	00000005h	このメッセージの abData データフィールドのサイズ。データメインはリトルエンドフォーマットで格納されます	
5	bSlot	1	00h	このコマンドのスロット番号を識別します。 00h : PICC	
6	bSeq	1	00h	コマンドのシーケンス番号	
7	abRFU	3	000000h	保留して将来使います。	
10	abData	5	E0 00 00 73 00h	-	

受信したコマンドメッセージはエラーがない場合は、このメッセージの応答が RDR_to_SPH_AuthRsp1 になります。そうではないと、応答が RDR_to_SPH_ACK になり、エラーメッセージが提示されます。



5.2.6.3. RDR_to_SPH_AuthRsp1

このコマンドは ACR1555U によって送信されて、SPH_to_RDR_ReqAuth に対しての応答です。

オフセット	データフィールド	大きさ	数値	説明	暗号化する か
0	bMessageType	1	83h	-	NO
1	dwLength	4	00000015h	このメッセージの abRndNum データフィールドのサイズ。データドメインはリトルエンドフォーマットで格納されます	
3	bSlot	1	00h	このコマンドの-slot番号を識別します。 00h : PICC	
4	bSeq	1	00h	コマンドのシーケンス番号	
5	bStatus	1	-	附属 B 定義された-slotビットステータスレジスタ	
6	bError	1	-	附属 B 定義された-slotビットエラーレジスタ	
7	abRndNum	21	E1 00 00 73 10 + 16 バイトの乱数	abRndNum[0:15] – 16 バイトの乱数 すべて 16 バイトの乱数は現在に ACR1555U 中でストレージされている顧客マスターキーで暗号化しなければなりません。 “E1 00 00 00 00”は暗号化される必要がありません。	YES

5.2.6.4. SPH_to_RDR_AuthRsp

このコマンドは認証プロセスの第二段階です。デバイスは SPH_to_RDR_ReqAuth コマンドを ACR1555U に送信して、エラーがない場合はリーダーは RDR_to_SPH_AuthRsp1 メッセージを戻します。

RDR_to_SPH_AuthRsp1 には顧客マスターキーで暗号化された 16 バイトの乱数系列が含まれています。ペアの鍵生成装置は、正しいクライアントマスターキーを用いて復号し、16 バイトの乱数の末尾に追加した後、クライアントマスターキーを用いて 32 バイトの乱数を全部復号します。このコマンドにより結果を ACR1555U に戻し、認証が成功に終了する。

オフセット	データフィールド	大きさ	数値	説明	暗号化するか
0	bMessageType	1	6Bh	-	NO
1	LEN1 LEN2 (wLength)	2	00000025h	このメッセージの abAuthData データフィールドのサイズ。データメインはリトルエンドフォーマットで格納されます	
3	bSlot	1	00h	このコマンドのスロット番号を識別します。 00h : PICC	
4	bSeq	1	00h	コマンドのシーケンス番号	
5	bStatus	1	-	附属 B 定義されたスロットビットステータスレジスタ	
6	bError	1	-	附属 B 定義されたスロットビットエラーレジスタ	
7	abAuthData	37	E0 00 00 74 20 + 32 バイト の乱数	abAuthData[0:15] – データ処理サーバに生成された 16 バイトの乱数 abAuthData[16:31] – ACR1555U に受信された 16 バイトの復号化した乱数。 すべての 32 バイトの乱数を AES128 CBC 暗号化モードで顧客マスターキーを使用して、復号化します。 “E0 00 00 74 20”は復号化される必要がありません。	YES



受信されたコマンドメッセージ正しくて、ペアリングしたデバイスに返された乱数も正しい場合、このメッセージの応答は RDR_to_SPH_AuthRsp2 です。そうじゃないと、エラーメッセージが提供された応答 RDR_to_SPH_ACK を受信されます。



5.2.6.5. RDR_to_SPH_AuthRsp2

このコマンドは ACR1555U によって送信されて、SPH_to_RDR_AuthRsp に対しての応答です。

オフセット	データフィールド	大きさ	数値	説明	暗号化するか
0	bMessageType	1	83h	-	NO
1	dwLength	2	00000015h	このメッセージの abRndNum データフィールド。データメインはリトルエンドフォーマットで格納されます	NO
3	bSlot	1	00h	このコマンドのスロット番号を識別します。 00h : PICC	NO
4	bSeq	1	00h	コマンドのシーケンス番号	NO
5	bStatus	1	-	附属 B 定義されたスロットビットステータスレジスタ	NO
6	bError	1	-	附属 B 定義されたスロットビットエラーレジスタ	NO
20	abRndNum	21	E1 00 00 74 10 + 16 バイトの乱数	abRndNum[0:15] – データ処理サーバに受信された 16 バイトの乱数 すべて 16 バイトの乱数は現在に ACR1555U 中でストレージされている顧客マスターキーで暗号化しなければなりません “E1 00 00 74 10”は暗号化される必要があります。。	YES

5.2.6.6. RDR_to_SPH_ACK (エラー処理)

このメッセージは、いくつかのコマンドメッセージが受信されたことを確認するために ACR1555U によってペアリングデバイスに送信されたエラー処理確認メッセージです。通信中、すべて示されたエラーメッセージは RDR_to_SPH_ACK で転送しなければなりません。このコマンドが暗号化されていません。

コマンド	サポートモード	送信側	説明
51h	明文 認証済	リーダー	RDR_to_SPH_ACK (错误処理)

必要に応じてメッセージにエラーコードが含まれます。

オフセット	データフィールド	大きさ	数値	説明	暗号化するか
0	bMessageType	1	53h	エラー処理の応答ヘッダ	No
1	dwLength	4	00000000h	このメッセージに余計データのサイズ	
5	bSlot	1	-	Bulk-OUT メッセージ中の値と同じ	
6	bSeq	1	-	Bulk-OUT メッセージ中の値と同じ	
7	bStatus	1	-	附属 B 定義されたスロットビットステータスレジスタ	
8	bErrorCode	1	-	前に処理したコマンドメッセージのエラーコードを示します。可能性があるエラーコードは下記の表を確認ください	
9	abRFU	1	-	RFU	



データフィールド	数値	説明
bErrorCode	01h	チェックサムエラー
	02h	タイムアウト?
	03h	コマンドエラー
	04h	許可されていない
	05h	未定義のエラー
	06h	受信データエラー。
	07h	受信データ長さエラー。
	08h	認証再試行回数超過エラー

表12 : 相互認証エラーコード



5.3. PCSC API

このセクションでは、アプリケーションプログラミング用の PCSC API について説明します。これらの API の詳細について、Microsoft MSDN ライブラリまたは PCSC ワークグループ仕様サイトを参照してください。

5.3.1. SCardEstablishContext

SCardEstablishContext 関数はデータベース操作を実行するリソースマネージャのコンテキストを確立するためです。

参照してください：<http://msdn.microsoft.com/en-us/library/windows/desktop/aa379479%28v=vs.85%29.aspx>

他の PCSC アクションを実行する前に、この関数を実行してください。

```
#define SCARD_SCOPE_USER 0

SCARDCONTEXT hContext;
int retCode;
void main ()
{
    // To establish the resource manager context and assign it to "hContext"
    retCode = SCardEstablishContext(SCARD_SCOPE_USER,
                                    NULL,
                                    NULL,
                                    &hContext);
    if (retCode != SCARD_S_SUCCESS)
    {
        // Establishing resource manager context failed
    }
    else
    {
        // Establishing resource manager context successful
        // Further PCSC operation can be performed
    }
}
```

例：



5.3.2. SCardListReaders

SCardListReaders 関数を使用して、システム内に指定されたカードリーダーグループコレクション内のカードリーダーリストを取得します（重複項目排除）。

呼び出し側がカードリーダーグループのリストを提供して、関数が指定されたグループ内のカードリーダー名のリストを返す。認識できないグループの名前は無視されます。この関数が現在システムに利用できるグループ中のリーダーだけ返されます。

参照してください：<http://msdn.microsoft.com/en-us/library/windows/desktop/aa379793%28v=vs.85%29.aspx>

例：

```
#define SCARD_SCOPE_USER 0

SCARDCONTEXT hContext; // Resource manager context
int retCode;
char readerName [256]; // List reader name

void main ()
{
    To establish the resource manager context and assign to "hContext"
    retCode = SCardEstablishContext(SCARD_SCOPE_USER,
                                   NULL,
                                   NULL,
                                   &hContext);
    if (retCode != SCARD_S_SUCCESS)
    {
        // Establishing resource manager context failed
    }
    else
    {
        // Establishing resource manager context successful
        // List the available reader which can be used in the system
        retCode = SCardListReaders (hContext,
                                    NULL,
                                    readerName,
                                    &size);
        if (retCode != SCARD_S_SUCCESS)
        {
            // Listing reader fail
        }
        if (readerName == NULL)
        {
            // No reader available
        }
        else
        {
            // Reader listed
        }
    }
}
```



5.3.3. SCardConnect

SCardConnect 関数は特定のエクスプローラコンテキストを使用して、アプリケーションと特定のカードリーダーに含まれるスマートカードとの間の接続を確立します。特定のリーダー中にはカードがない場合、エラーメッセージが返されます。

参照してください：<http://msdn.microsoft.com/en-us/library/windows/desktop/aa379473%28v=vs.85%29.aspx>

例：

```
#define SCARD_SCOPE_USER 0

SCARDCONTEXT    hContext;           // Resource manager context
SCARDHANDLE     hCard;              // Card context handle
unsigned long   dwActProtocol;      // Establish active protocol
int             retCode;
char            readerName [256];   // List reader name
char            rName [256];       // Reader name for connection

void main ()
{
    ...
    if (readerName == NULL)
    {
        // No reader available
    }
    else
    {
        // Reader listed
        rName = "ACS ACR1555 1S CL Reader PICC 0"; // Depends on what
                                                    // reader be used
                                                    // Should connect to
                                                    // PICC interface

        retCode = SCardConnect(hContext,
                                rName,
                                SCARD_SHARE_SHARED,
                                SCARD_PROTOCOL_T0,
                                &hCard,
                                &dwActProtocol);
        if (retCode != SCARD_S_SUCCESS)
        {
            // Connection failed (May be because of incorrect reader
            // name, or no card was detected)
        }
        else
        {
            // Connection successful
        }
    }
}
```

5.3.4. SCardControl

SCardControl 関数は、SCardConnect 関数を正常に呼び出した後、SCardDisconnect 関数を正常に呼び出す前にいつでも呼び出すことができるカードリーダーの直接制御を提供します。リーダーの状態に対する影響は、制御コードに依存しています。

参照してください：<http://msdn.microsoft.com/en-us/library/windows/desktop/aa379474%28v=vs.85%29.aspx>

注：**直接命令**中のコマンドはこの API を使用して送信する必要があります。

例：

```
#define SCARD_SCOPE_USER    0

#define EscapeCommand 0x310000 + 3500*4
SCARDCONTEXT            hContext;           // Resource manager context
SCARDHANDLE              hCard;             // Card context handle
unsigned long            dwActProtocol;     // Established active protocol
int                      retCode;
char                    readerName [256];  // Lists reader name
char                    rName [256];      // Reader name for connection
BYTE                    SendBuff[262],     // APDU command buffer
                       RecvBuff[262];    // APDU response buffer
BYTE                    FWVersion [20],   // For storing firmware
                       // version message
BYTE                    ResponseData[50]; // For storing card response
DWORD                   SendLen,          // APDU command length
                       RecvLen;          // APDU response length

void main ()
{
    ...
    rName = "ACS ACR1555 1S CL Reader PICC 0"; // Depends on what
                                                // reader will be used
                                                // Should connect to
                                                // PICC interface

    retCode = SCardConnect(hContext,
                           rName,
                           SCARD_SHARE_DIRECT,
                           SCARD_PROTOCOL_T0 | SCARD_PROTOCOL_T1,
                           &hCard,
                           &dwActProtocol);
    if (retCode != SCARD_S_SUCCESS)
    {
        // Connection failed (may be because of incorrect reader
        // name, or no card was detected)
    }
    else
    {
        // Connection successful
        RecvLen = 262;
        // Get firmware version
        SendBuff[0] = 0xE0;
        SendBuff[1] = 0x00;
        SendBuff[2] = 0x00;
        SendBuff[3] = 0x18;
        SendBuff[4] = 0x00;
    }
}
```



```
SendLen = 5;
retCode = SCardControl ( hCard,
    EscapeCommand,
    SendBuff,
    SendLen,
    RecvBuff,
    RecvLen,
    &RecvLen);
if (retCode != SCARD_S_SUCCESS)
{
    // APDU sending failed
    return;
}
else
{
    // APDU sending successful
    // The RecvBuff stores the firmware version message.
    for (int i=0;i< RecvLen-5;i++)
    {
        FWVersion[i] = RecvBuff [5+i];
    }
}
// Connection successful
RecvLen = 262;

// Turn Green LED on, turn Red LED off
SendBuff[0] = 0xE0;
SendBuff[1] = 0x00;
SendBuff[2] = 0x00;
SendBuff[3] = 0x29;
SendBuff[4] = 0x01;
SendBuff[5] = 0x02; // Green LED On, Red LED off
SendLen = 6;
retCode = SCardControl ( hCard,
    EscapeCommand,
    SendBuff,
    SendLen,
    RecvBuff,
    RecvLen,
    &RecvLen);
if (retCode != SCARD_S_SUCCESS)
{
    // APDU sending failed
    return;
}
else
{
    // APDU sending success
}
```

5.3.5. SCardTransmit

SCardTransmit 関数はサービス請求をスマートカードに送信するために、またはスマートカードから返されるデータを受信するために使われます。

参照してください：<http://msdn.microsoft.com/en-us/library/windows/desktop/aa379804%28v=vs.85%29.aspx>

注：このAPIでAPDUコマンド（即ち：接続を確立されたカードに送信するコマンド PICC 的 PCSC 私有 APDU（帯専有拡張）と PICC 的 専属私有 APDUを送信します。

例：

```
#define SCARD_SCOPE_USER      0

SCARDCONTEXT      hContext;          // Resource manager context
SCARDHANDLE       hCard;             // Card context handle
unsigned long     dwActProtocol;     // Established active protocol
int               retCode;
char              readerName [256];  // List reader name
char              rName [256];      // Reader name for connect
BYTE              SendBuff[262];     // APDU command buffer
BYTE              RecvBuff[262];     // APDU response buffer
BYTE              CardID [8],        // For storing the FeliCa IDM/
                                      MIFARE UID
BYTE              ResponseData[50];  // For storing card response
DWORD             SendLen,           // APDU command length
DWORD             RecvLen;           // APDU response length
SCARD_IO_REQUEST  ioRequest;

void main ()
{
    ...
    rName = "ACS ACR1555 1S CL Reader PICC 0"; // Depends on what
                                                // reader should be used
                                                // Should connect to PICC
                                                // interface

    retCode = SCardConnect(hContext,
                           rName,
                           SCARD_SHARE_SHARED,
                           SCARD_PROTOCOL_T0,
                           &hCard,
                           &dwActProtocol);
    if (retCode != SCARD_S_SUCCESS)
    {
        // Connection failed (May be because of incorrect reader
        // name, or no card was detected)
    }
    else
    {
        // Connection successful
        ioRequest.dwProtocol = dwActProtocol;
        ioRequest.cbPciLength = sizeof(SCARD_IO_REQUEST);
        RecvLen = 262;
    }
}
```



```
// Get MIFARE UID/ FeliCa IDM
SendBuff[0] = 0xFF;
SendBuff[1] = 0xCA;
SendBuff[2] = 0x00;
SendBuff[3] = 0x00;
SendBuff[4] = 0x00;
SendLen = 5;
retCode = SCardTransmit( hCard,
                        &ioRequest,
                        SendBuff,
                        SendLen,
                        NULL,
                        RecvBuff,
                        &RecvLen);

if (retCode != SCARD_S_SUCCESS)
{
    // APDU sending failed
    return;
}
else
{
    // APDU sending successful
    // The RecvBuff stores the IDM for FeliCa / the UID for
    MIFARE.
    // Copy the content for further FeliCa access
    for (int i=0;i< RecvLen-2;i++)
    {
        CardID [i] = RecvBuff[i];
    }
}
```




5.3.6. SCardDisconnect

SCardDisconnect 関数は前に確立されたアプリケーションとターゲットリーダー間の接続を終了するためです。。

参照してください : <http://msdn.microsoft.com/en-us/library/windows/desktop/aa379475%28v=vs.85%29.aspx>

この関数が PCSC 操作をエンドするために使用されます。

例 :

```
#define SCARD_SCOPE_USER 0

SCARDCONTEXT      hContext;          // Resource manager context
SCARDHANDLE       hCard;             // Card context handle
unsigned long     dwActProtocol;     // Established active protocol
int               retCode;

void main ()
{
    ...
    // Connection successful
    ...
    retCode = SCardDisconnect(hCard, SCARD_RESET_CARD);
    if (retCode != SCARD_S_SUCCESS)
    {
        // Disconnection failed
    }
    else
    {
        // Disconnection successful
    }
}
}
```

5.3.7. APDU の流れ

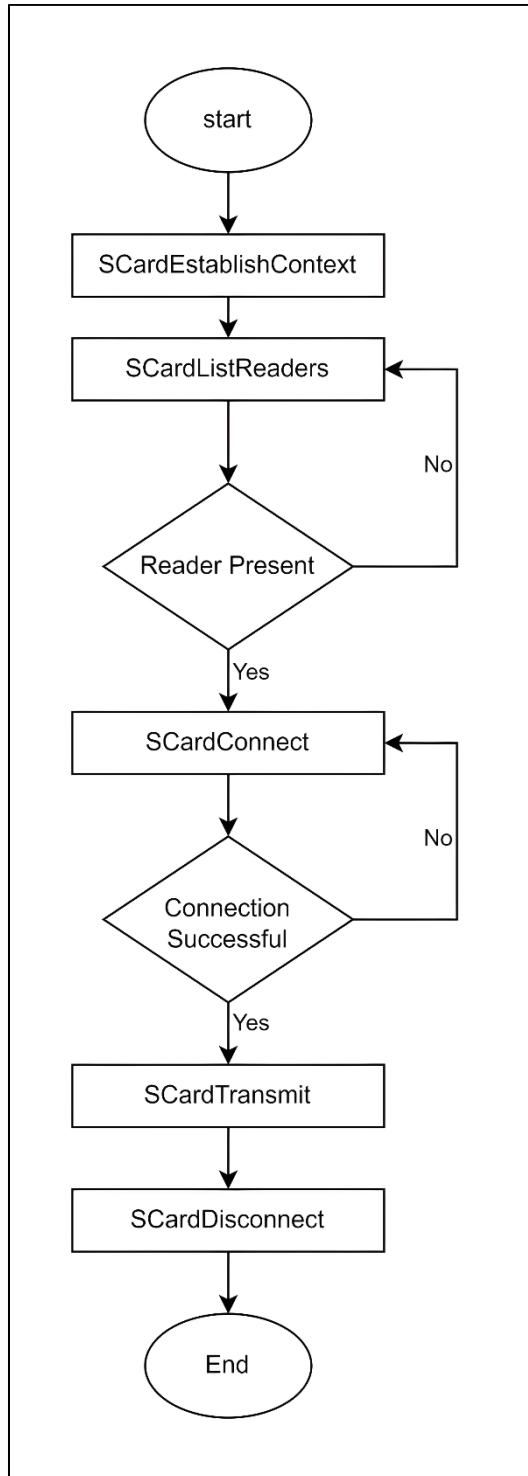


図7 : ACR1555U の APDU 流れ

5.3.8. 直接なコマンドの流れ

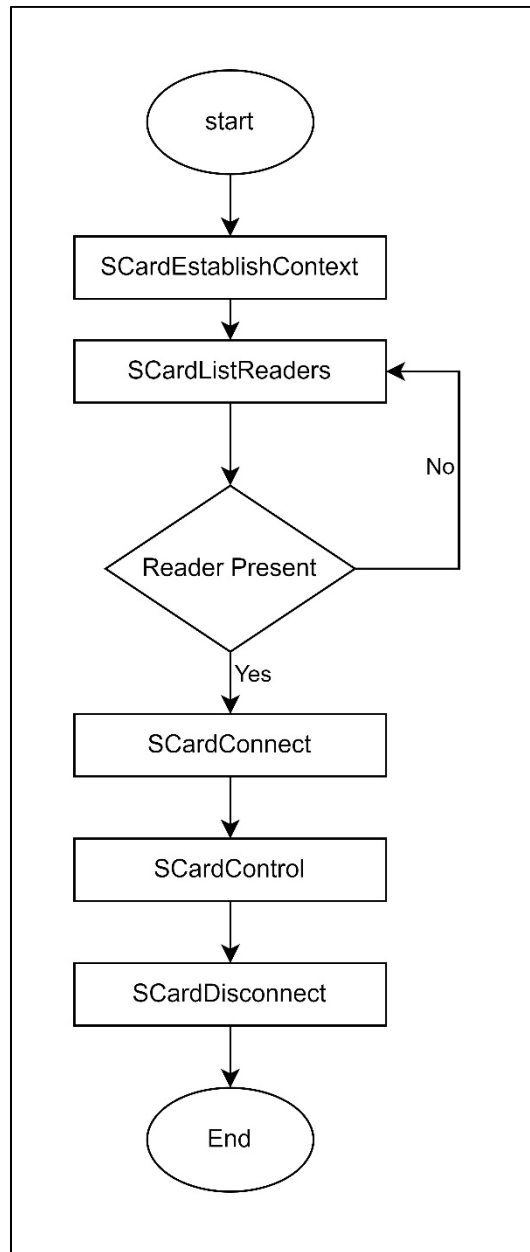


図8 : ACR1555U 直接コマンドの流れ

5.4. 接触式スマートカードプロトコル

5.4.1. ACOS6-SAM カードコマンド

このセクションでは、SAM 専用のコマンドを説明します。CCID ホストが PCSC API 中の SCardTransmit () に対応する CCID メッセージ PC _ to _ RDR _ XfrBlock を使用して、カードリーダーにカードアドミニストレーションコマンドまたは APDU を送信することができます。

注：ACOS 6-SAM コマンドのすべての情報とアプリケーションシーンについては、ACS 営業担当者に問い合わせ、ACOS 6-SAM リファレンスマニュアルを請求してください。

5.4.1.1. キー生成 (Generate Key)

このコマンドは、顧客カードのシリアル番号などの偏差データを用いて分散鍵を生成し、ACOS 3/6 または他のカードに導入することで、顧客カード発行の目的を満たす。

APDU	説明
CLA	80h
INS	88h
	00h 8 バイトのキーを生成する
P1	01h 16 バイトのキーを生成する
	02h 24 バイトのキーを生成する
P2	導出鍵を生成するためのマスター鍵の鍵インデックス
P3	08h
データ	データ入力：

特定の応答ステータスバイト

SW1 SW2	説明
69 86h	DF 未選択
6A 86h	P1 もしくは P2 無効
67 00h	P3 が正しくない、08h でなければならない
6A 83h	指定された鍵レコードが EF 2 には見つかりません
69 81h	無効な EF2 (レコードサイズ、ファイルタイプなど)
6A 88h	EF2 が見つかりません
62 83h	現在の DF はロックされている; EF2 がロックされている
69 83h	使用カウンタはゼロです。



SW1	SW2	説明
69	82h	セキュリティ条件が満たされていない
6A	87h	指定されたマスターキーは 3-DES 暗号化サポートしない
61	08h	コマンドが完了、結果を得るために GET REPOSE を送信する

5.4.1.2. キーデータ分散化（もしくはロード）（Diversify (or Load) Key Data）

このコマンドは、鍵分散と鍵ロードによって SAM カードに暗号化操作を実行する準備をさせます。コマンドデータ入力として、シリアル番号と CBC 初期ベクトルを取ります。

APDU	説明								
CLA	80h								
INS	72h								
	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0	説明
	-	0	0	0	0	0	0	1	パスワード(Sc)
	-	0	0	0	0	0	1	0	アカウントキー(K _{ACCT})
	-	0	0	0	0	0	1	1	エンドキー
P1	-	0	0	0	0	1	0	0	カードキー
	-	0	0	0	0	1	0	1	キーを一括に暗号化する（分散しない）
	-	0	0	0	0	1	1	0	初期ベクトル
	0	-	-	-	-	-	-	-	16 バイトのキー
	1	-	-	-	-	-	-	-	24 バイトのキー
マスターキーの索引 : Bit7: 1 =現在 EF2 中のローカルキー ; P2 0 =グローバルキー EF2 Bit6-Bit5: 00b - RFU Bit4-Bit0: キーインデックス									
P1 = 1~4 の場合、P3 = 8/16（アルゴリズムが AES の場合、P3 = 8/16） P1 = 5 の場合、P3 = 0 P3 P1 = 6 の場合、 P3 = 8（マスターキーの Algo は DES / 3DES / 3KDES） P3 = 16（マスターキーの Algo は AES）									
データ	P1 = 1-4 の場合、クライアントカードのシリアル番号（algo が AES の場合、データはクライアントカードのシリアル番号またはクライアントカードのシリアル番号に「0000000000000000」が付加されます） P1 = 5 の場合、コマンドデータはありません。 P1 = 6 の場合、DES / 3DES / 3KDES / AES CBC の初期ベクトル。								

特定の応答ステータスバイト

SW1 SW2	説明
69 86h	DF 未選択
6A 86h	間違った P1、P1 は 1～6 でなければなりません
67 00h	間違った P3、P3 は 8 (または 0)
62 83h	現在の DF がロックされているか、または EF2 がロックされている
69 82h	セキュリティ条件が満たされていない
6A 88h	EF2 が見つかりません
6A 83h	EF2 に指定マスターキーが見つかりません
69 81h	無効な EF2 (FDB、MRL など、一貫性がない)
6A 87h	指定された KEY 認証できない
69 83h	参照されたキーがロックされています
90 00h	ターゲットキーが生成され、SAM メモリに準備されている

5.4.1.3. 暗号化 (Encrypt)

このコマンドは、DES または 3DES を使用して次のいずれかの方法でデータを暗号化します。

1. ACOS3 / 6、DESFire®、DESFire® EV1 または MIFARE Plus カードとの相互認証手順によって作成されたセッションキー。
2. 分散化した鍵 (パスワード)。
3. キーを一括に暗号化する。
4. セッション鍵で分散化したパスワードを暗号化します。
5. 非 SM コマンドを指定して、ACOS3 セキュア・メッセージング・コマンドを作成します。

APDU	説明
CLA	80h
INS	74h



APDU		説明								
		b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0	説明
		-	0	0	0	0	0	0	-	ECB モード
		-	0	0	0	0	0	1	-	CBC モード
		-	0	0	0	0	1	0	-	小売 MAC モード
		-	0	0	0	0	1	1	-	MAC モード
		-	0	0	0	1	0	0	-	ACOS3 SM コマンド用意する
		-	1	0	0	1	0	1	-	MIFARE DESFire 暗号化
P1		-	1	0	0	1	1	0	-	MIFARE DESFire EV1 暗号化
		-	0	0	0	1	1	1	-	CMAC
		-	0	1	0	0	0	0		MIFARE Plus コマンド
		-	0	1	0	0	0	1		MIFARE Plus 応答
		0	-	-	-	-	-	-	0	3DES
		0	-	-	-	-	-	-	1	DES
		1	-	-	-	-	-	-	0	3K DES
		1	-	-	-	-	-	-	1	AES
		-	-	-	-	-	-	-	-	他のすべての値 - RFU
<p>P2 は、Load Key 機能を使用して SAM セットに分散された鍵を表します。</p> <p>1 - セッションキー-Ks でデータを暗号化する 2 - 多様なキー-Sc でデータを暗号化する 3 - 一括暗号鍵でデータを暗号化する 0 - ENC (Sc, Ks) を返す</p> <p>P2</p> <p>P1.b3 = 1 または b5 = 1 の場合、P2 は 1 でなければなりません P2 = 0h の場合、P1 は 0 または 1 のいずれかになります</p>										
<p>P3 < 128</p> <p>P1 のビット 3 が 1 に等しくなく、P1 のビット 5 が 1 に等しくない場合</p> <p>P3</p> <p>- P2 = 1-3 の場合、8 (DES / 3DES / 3KDES) の倍数または 16 バイト (AES) の 128 バイト - P2 = 0 の場合、0</p>										

APDU 説明

プレーンテキスト

P2 b6 = 1 の場合、データのフォーマットが次のようになります :

- プレーンテキストデータの長さ
- DESFire カードのコマンドとヘッダーの長さ
- DESFire カードのコマンドとヘッダー
- プレーンテキスト

P1 = A1h、の場合、暗号化は Plus コマンド用です

データ

- MFP コマンドが値操作コマンドの場合、データのフォーマットは Command Code (1 バイト) + BlockNum (2/4 バイト) + Value (4 バイト) でなければなりません。
- MFP Command が Proximity Check の場合、データフォーマットは Command Code (1 バイト) + PPS1 (1 バイト) でなければなりません。
- MFP コマンドが読み取りの場合、データフォーマットは Command code(1 バイト) +BlockNum (2 バイト)
- MFP コマンドが書き込みである場合、データフォーマットは Command code (1 バイト) + BlockNum (2 バイト) +plaintext

P1 = A3h、

- ICC によって返されたデータ (SC コードは含まず、RMAC が存在する場合は RMAC を含まない)

特定の応答ステータスバイト

SW1 SW2	説明
69 86h	DF 未選択
6A 86h	P1 もしくは P2 無効
67 00h	P3 正しくない
6A 83h	ACOS ターゲットキーが準備されていません (キーを生成するために Diversify を使用してください)
61 XX	暗号化が行われ、結果を得るために GET RESPONSE を使用する

5.4.1.4. 復号化 (Decrypt)

このコマンドは、DES または 3DES または AES を使用して次のいずれかを使用してデータを復号化するために使用されます。

1. ACOS3/6、MIFARE DESFire、MIFARE DESFire EV1またはMIFARE Plusカードとの相互認証手順によって作成されたセッションキー。
2. 多様化した鍵 (パスワード)。
3. Aバルク暗号化キー。
4. セッション鍵で多様化したパスワードを解読化します。
5. ACOS3の安全なメッセージングの応答を確認し、解読する。

ACOS3の安全なメッセージングの応答を確認し、解読する。

APDU		説明								
CLA	80h									
INS	76h									
		b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0	説明
		-	0	0	0	0	0	0	-	ECB モード
		-	0	0	0	0	0	1	-	CBC モード
		-	0	0	0	1	0	0	-	ACOS3の安全なメッセージングの応答を確認し、解読する。
P1		-	1	0	0	1	0	1	-	MIFARE DESFire で復号化
		-	1	0	0	1	1	0	-	MIFARE DESFire EV1 で復号化
		-	0	1	0	0	1	0	-	MIFARE Plus 復号化
		0	-	-	-	-	-	-	0	3DES
		0	-	-	-	-	-	-	1	DES
		1	-	-	-	-	-	-	0	3K DES
		1	-	-	-	-	-	-	1	AES
		0	0	0	0	-	-	-	-	他のすべての値 - RFU
<p>P 2 は、Load Key 機能を使用して SAM セットに分散された鍵を表します。</p>										
P2		1 - セッションキー-Ks でデータを復号化する								
		2 - 多様なキー-Sc でデータを復号化する								
		3 - 一括暗号鍵でデータを復号化する								
		0 - DEC (Sc、Ks) を返す								



APDU	説明
P3	<p>P3 < 128</p> <p>P1 = A5h の場合、P3 = 16/32/48</p> <p>P1 のビット 3 が 1 に等しくない場合</p> <ul style="list-style-type: none"> - P2 = 1-3 の場合、8 (DES / 3DES / 3KDES) の倍数または 16 バイト (AES) の 128 バイト - P2 = 0 の場合、0
	<p>暗号文</p> <p>P1 = A5h の場合、データが暗号化されたテキスト</p> <p>P2 b6 = 1 の場合、データのフォーマットが次のようになります :</p> <p>データ</p> <ul style="list-style-type: none"> • Plain テキストデータの長さ (不明の場合は 00 を使用) • DESFire カードのコマンドとヘッダーの長さ • DESFire カードのコマンドとヘッダー • 暗号化されたテキスト

特定の応答ステータスバイト

SW1 SW2	説明
69 86h	DF 未選択
6A 86h	P1 もしくは P2 無効
67 00h	P3 正しくない
6A 83h	ACOS ターゲットキーが準備されていません (キーを生成するために Diversify を使用してください)
61 XX	解読化が行われ、結果を得るために GET RESPONSE を使用する

5.4.1.5. 認証準備 (Prepare Authentication)

このコマンドは、ACOS 3/6、MIFARE Ultralight C/MIFARE DESFire/MIFARE Plus カードに対して SAM カード（端末として）を認証するために使用されます。

APDU	説明
CLA	80h
INS	78h
P1	00h – 3DES 01h – DES 02h – 3KDES (MIFARE DESFire EV1/ACOS3) 03h – AES (MIFARE DESFire EV1/MIFARE Plus/ACOS3) 80h – 3DES (MIFARE DESFire 認証のみ) 81h – DES (MIFARE DESFire 認証のみ) 他 – RFU
P2	0h - ACOS3 / 6 が認証を返すことを確認する 01h - MIFARE 超軽量 C / DESFire 認証（多様化）ターミナルキー 05h - MIFARE Ultralight C / DESFire は一括暗号鍵で認証します 02h - MIFARE Plus 認証 SL1 から SL3 の最初の認証 03h - MIFARE Plus 認証。SL1 から SL2 への認証。 04h - MIFARE Plus 認証。SL2 から SL3 への認証に続きます。
P3	8 – (P1 = 00h, 01h, 02h, 80h, 81h) 16 – (P1 = 03h)
データ	カードチャレンジデータ

特定の応答ステータスバイト

SW1 SW2	説明
69 86h	DF 未選択
6A 86h	P1 もしくは P2 無効
67 00h	P3 が正しくない、08h でなければならない
6A 83h	ACOS キー（KT または KC）が準備できていない（Diversify でこのキーを生成してください）
69 82h	セキュリティ条件が満たされていない
61 10h	コマンドが完了、結果を得るために GET REPOSE を送信する

5.4.1.6. 照合認証 (Verify Authentication)

このコマンドは、ACOS 3/6、MIFARE Ultralight C、MIFARE DESFire/MIFARE DESFire EV1 または MIFARE Plus カードが端末に対する正当性を検証するために使用され、内部でプロセスキー-Ks も生成されます。

APDU	説明
CLA	80h
INS	7Ah
P1	00h – 3DES (P2 = 0) 01h – DES (P2 = 0) 02h – 3KDES (P2 = 0, ACOS3) 03h – AES (P2 = 0, ACOS3) 他 – RFU
P2	00h - ACOS3 /6 認証で返されたメッセージを検証する 01h - MIFARE Ultralight C®/ DESFire®/ DESFire® EV1 認証で返されたメッセージを検証する 02h - MIFARE Plus の認証状況を確認する
P3	08h - (P2 = 0、P2 = 1、セッションキーは DES / 3DES) 16h - (P2 = 1、セッションキーは 3KDES / AES 使用) 16h - (P2 = 02、MIFARE Plus がリターンデータ ek (RndA ')) 32h - (P2 = 02、MIFARE Plus がリターンデータ ek (TI + PICCcap2 + PCDcap2))
データ	ACOS 3/6 : DES (K _s , RND _T) MIFARE DESFire/ DESFire EV1 がリターンデータ : ek(RndA ') MIFARE Plus がリターンデータ ek (RndA ') または ek (TI + PICCcap2 + PCDcap2)

特定の応答ステータスバイト

SW1 SW2	説明
69 86h	DF 未選択
6A 86h	P1 もしくは P2 無効
67 00h	P3 が正しくない、08h でなければならない
6A 83h	ACOS-SAM セッションキーまたは RNDT は準備ができていません。PREPARE AUTHENTICATION を使用してこれらのキーを作成します。
69 82h	データ正しくない



SW1	SW2	説明
90	00h	データ正しくて ACOS 相互認証成功

5.4.1.7. ACOS クエリアカウントチェック (Verify ACOS Inquire Account)

このコマンドは、ACOS3 / 6 カードの Inquire Account purse コマンドを確認するために使用します。それは、ACOS3 / 6 によって返された MAC チェックサムが、SAM の多様化された鍵で正しいことを検証する。

APDU	説明								
CLA	80h								
INS	7Ch								
	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0	説明
	-	0	0	0	0	-	0	-	ACOS INQ_AUT 無効
	-	0	0	0	0	-	1	-	ACOS INQ_AUT 有効
	-	0	0	0	0	0	-	-	ACOS INQ_ACC_MAC 無効
P1	-	0	0	0	0	1	-	-	ACOS INQ_ACC_MAC 無効
	0	-	-	-	-	-	-	0	3DES
	0	-	-	-	-	-	-	1	DES
	1	-	-	-	-	-	-	0	3K DES (ACOS3 のみ)
	1	-	-	-	-	-	-	1	AES (ACOS3 のみ)
P2	0h								
P3	1Dh								
データ	クライアントの ACOS カードの INQUIRE ACCOUNT によって返されるデータブロック。以下を参照してください。								

特定の応答ステータスバイト

SW1 SW2	説明
69 86h	DF 未選択
6A 86h	P1 もしくは P2 無効
67 00h	P3 正しくない
6A 83h	ACOS キー-Ks または K _{ACCT} は準備ができていません。K _{ACCT} 生成するには DIVERSIFY コマンドを使用します。該当する場合は、「Prepare Authentication」を介して K _s を生成します。
6F 00h	データブロックの MAC が正しくありません
90 00h	データブロックの MAC が正しい

5.4.1.8. ACOS アカウント取引準備 (Prepare ACOS Account Transaction)

ACOS3 / 6 クレジット/デビットコマンドを作成するには、ACOS3 / 6 が検証するために MAC を計算する必要があります。

APDU	説明																																				
CLA	80h																																				
INS	7Eh																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>b7</th> <th>b6</th> <th>b5</th> <th>b4</th> <th>b3</th> <th>b2</th> <th>b1</th> <th>b0</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>-</td> <td>ACOS TRNS_AUT 無効</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>ACOS TRNS_AUT 有効</td> </tr> </tbody> </table>	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0	説明	-	0	0	0	0	0	0	-	ACOS TRNS_AUT 無効	-	0	0	0	0	0	1	-	ACOS TRNS_AUT 有効									
b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0	説明																													
-	0	0	0	0	0	0	-	ACOS TRNS_AUT 無効																													
-	0	0	0	0	0	1	-	ACOS TRNS_AUT 有効																													
P1	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0</td> <td>3DES</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>DES</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0</td> <td>3K DES (ACOS3 のみ)</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>AES (ACOS3 のみ)</td> </tr> </tbody> </table>	0	-	-	-	-	-	-	0	3DES	0	-	-	-	-	-	-	1	DES	1	-	-	-	-	-	-	0	3K DES (ACOS3 のみ)	1	-	-	-	-	-	-	1	AES (ACOS3 のみ)
0	-	-	-	-	-	-	0	3DES																													
0	-	-	-	-	-	-	1	DES																													
1	-	-	-	-	-	-	0	3K DES (ACOS3 のみ)																													
1	-	-	-	-	-	-	1	AES (ACOS3 のみ)																													
P2	E2h: クレジット E6h: デビット																																				
P3	0Dh																																				
データ	データブロック																																				

特定の応答ステータスバイト

SW1 SW2	説明
69 86h	DF 未選択
6A 86h	P1 もしくは P2 無効
67 00h	P3 が正しくない、必ず 0Dh
6A 83h	ACOS キー-Ks または K _{ACCT} は準備ができていません。K _{ACCT} 生成するには DIVERSIFY コマンドを使用します。該当する場合は、「Prepare Authentication」を介して Ks を生成します。
61 0Bh	コマンドが完了、結果を得るために GET REPOSE を送信する

5.4.1.9. デビット証明書認証 (Verify Debit Certificate)

ACOS3 / 6 の場合、DEBIT コマンドに P1 = 1 が指定されている場合は、借方の証明書が返されます。デビット証明書は、ACOS3 の応答をこのコマンドの結果と比較することによって確認できます。



APDU	説明																																				
CLA	80h																																				
INS	70h																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>b7</th> <th>b6</th> <th>b5</th> <th>b4</th> <th>b3</th> <th>b2</th> <th>b1</th> <th>b0</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>-</td> <td>ACOS TRNS_AUT 無効</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>ACOS TRNS_AUT 有効</td> </tr> </tbody> </table>	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0	説明	-	0	0	0	0	0	0	-	ACOS TRNS_AUT 無効	-	0	0	0	0	0	1	-	ACOS TRNS_AUT 有効									
b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0	説明																													
-	0	0	0	0	0	0	-	ACOS TRNS_AUT 無効																													
-	0	0	0	0	0	1	-	ACOS TRNS_AUT 有効																													
P1	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0</td> <td>3DES</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>DES</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0</td> <td>3K DES (ACOS3 のみ)</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>AES (ACOS3 のみ)</td> </tr> </tbody> </table>	0	-	-	-	-	-	-	0	3DES	0	-	-	-	-	-	-	1	DES	1	-	-	-	-	-	-	0	3K DES (ACOS3 のみ)	1	-	-	-	-	-	-	1	AES (ACOS3 のみ)
0	-	-	-	-	-	-	0	3DES																													
0	-	-	-	-	-	-	1	DES																													
1	-	-	-	-	-	-	0	3K DES (ACOS3 のみ)																													
1	-	-	-	-	-	-	1	AES (ACOS3 のみ)																													
P2	0h																																				
P3	14h																																				
データ	データブロック																																				

特定の応答ステータスバイト

SW1 SW2	説明
69 86h	DF 未選択
6A 86h	P1 もしくは P2 無効
67 00h	P3 が正しくない、14h でなければならない
6A 83h	ACOS キー-Ks または K _{ACCT} は準備ができていません。K _{ACCT} 生成するには DIVERSIFY コマンドを使用します。該当する場合は、「Prepare Authentication」を介して Ks を生成します。
69 82h	セキュリティ条件が満たされていない
6F 00h	DEBIT CERTIFICATE 無効
90 00h	成功, DEBIT CERTIFICATE 有効

5.4.1.10. キー取得 (Get Key)

鍵を取るコマンドにより、鍵を現在の SAM の鍵ファイル (SFI=02 h) から別の ACOS 6/ACOS 6-SAM カードに安全に注入することができ、このプロセスは、鍵分散を介さなくても実現できます。これを使用すると、注入される鍵が暗号化およびメッセージ認証コードによって保護されます。

またこのコマンドが分散化により、現在の SAM のキーファイル（SFI = 02h）から ACOS7/10、MIFARE DESFire、MIFARE DESFire EV1 または MIFARE Plus カードに安全に注入することができます。これを使用すると、注入される鍵が暗号化およびメッセージ認証コードによって保護されます。

カードヘッダーブロック（ACOS6-SAM リファレンスマニュアルのセクション 3.2）の特殊機能フラグ（キー注入専用フラグ）のビット 7 が設定され、キーファイルが有効になっている場合、キーのロードまたは変更には Get キーを使用する必要があります。Bit 7 が設定されると、鍵ファイルがアクティブになると、Read Record コマンドの使用はいずれの場合も無効になります。

このコマンドを実行する前に、**相互認証**の相互認証プロセス（ACOS6-SAM リファレンスマニュアルのセクション 5.3）または MIFARE Plus/MIFARE DESFire 相互認証プロセスで、ターゲットカードとのセッション鍵がすでに確立されています。

注：GET KEY コマンドはキーデータのみを取得できます。

APDU		説明		
CLA	80h			
INS	CAh			
ACOS カードがキーを取得、リセットする用				
00h		応答データは MSAM のキーです		
01h		応答データは 16 バイトの Diversify キーです		
02h		応答データは 24 バイトの Diversify キーです		
03h		応答データは MIFARE Plus カードの Change Key コマンドです		
DESFire カードのキー取得変更キー、DESFire / DESFire EV1 Change キーの応答データ				
		カードタイプ	キー番号の認証とキー番号の変更*	キー長さ
P1	80h	MIFARE DESFire	MIFARE®DESFire の中では異なる	16 バイト
	81h	MIFARE DESFire EV1	MIFARE DESFire EV1 カードの中では異なる	16 バイト
	82h	MIFARE DESFire EV1	MIFARE DESFire EV1 カードの中では異なる	24 バイト
	88h	MIFARE DESFire	MIFARE DESFire の中では同じ	16 バイト
	89h	MIFARE DESFire EV1	MIFARE DESFire EV1 カードの中では同じ	16 バイト
	8Ah	MIFARE DESFire EV1	MIFARE DESFire EV1 カードの中では同じ	24 バイト
P2	SAM のキー ID（変更のための新しいキー）			



APDU	説明
P3	P1 = 00h, P3 = 08h
	P1 = 02h, P3 = 10h
	P1 = 03h, P3 = 0h
	P1 = 80/81/82/88/89/8Ah : P3 = 0Bh
データ	P1 = 00h の場合、コマンドデータは RND _{Target}
	P1 = 01 / 02h の場合、コマンドデータは RND _{Target} + ターゲットカードのシリアル (またはロット) 番号です
	P1 = 03h の場合 P1 = 03h
	- ターゲットカードのシリアル番号 (8 バイト)
	- ライトコマンド (A0 または A1) (1 バイト)
	- BNr (2 バイト)
	P1 = 80/81/82/88/89/8Ah :
	- ターゲットカードのシリアル番号 (8 バイト)
	- 元の鍵 ID (元の鍵が格納されている SAM カードの鍵、00 = DESFire のデフォルト鍵 - カード)
	- 鍵番号 (DESFire カード鍵番号)
- Key Version (DESFire カードのキーバージョン、使用されない場合、値= 00)	

*このリストは、リストされているカードが違う Change Key と Authenticate Key を持っているか、または 2 つの鍵が同じ値を使用しているかを示しています。

特定の応答ステータスバイト

SW1 SW2	説明
69 85h	SAM セッションキーが準備完了していません
62 83h	現在の DF がブロックされているか、またはターゲット EF がブロックされている
69 86h	DF 未選択
69 81h	キーファイルのファイルタイプが間違っています。内部線形変数ファイル
69 82h	ターゲットファイルのヘッダブロックのチェックサムが正しくないか、セキュリティ条件が満たされていません
6A 86h	P1 もしくは P2 無効
67 00h	P3 正しくない
6A 83h	ターゲットキーが準備されていないか、キーの長さが 16 未満です
61 1Ch	コマンド成功、GET RESPONS で結果を取得

5.5. 非接触スマートカード プロトコル

5.5.1. ATR の生成

リーダーが PICC を検出すると、PICC を識別するために、ATR が PCSC ドライバに送られます。

5.5.1.1. ATR フォーマット (ISO14443-3-3 PICC に適用)

バイト	数値	標記	説明
0	3Bh	最初のヘッダー	
1	8Nh	T0	高いニブル8の意味は：TA1、TB1とTC1がなくて、TD1だけが続いている。 下位ニブル N は歴史的なバイトの数です (HistByte 0 - HistByte N-1)
2	80h	TD1	高いニブル8の意味は：TA2、TB2とTC2がなくて、TD2だけが続いている。 下位ニブル 0 の意味は T=0
3	01h	TD2	高いニブル0の意味は：TA3、TB3、TC3およびTD3が全部続いていない。 下位ニブル 1 の意味は T=1
4 ~ 3+N	80h	T1	カテゴリインジケータバイトは、80のステータスインジケータが任意の COMPACT-TLVデータオブジェクトに存在するかもしれない意味です
	4Fh	Tk	アプリケーション識別子にはインジケータが存在している
	0Ch		長さ
	RID		登録されたアプリケーションプロバイダ識別子 (RID) # A0 00 00 03 06



バイト	数値	標記	説明
	SS		基準のバイト
	C0 ..C1h		カードネームバイト
	00 00 00 00h	RFU	RFU # 00 00 00 00
4+N	UU	TCK	T0からTkまでのすべてのバイトの排他的論理和



例 :

MIFARE Classic 1KカードのATR = {3B 8F 80 01 80 4F 0C A0 00 00 03 06 03 00 01 00 00 00 00 6Ah}

その中 :

長さ (YY) = 0Ch
RID = {{A0 00 00 03 06h} (PC/SCワークグループ)
基準 (SS) = 03h (ISO 14443A、3パート)
カードネーム (C0 ..C1) = [00 01h] (MIFARE Classic 1K)
基準 (SS) = 03h : ISO 14443A、3パート
= 11h : FeliCa

カードネーム (C0 ..C1) :

00 01 : MIFARE Classic 1K	00 38 : MIFARE Plus® SL2 2K
00 02 : MIFARE Classic 4K	00 39 : MIFARE Plus® SL2 4K
00 03 : MIFARE Ultralight®	00 30 : Topaz和Jewel
00 26 : MIFARE Mini®	00 3B : FeliCa
00 3A : MIFARE Ultralight® C	FF 28 : JCOP 30
00 36 : MIFARE Plus® SL1 2K	FF [SAK] : 定義されていないタグ
00 37 : MIFARE Plus® SL1 4K	

5.5.1.2. ATR フォーマット (ISO14443-4-3 PICC に適用)

バイト	数値	標記	説明						
0	3Bh	最初のヘッダー							
1	8Nh	T0	高いニブル8の意味は : TA1、TB1とTC1がなくて、TD1だけが続いている。 下位ニブル N は歴史的なバイトの数です (HistByte 0 - HistByte N-1)						
2	80h	TD1	高いニブル8の意味は : TA2、TB2とTC2がなくて、TD2だけが続いている。 下位ニブル 0 の意味は T=0						
3	01h	TD2	高いニブル0の意味は : TA3、TB3、TC3およびTD3が全部続いていない。 下位ニブル 1 の意味は T=1						
4 ~ 3+N	XX	T1	歴史バイト :						
	XX	Tk	ISO 14443-A : ATS応答の歴史的なバイト。ISO 14443-4基準を参照してください。						
			ISO 14443-B :						
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>バイト 1~4</th> <th>バイト 5~7</th> <th>バイト8</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ATQBのアプリケーションデータ</td> <td>ATQBからのプロトコル情報バイト</td> <td>高いニブル=ATTRIB コマンドのMBLI ; 下位ニブル (RFU) =0</td> </tr> </tbody> </table>	バイト 1~4	バイト 5~7	バイト8	ATQBのアプリケーションデータ	ATQBからのプロトコル情報バイト	高いニブル=ATTRIB コマンドのMBLI ; 下位ニブル (RFU) =0
バイト 1~4	バイト 5~7	バイト8							
ATQBのアプリケーションデータ	ATQBからのプロトコル情報バイト	高いニブル=ATTRIB コマンドのMBLI ; 下位ニブル (RFU) =0							
4+N	UU	TCK	T0からTkまでのすべてのバイトの排他的論理和						

例1 :

MIFARE® DESFire®のATR = {3B 81 80 01 80 80h} // 6 バイトのATR

注釈 : APDU“FF CA 01 00 00h”を使用して、ISO 14443A-4のPICCに準拠しているまたはISO 14443B-4のPICCに準拠しているを区別します。可能な場合、完全なATSを取得します。ISO 14443A-3またはISO 14443B-3/4のPICCに準拠する場合、ATSが返される。

APDU コマンド = FF CA 01 00 00h

APDU 応答 = 06 75 77 81 02 80 90 00h

ATS = {06 75 77 81 02 80h}

例2 :

EZ-LinkのATR = {3B 88 80 01 1C 2D 94 11 F7 71 85 00 BEh}

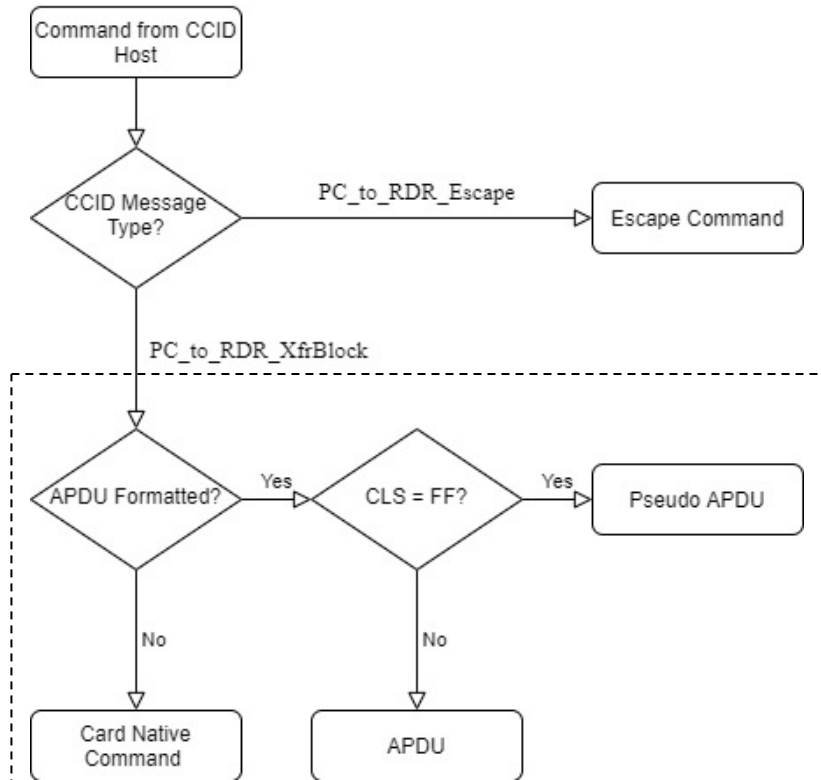
ATQBのアプリケーションデータ = 1C 2D 94 11h

ATQBのプロトコル情報 = F7 71 85h

ATTRIB の MBLI = 00h

5.5.2. APDU、私有 APDU およびカード固有コマンド

ユーザは、PC_to_RDR_XfrBlock メッセージを介して、APDU、Private APDU（Pseudo APDU）、およびカード固有コマンド（Card Native Command）をリーダライタに送信することができます。コマンドの処理が完了すると、リーダライタは RDR_to_PC_DataBlock メッセージを介してレスポンスを返します。



CCID ホストが PCSC API 中の SCardTransmit () に対応する CCID メッセージ PC_to_RDR_XfrBlock を使用して、カードリーダーにカードアドミネレーションコマンドまたは APDU を送信することができます。PICC では、カードが ISO 14443 第 4 部分プロトコルまたは Innovation プロトコルをサポートしている場合、リーダライタはプロトコルフレームにコマンド/APDU をパッケージ化してカードに直接送信し、コマンド/APDU を解析しません。カードが両方のプロトコルをサポートしていない場合、CCID ホストにメッセージ「6 A 81」が返されます。

注：Microsoft Window はスマートカードプラグアンドプレイに対応しているため、Microsoft Window はカードが提示された時にカードに APDU 命令を送信することがあります。この操作により、カードをリセットしない限り、DESFire カードが ISO APDU モードになり、固有コマンドを受信できなくなります。通常、Microsoft Window はカードが無反応状態になってから 10 秒後にカードをリセットします（PC_to_RDR_IccPowerOff 経由）。



5.5.3. PICC の PCSC 私有 APDU (独自の拡張機能付き)

非接触カードへの間接アクセスには、以下の私有 (Pseudo) APDU を使用します。CCID ホストが PCSC API 中の SCardTransmit () に対応する CCID メッセージ PC_to_RDR_XfrBlock を使用して、カードリーダーにこれらの APDU を送信することができます。私有 APDU を受信すると、リーダライタは低レベルのコマンドを解釈し、カードに送信します。カードがこれらの低レベルコマンドを処理した後、リーダライタはカードレスポンスを収集し、レスポンスを作成して CCID ホストに返信する。

5.5.3.1. データ取得 (Get Data) [FFCA...]

このコマンドは、シーケンス番号、プロトコルパラメータなど、アクティブ化中に取得したデータを読み込むために使用します。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Le
Get Data	FFh	CAh	下記の表を確認ください		00h (全長)

コマンドパラメーター

P1	P2	意味
00h	00h	カードの UID/PUPI/SN を取得する
01h	00h	A タイプ 4 パートの ATS を取得
02h	00h	下記のカードタイプ関連データを取得し、転送順序： A タイプ：2 バイト ATQA/ATVA + 4/7/10 バイト UID + 1 バイト最後の SAK。 B タイプ：12 バイト ATQB
80h	00h	下記のカードタイプ関連データを取得し、転送順序： A タイプ：2 バイト ATQA/ATVA + 4/7/10 バイト UID + 1/2/3 バイト SAK。 B タイプ：12 バイト ATQB FeliCa：17 バイト ATQ (+ 6 バイト ATTR、アクティブ化されている場合) SRI：8 バイト UID + 1 バイトチップ ID。 ISO15693：1 バイト DSFID + 8 バイト UID CTS：4 バイト SN + 2 バイト ATQT Innovatron：4 バイト SN + 1 バイトタブアドレス。

応答

応答	データ出力		
結果	データ	SW1	SW2

応答コード

結果	SW1 SW2	意味
成功	90 00h	操作が成功に完了しました。
エラー	6X XXh	失敗

例：

“接続された PICC”のシリアルナンバーを取得します

```
UINT8 GET_UID[5] = {FF, CA, 00, 00, 00};
```

“接続された ISO 14443-A PICC”の ATS を取得します

```
UINT8 GET_ATS[5] = {FF, CA, 01, 00, 00};
```

5.5.3.2. キーロード (Load Key) [FF 82 ...]

このコマンドは、キーバッファ番号で指定された内部キーバッファにキーデータをロードするために使用します。鍵バッファは失いやすいストレージに属し、認証に使用されるコンテンツが含まれています。このコマンドはカードデータ転送をしません。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc	コマンドデータイン
Load Authentication Keys	FFh	82h	00h	キーバッファ番号 (0-1)	キー長さ	キー

キー長さ/データ

カードタイプ	キー長さ(Lc)	キーデータ (転送/保存順番)
MIFARE Standard MIFARE Plus SL1	06h	6 バイト Crypto1 Key A/B。
MIFARE Plus SL1 MIFARE Plus SL2	16h	6 バイト Crypto1 Key A/B + 16 バイト AES Key。
MIFARE Plus SL2	06h	6 バイト暗号化 Crypto1 Key A/B。
MIFARE UltraLightC MIFARE DESFire	10h	16 バイト 2K3DES Key。



応答コード

結果	SW1 SW2	意味
成功	90 00h	操作が成功に完了しました。
エラー	6X XXh	失敗

例 :

// 失いやすいキーのメモリに 00h キーをロードする {FF FF FF FF FF FFh}。

APDU = {FF 82 00 00 06 FF FF FF FF FF FFh}

5.5.3.3. 認証 (Authenticate) [FF 86 00 00 05 ...]

このコマンドは、カードに認証プロセスを実行するために使用します。認証が成功すると、ユーザーは保護されたブロック/ページにアクセスできます。コマンドを送信する前に、ユーザーは Load Key コマンドを使用して正しいキーデータを指定した 密key缓冲区号 バッファにロードする必要があります。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc	コマンドデータイン
Authenticate	FFh	86h	00h	00h	05h	下記の表を確認ください

コマンドデータ

バイト0	バイト1	バイト2	バイト3	バイト4
01h	00h (RFU)	アドレス	キーのタイプ	キーバッファ番号

アドレスとキーのタイプ

カードタイプ	アドレス	キーのタイプ
MIFARE Standard MIFARE Plus SL1 MIFARE Plus SL2	00h~FFh : ブロック 0~255	60h : Crypto1 Key A 61h : Crypto1 Key B
MIFARE UltraLightC	00h (RFU)	80h : 2K3DES
MIFARE DESFire	00h~0Eh : DESFire キー番号 0~14	0Ah : 2K3DES

応答コード

結果	SW1 SW2	意味
成功	90 00h	操作が成功に完了しました。
エラー	6X XXh	失敗

セクター (16個のセクター、各セクターには4個の連続的なブロックが含まれている)	データブロック (3つのブロック、各には16バイト)	トレーラーブロック (1つのブロック、16バイト)
セクター0	00h – 02h	03h
セクター1	04h – 06h	07h
..
..
セクター14	38h – 0Ah	3Bh
セクター15	3Ch – 3Eh	3Fh

} 1 KB

表13 : MIFARE Classic 1Kカードのメモリマップ

セクター (32個のセクター、各セクターには4個の連続的なブロックが含まれている)	データブロック (3つのブロック、各には16バイト)	トレーラーブロック (1つのブロック、16バイト)
セクター0	00h ~ 02h	03h
セクター1	04h ~ 06h	07h
..		
..		
セクター30	78h ~ 7Ah	7Bh
セクター31	7Ch ~ 7Eh	7Fh

} 1 KB

セクター (8個のセクター、各セクターには16個の連続的なブロックが含まれている)	データブロック (15つのブロック、各には16バイト)	トレーラーブロック (1つのブロック、16バイト)
セクター32	80h ~ 8Eh	8Fh
セクター33	90h ~ 9Eh	9Fh
..		
..		
セクター38	E0h ~ EEh	EFh
セクター39	F0h ~ FEh	FFh

} 2 KB

表14 : MIFARE Classic 4Kカードのメモリマップ

バイトナンバー	0	1	2	3	ページ
シリアルナンバー	SN0	SN1	SN2	BCC0	0
シリアルナンバー	SN3	SN4	SN5	SN6	1
内部/ロック	BCC1	Internal	Lock0	Lock1	2
OTP	OPT0	OPT1	OTP2	OTP3	3
データ読み取り/書き込み	Data0	Data1	Data2	Data3	4
データ読み取り/書き込み	Data4	Data5	Data6	Data7	5
データ読み取り/書き込み	Data8	Data9	Data10	Data11	6
データ読み取り/書き込み	Data12	Data13	Data14	Data15	7
データ読み取り/書き込み	Data16	Data17	Data18	Data19	8
データ読み取り/書き込み	Data20	Data21	Data22	Data23	9
データ読み取り/書き込み	Data24	Data25	Data26	Data27	10
データ読み取り/書き込み	Data28	Data29	Data30	Data31	11
データ読み取り/書き込み	Data32	Data33	Data34	Data35	12
データ読み取り/書き込み	Data36	Data37	Data38	Data39	13
データ読み取り/書き込み	Data40	Data41	Data42	Data43	14
データ読み取り/書き込み	Data44	Data45	Data46	Data47	15

512 ビット
または
64 バイト

表15 : MIFARE Ultralight カードのメモリマップ

例 :

// {TYPE A, キーナンバーの 00h} によって、ブロック 04h を認証します。PC/SC V2.01, 廃止されます

APDU = {FF 88 00 04 60 00h};

// {TYPE A, キーナンバーの 00h} によって、ブロック 04h を認証します。PC/SC V2.07

APDU = {FF 86 00 00 05 01 00 04 60 00h}

注 : MIFARE Ultralight のメモリは自由にアクセスできます。認証はいりません。

5.5.3.4. バイナリブロック読み取り (Read Binary Blocks) [FF B0...]

このコマンドは、指定されたブロック/ページアドレスの場所から指定されたバイトのデータを PICC から読み出すために使用します。カードの種類によっては、このコマンドを呼び出す前に、ユーザーはまず認証を行い、これらのブロック/ページへのアクセス権を取得する必要がある場合があります。

コマンド :

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Le
Read Binary Blocks	FFh	B0h	モードとアドレス		更新していないバイト

P1/P2 (モードとアドレス)

カードタイプ	P1[7:4] モード	P1[3:0] + P2[7:0] 開始アドレス (MSB が前)
MIFARE Standard MIFARE Plus SL1 MIFARE Plus SL2	00h : テールブロックをスキップ 08h : テールブロックを含む	000h~0FFh : ブロック 0~255
MIFARE UltraLight MIFARE UltraLightC	00h (保留)	000h~02Fh : ページ 0~47
SRIX4K/SRT512	00h (保留)	000h~07Fh : ブロック 0~127 0FFh : システムゾーン
PicoPass	00h (保留)	000h~0FFh : ブロック 0~255
ISO15693	00h (保留)	000h~0FFh : ブロック 0~255
Topaz/NFC Type-1 タブ	00h (保留)	000h~7FFh : バイトアドレス

Le (読み取り待ちのバイト数)

タイプ	バイト 0	バイト 1	バイト 2
短い	00h : 256 バイトを読み取る 01h~FFh : 1~255 バイトを読み取る	--	
長い	00h	0000h : 65536 バイトを読み取る 0001h~FFFFh : 1~65535 バイトを読み取る	



応答コード

結果	SW1 SW2	意味
成功	90 00h	操作が成功に完了しました。
エラー	6X XXh	失敗

例：

// バイナリブロック 04h から 16 バイトを読み取る (MIFARE Classic 1K または 4K)

APDU = FF B0 00 04 10h

// バイナリブロック 80h から 240 バイトを読み出す (MIFARE Classic 4K)

// ブロック 80 からブロック 8Eh まで (15 個ブロック)

APDU = FF B0 00 80 F0h

5.5.3.5. バイナリブロック更新 (Update Binary Blocks) [FF D6 ...]

このコマンドは、指定されたブロック/ページアドレスの場所から指定されたバイトのデータを PICC に書き込むために使用します。カードの種類によっては、このコマンドを呼び出す前に、ユーザーはまず認証を行い、これらのブロック/ページへのアクセス権を取得する必要がある場合があります。

カード内のブロック/ページへのデータの書き込みは、カードのセキュリティ設定 (例えば MIFARE カードの末尾ブロック) を変更する可能性があるため、特に注意してください。誤ったデータを書き込むか、操作が失敗すると、カードがロックされる可能性があります。カードロックされるリスクを軽減するために、セキュリティブロック/ページに関わる場合には、1 つの APDU コマンドを使用して複数のブロック/ページにデータを書き込むことはお勧めしません。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc	コマンドデータイン
Update Binary Blocks	FFh	D6h	モードとアドレス		書き込み待ちバイト	データバイト

P1/P2 (モードとアドレス) と Write Size 一致 (ブロック/ページ容量)

カードタイプ	P1[7:4] モード	P1[3:0] + P2[7:0] 開始アドレス (MSB が前)	ブロック/ページの容量 (バイト)
MIFARE Standard MIFARE Plus SL1 MIFARE Plus SL2	0x0 : テールブロックをスキップ 0x8 : テールブロックを含む	000h~0FFh : ブロック 0~255	16
MIFARE UltraLight MIFARE UltraLightC	0x0 (保留)	000h~02Fh : ページ 0~47	4
SRIX4K/SRT512	0x0 (保留)	SRIX4K/SRT512	4
PicoPass	0x0 (保留)	PicoPass	8



カードタイプ	P1[7:4]モード	P1[3:0] + P2[7:0] 開始アドレス (MSB が前)	ブロック/ページの容量 (バイト)
ISO15693	0x0 (保留)	ISO15693	1~32
Topaz/NFC Type-1 タブ	0x0 : 消去を含む 0x0 : 消去を含まない	000h~7FFh : バイトアドレス	1(アドレス 78h)また 8(その他)

Lc (書き込み待ちバイト)

タイプ	バイト 0	バイト 1	バイト 2
短い	01h~FFh : 1~255 バイトバイト書き込み待ち	--	
長い	00h	0001h~FFFFh : 1~65535 バイトバイト書き込み待ち	

応答コード

結果	SW1 SW2	意味
成功	90 00h	操作が成功に完了しました。
エラー	6X XXh	失敗

例 :

// MIFARE Classic 1K/4K カード中のバイナリブロック 04h のデータを{00 01 ..0Fh}に更新します

APDU = {FF D6 00 04 10 00 01 02 03 04 05 06 07 08 09 0A 0B 0C 0D 0E 0Fh}

//MIFARE Ultralight 中のバイナリブロック 04 h を{00 01 02 03}に更新する

APDU = {FF D6 00 04 04 00 01 02 03h}

5.5.4. PCSC 2.0 パート 3 サポートできる APDU コマンド (V2.02 及びその以降のバージョン)

PCSC 2.0 パート 3 のコマンドが透過的にアプリケーションからデータを非接触非タグへ渡し、アプリケーションとプロトコルに透過的に受信したデータを返し、同時にプロトコルを切り替えるために使用されています。

5.5.4.1. PCSC 2.0 パート 3 のコマンド流れ

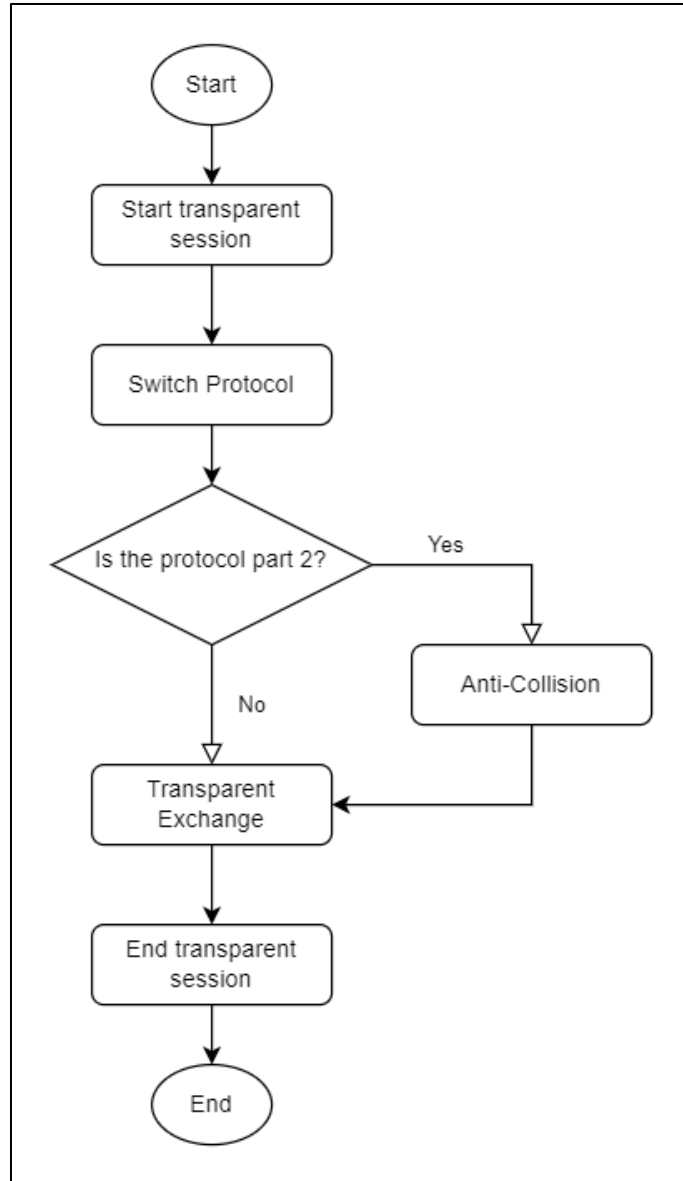


図9 : 透過セッションフローチャート

5.5.4.2. コマンドと応答の APDU フォーマット

コマンドのフォーマット



CLA	INS	P1	P2	Lc	コマンドデータイン
FFh	C2h	00h	機能	データ長さ	データ[データの長さ]

その中：機能 (1バイト)：

- 00h = セッション管理
- 01h = 透明インタラクティブ
- 02h = プロトコルの切り替え
- 他 = RFU

応答フォーマット

データ出力	SW1	SW2
符号化されました BER-TLV データフィールド		

すべてのコマンドは、レスポンスデータフィールド（利用可能な場合）と一緒に SW1 と SW2 を返します。SW1 と SW2 は ISO7816 準拠以下の C0 データオブジェクトの SW1 SW2 も使用する必要があります。

C0 データ要素のフォーマット

タグ	長さ (1バイト)	SW2
C0h	03h	エラーステータス

エラーステータスの説明

エラーステータス	説明
XX SW1 SW2	XX = APDU 内の不正なデータオブジェクトの番号 00 = APDU の一般的なエラー 01 = 一番目のデータオブジェクト内にエラーがある 02 = 二番目のデータオブジェクト内にエラーがある
00 90 00h	エラーは発生していません
XX 62 82h	データオブジェクトの XX 警告、要求された情報は存在していません
XX 63 00h	情報なし
XX 63 01h	実行は他のデータオブジェクトの障害のため停止しました
XX 6A 81h	データオブジェクトはサポートされていません XX
XX 67 00h	予期しない長さのデータオブジェクト XX
XX 6A 80h	予期しない値のデータオブジェクト XX
XX 64 00h	データオブジェクト XX 実行エラー (IFD から応答ない)
XX 64 01h	データオブジェクト XX 実行エラー (ICC から応答ない)
XX 6F 00h	データオブジェクト XX は正確な診断なしで失敗しました

最後の 2 バイトは、エラーについての説明で、一番目のバイトの数値が誤ったデータオブジェクトの XX の番号を表します。ISO7816 に基づいて、SW1 SW2 の値が許可されています。

C-APDU データフィールドには複数のデータオブジェクトがあって、1 つのデータオブジェクトが失敗した場合、他のデータオブジェクトが失敗したデータオブジェクトに依存しない場合、IFD は次のデータオブジェクトを処理することができます。

5.5.4.3. セッション管理 (Manage Session) [FF C2 00 00 ...]

このコマンドでユーザーがセッションを開始し、ポーリング機能を無効にして、後続の通信を行うことができます。通信が完了したら、ユーザーはすぐにセッションを終了する必要があります。

正しく使用されていない場合、リーダー/ライタがカードの存在を検出できず、論理的/物理的にリーダー/ライタ接続を切断しない限り、自動的にリカバリできないことに注意してください。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc	コマンドデータイン	Le
Manage Session	FFh	C2h	00h	00h	Cmd データの長さ	Cmd TLV	--/00h

応答コード

応答データ	SW1 SW2	意味
--	90 00h	操作が成功に完了しました。
Rsp TLV	90 00h	Le = 0x00 : Cmd TLV の一つが失敗したエラーの詳細については、Rsp TLV を参照してください。
--	6X XXh	Le = -- : Cmd TLV の一つが失敗した

Cmd TLV

Cmd	意味
Start Session: 81 00h	セッションを開始し、ポーリングを無効にします。
RF Off: 83 00h	RF をオフにする
Timer: 5F 46 04h [TIME]	次の RF On/Off TLV 前のスリープ時間を設定する [TIME] : 4 バイトの値 (MSB の前)、範囲は 1000~100000 us。実際のスリープ時間は、最も近い 1000 us に四捨五入されます。
RF On: 84 00h	RF をオンにする
End Session: 82 00h	セッションを終えて、ポーリングを有効にします。

Rsp TLV

Rsp	意味
TLV Error: C0 03 NN 6X XXh	NN 目のコマンド TLV エラー。

5.5.4.3.1. セッションデータオブジェクトを開始する (Start Session Data Object)

このコマンドは、透過的なセッションを開始するために使用されています。セッションが開始されると、セッションが終了されるまで、自動ポーリングが無効になります。

セッションデータオブジェクトを開始する

タグ	長さ (1 バイト)	数値
81h	00h	-

5.5.4.3.2. セッションデータオブジェクトを終了する (End Session Data Object)

このコマンドは、透過的なセッションを終了するために使用されています。セッションが開始される前に自動ポーリング状態にリセットされます。

セッションデータオブジェクトを終了する

タグ	長さ (1 バイト)	数値
82h	00h	-

5.5.4.3.3. RF データオブジェクトをオフにする (Turn Off the RF Data Object)

このコマンドはアンテナフィールドをオフにする時に使われます。

RF データオブジェクトをオフにする

タグ	長さ (1 バイト)	数値
83h	00h	-

5.5.4.3.4. RF データオブジェクトをオンにする (Turn On the RF Data Object)

このコマンドはアンテナフィールドをオンにする時に使われます。

RF データオブジェクトをオンにする



タグ	長さ (1 バイト)	数値
84h	00h	-

5.5.4.3.5. タイマーデータオブジェクト (Timer Data Object)

このコマンドは、1 μ s の単位で 32 ビットのタイマーデータオブジェクトを作成するために使用されます。

例：RF をオフにするデータオブジェクトと RF をオンにするデータオブジェクト間には 5000 μ s のタイマーデータオブジェクトがある場合、RF がオンになる前に、リーダーは 5000 μ s 程度の RF フィールドをオフにします。

タイマーデータオブジェクト

タグ	長さ (1 バイト)	数値
5F 46h	04h	タイマー (4 バイト)

5.5.4.4. 透明交換（Transparent Exchange） [FF C2 00 01 ...]

このコマンドにより、ユーザーはカードに任意のビットまたはバイトを送信/受信することができ、オプションで ISO 14443 パート 4 などの様々なリンクおよびトランスポート層、およびいくつかのリンク層冗長性（CRC およびパリティ）を構成することができます。ユーザは、任意のカード固有の生データをこのプライベート APDU に埋め込み、カードに送信することができます。

注意する必要があるのは、このコマンドがカードのサポートの内部処理プロセスに干渉する可能性があり、ドライバ/ファームウェアに通知せずにカードの状態を変更する可能性があり、ドライバ/ファームウェアを正常に戻すためにカードをリセットおよび/または削除する必要がある可能性があります。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc	コマンドデータイン	Le
Transparent Exchange	FFh	C2h	00h	01h	Cmd データの長さ	Cmd TLV	00h

応答コード

結果	SW1 SW2	意味
成功	90 00h	操作が成功に完了しました。
エラー	6X XXh	失敗

Cmd TLV

Cmd	意味
Transceive Flag: 90 02 [Flag] 00h	下記の Transceive TLV の Flag を設置する Flag[7:5]: RFU; 0 に設置する Flag[4]: ISO14443-4 を無効に設置する Flag[3]: パリティ照合処理の受信を禁止に設置する Flag[2]: パリティ照合処理の転送を禁止に設置する Flag[1]: CRC 処理の受信を禁止に設置する Flag[0]: CRC 処理の転送を禁止に設置する この TLV が見つからない場合は、前のコマンドで設定した Flag 値を使用します。 Flag 値を設定したことがない場合は、現在のプロトコル値を使用します。
Transmit Bit Frame: 91 01h [NumBit]	下記の Transceive TLV の Bit Fram を設置する。この TLV が見つからない場合、デフォルト値は 0 です。



Cmd	意味
	NumBit[7:3]: RFU; 0 に設置する NumBit[2:0]:最後のバイトの有効ビットの数 (0 はすべてのビットが有効であることを意味します)
Timer: 5F 46 04h [TIME]	下記の Transceive TLV のタイムアウト時間を設置する。 [TIME] : 4 バイトの値 (MSB の前)、範囲は 1 us~1000000 us。実際のタイムアウト時間は、最も近い 302.07 x 20~15 us に四捨五入されます。 この TLV が見つからない場合は、以前設定した FWTI 値をタイムアウト時間として使用します。
Set FWTI: FF 6E 03 03 01h [FWTI]	Transceive の FWT/タイムアウトを設置する。以前に「FF C 2 h...」コマンドで FWTI を設定していない場合、デフォルト値は 0 になります。 FWTI: 0 ~ 15, FWT/タイムアウト = 302.07 x 2FWTI us
Transceive: 95h [Size] [Data]	SizeBER-TLV 長さのデータフィールドに符号化データのサイズ Data 転送待ちのデータ

Rsp TLV

Rsp	意味
Receive Bit framing: 92 01h [NumBit]	NumBit[7:3]: RFU; 0 に設置する。 NumBit[2:0]:最後のバイトの有効ビットの数 (0 はすべてのビットが有効であることを意味します)
Response: 95h [Size] [Data]	Size: BER-TLV 長さフィールド中の符号化データのサイズ Data 受信データ。
Response Status: 96 02h [Status] 00h	Status [7:4]: RFU. Status[3]: フレーミングエラー Status[2]:パリティエラー。 Status [1]: RFU. Status [0]: CRC エラー

5.5.4.4.1. 送受信のフラグデータオブジェクト (Transmission and Reception Flag Data Object)

このコマンドは、次の送信のためのフレーミングおよび RF パラメータを定義するために使用されます。

送受信のフラグデータオブジェクト

タグ	長さ (1 バイト)	数値		
		バイト 0		バイト 1
		ビット	説明	
90h	02h	0	0 – 送信したデータに CRC を追加します 1 – 送信したデータに CRC を追加しません	00h
		1	0 – 受信したデータに対して CRC 検査を実施する 1 – 受信したデータに対して CRC 検査を実施しない	
		2	0 – 送信したデータにパリティを挿入します 1 – 送信したデータにパリティを挿入しません	
		3	0 – 受信したデータのパリティを期待します 1 – パリティを期待していません (パリティチェックなし)	
		4	0 – 送信したデータのプロトコルプロローグを追加したり、応答から捨てます 1 – 追加またはプロトコルのプロローグを破棄することはありません (ある場合) (例えば、PCB、CID、NAD)	
5-7	RFU			

5.5.4.4.2. ビットフレーミングデータオブジェクトを送信する (Transmission Bit Framing Data Object)

このコマンドは、送受信されていないデータの最後のバイトの有効ビット数を定義するために使用されます。

ビットフレーミングデータオブジェクトを送信する

タグ	長さ (1 バイト)	数値	
		ビット	説明
91h	01h	0-2	最後のバイトの有効ビット数 (0 はすべてのビットが有効であることを意味します)
		3-7	RFU

伝送ビットフレーミングデータオブジェクトは、「送信」または「送受信」のみのデータオブジェクトと一緒になければなりません。このデータオブジェクトが存在しない場合、それはすべてのビットが有効であることを意味します。

5.5.4.4.3. データオブジェクトを送受信する (Transceive Data Object)

このコマンドは、ICC からデータを送受信するために使用されます。送信が完了すると、リーダーは、タイマーデータオブジェクトに指定された時間まで待機します。

何のタイマデータオブジェクトは、データフィールドで定義されていない場合、リーダーは Set Parameter FWTI データオブジェクトに指定された期間を待っています。FWTI が設定されていない場合、リーダーは、約 302 μ s を待ちます。

データオブジェクトを送受信する

タグ	長さ (1 バイト)	数値
95h	データ長さ	データ (N バイト)

5.5.4.4.4. タイマーデータオブジェクト (Timer Data Object)

このコマンドは、1 μ s の単位で 32 ビットのタイマーデータオブジェクトを作成するために使用されます。

例えば、5000 μ s のタイマーデータオブジェクトがある場合、リーダーは後続の送受信 TLV 約 5000 μ s を待ってからタイムアウトします。

タイマーデータオブジェクト

タグ	長さ (1 バイト)	数値
5F 46h	04h	タイマー (4 バイト)

5.5.4.4.5. ビットフレーミングデータオブジェクトを応答する (Response Bit Framing Data Object)

このコマンドは、応答中に受信した送信ビットフレームデータオブジェクトを提示するために使用します。

タグ	長さ (1 バイト)	数値	
		ビット	説明
92h	01h	0-2	最後のバイトの有効ビット数 (0 はすべてのビットが有効であることを意味します)
		3-7	RFU

伝送ビットフレーミングデータオブジェクトは、「送信」または「送受信」のみのデータオブジェクトと一緒になければなりません。このデータオブジェクトが存在しない場合、それはすべてのビットが有効であることを意味します。

5.5.4.4.6. ステータスデータオブジェクトを応答する (Response Status Data Object)

このコマンドは、応答中に受信したデータの状態を提示するために使用します。

ステータスデータオブジェクトを応答する

タグ	長さ (1 バイト)	数値		
		バイト 0		バイト 1
		ビット	説明	
96h	02h	0	0 - CRC が OK、若しくはチェックしていません 1 - CRC チェックが失敗しました	RFU
		1	0 - 衝突なし 1 - 衝突が検出されました	
		2	0 - パリティエラーなし 1 - パリティエラーが検出されました	
		3	0 - フレームエラーなし 1 - フレームエラーが検出されました	
		4 - 7	RFU	

5.5.4.4.7. データオブジェクトを応答する (Response Data Object)

このコマンドは、応答中に受信したデータの状態を提示するために使用します。

データフォーマットを応答する

タグ	長さ (1 バイト)	数値
97h	データ長さ	応答データ (N バイト)

5.5.4.5. プロトコル切り替え (Switch Protocol) [FF C2 00 02 ...]

このコマンドを使用すると、ユーザーはプロトコルを切り替えて指定し、プロトコル・レベルとパラメータを選択できます。

注意する必要があるのは、このコマンドがカードのサポートの内部処理プロセスに干渉する可能性があり、ドライバファームウェアに通知せずにカードの状態を変更する可能性があり、ドライバファームウェアを正常に戻すためにカードをリセットおよび/または削除する必要がある可能性があります。



コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc	コマンドデータ ータイン	Le
Switch Protocol	FFh	C2h	00h	02h	Cmdデータの長さ	Cmd TLV	00h

応答コード

応答データ	SW1 SW2	意味
Rsp TLV	90 00h	データ成功。
--	90 00h	成功
--	6X XXh	失敗

Cmd TLV

Cmd	意味
Set Baud: FF 6E 03 05 01h [Baud]	<p>プロトコル切り替え時に使用するパート 4/レベルのボーレートを設定します。“FF C2h ...”コマンドで[Baud]を設定していない場合、デフォルト値は 98h (106 kbps)になります。</p> <p>Baud[7:2]: RFU、100110b に設定する。</p> <p>Baud[1:0]: 設定待ちのボーレート、00b (106 kbps), 01b (212 kbps), 10b (424 kbps), 11b (848 kbps)。</p>
Switch Protocol: 8F 02h [RF] [Layer]	<p>プロトコルを指定の RF ともしくはレベルに切り替える</p> <p>[RF]: 00h ISO14443A, 01h: ISO14443B 02h: ISO15693, 03h: FeliCa, FFh: 現在の[RF]: その他 : RFU</p> <p>[Layer]: 02h: レイヤ 2/セクション 03h: レイヤ 3/セクション 04h: レイヤ 4/セクション (A/B のみ適用) その他 : RFU</p> <p>注意 : レイヤ 2/セクションに切り替えた場合は、トランスペアレントセッション (ポーリング無効) 状態である必要があります。</p>

Rsp TLV

Rsp	意味
Response: 8Fh [Size] [Data]	Size: BER-TLV 長さのデータフィールドに符号化データのサイズ DataATR (パート 4 の場合)、最終 SAK (クラス A のパート 3 の場合)、または ATQB の PI (クラス B のパート 3 の場合)。

5.5.4.5.1. プロトコルデータオブジェクトを切り替える (Switch Protocol Data Object)

このコマンドは、プロトコルおよび規格の異なる層を指定するために使用されます。

プロトコルデータオブジェクトを切り替える

タグ	長さ (1 バイト)	数値	
		バイト 0	バイト 1
8Fh	02h	00h – ISO/IEC14443 A タイプ 01h – ISO/IEC14443 B タイプ 02h - ISO15693 03h – FeliCa 他 – RFU	02h – 2 層に切り替える 03h – 3 層に切り替えるまたは活性化する 04h – 4 層に活性化する 他 - RFU

5.5.4.5.2. データオブジェクトを応答する (Response Data Object)

このコマンドは、応答中に受信したデータの状態を提示するために使用します。

データフォーマットを応答する

タグ	長さ (1 バイト)	数値
5F 51h	データ長さ	ATR
8Fh	データ長さ	最終 SAK (クラス A のパート 3 の場合)、または ATQB の PI (クラス B のパート 3 の場合)。

5.5.4.6. PCSC 2.0 パート3の例

1. 透明セッション開始する

コマンド : **FF C2 00 00 02 81 00**

応答 : **C0 03 00 90 00 90 00**

2. アンテナフィールドをオフにする。

コマンド : **FF C2 00 00 02 83 00**

応答 : **C0 03 00 90 00 90 00**

3. アンテナフィールドをオンにする

コマンド : **FF C2 00 00 02 84 00**

応答 : **C0 03 00 90 00 90 00**

4. アクティベ-ISO 14443-4A

コマンド : **FF C2 00 02 04 8F 02 00 04**

応答 : **C0 03 01 64 01 90 00** (カードがない場合)

C0 03 00 90 00 5F 51 [Len] [ATR] 90 00

5. 0AHにPCBを設定し、送信データでCRC、パリティ、プロトコルプロログを有効にします。

コマンド : **FF C2 00 01 0A 90 02 00 00 FF 6E 03 07 01 0A**

応答 : **C0 03 00 90 00 90 00**

6. カードにAPDU「80B2000008」を送信し、応答を取得します。

コマンド : **FF C2 00 01 0E 5F 46 04 40 42 0F 00 95 05 80 B2 00 00 08**

応答 : **C0 03 00 90 00 92 01 00 96 02 00 00 97 0C [カードの応答] 90 00**

7. 透明セッションを終了する。

コマンド : **FF C2 00 00 02 82 00**

応答 : **C0 03 00 90 00 90 00**

5.5.5. PICC の専属の私有 APDU

以下の私有（Pseudo）APDU は、PCSC Pseudo APDU への追加として、非接触カードへの間接アクセスに使用されます。これらの APDU の内部処理プロセスは PCSC Pseudo APDU と同様です。

5.5.5.1. 値ブロック書き込み（Write Value Block） [FF D7 ...]

このコマンドは、MIFARE 規格に準拠したカードのブロックに 4 バイトの値を書き込むために使用します。このコマンドを呼び出す前に、ユーザーはまず認証を行い、このブロックへのアクセス権を取得する必要があります。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc	コマンドデータイン
Write Value Block	FFh	D7h	00h	ブロック番号	05h	下記の表を確認ください

コマンドデータ

バイト 0	バイト 1	バイト 2	バイト 3	バイト 4
00h	4 バイト値（MSB の前）			

例 1 : Decimal -4 = {FFh, FFh, FFh, FCh}

VB_Value			
MSB			LSB
FFh	FFh	FFh	FCh

例 2 : Decimal 1 = {00h, 00h, 00h, 01h}

VB_Value			
MSB			LSB
00h	00h	00h	01h

応答コード

結果	SW1 SW2	意味
成功	90 00h	操作が成功に完了しました。
エラー	6X XXh	失敗

5.5.5.2. 値ブロック読み取り (Read Value Block) [FF B1 ...]

このコマンドは、MIFARE 規格に準拠したカードの有効ブロックから 4 バイトの値を読み取るために使用します。このコマンドを呼び出す前に、ユーザーはまず認証を行い、このブロックへのアクセス権を取得する必要があります。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Le
Read Value Block	FFh	B1h	00h	ブロック番号	04h

例 1 : Decimal -4 = {FFh, FFh, FFh, FCh}

数値			
MSB			LSB
FFh	FFh	FFh	FCh

例 2 : Decimal 1 = {00h, 00h, 00h, 01h}

数値			
MSB			LSB
00h	00h	00h	01h

応答

応答データ	SW1 SW2	意味
4 バイト値 (MSB の前)	90 00h	データ成功。
--	6X XXh	失敗

5.5.5.3. 値の減少/増加 (Decrement/Increment Value) [FF D7 ...]

このコマンドは、ソースブロックから 4 バイトの値を減少/増加させ、結果をターゲットブロックに格納するために使用します (カードは MIFARE 規格に準拠している必要があります)。結果を同じソースブロックに格納する場合は、ターゲットブロックの番号を 0 またはソースブロック番号に設定できます。このコマンドを呼び出す前に、ユーザーはまず認証を行い、ソースブロックとターゲットブロックへのアクセス権を取得する必要があります。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc	コマンドデータイン
Decrement/Increment Value	FFh	D7h	ターゲットブロック#	ソースブロック#	05h	下記の表を確認ください

コマンドデータ

バイト 0	バイト 1	バイト 2	バイト 3	バイト 4
01h	4 バイト追加値 (MSB の前)			
02h	4 バイト減少値 (MSB の前)			

応答コード

結果	SW1 SW2	意味
成功	90 00h	操作が成功に完了しました。
エラー	6X XXh	失敗

5.5.5.4. 値ブロックコピー (Copy Value Block) [FF D7 ...]

このコマンドは、ソースブロックから値をターゲットブロックにコピーするために使用します (カードは MIFARE 規格に準拠している必要があります)。このコマンドを呼び出す前に、ユーザーはまず認証を行い、ソースブロックとターゲットブロックへのアクセス権を取得する必要があります。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc	コマンドデータイン
Copy Value Block	FFh	D7h	00h	ソースブロック#	02h	下記の表を確認ください

コマンドデータ

バイト 0	バイト 1
03h	ターゲットブロック#

応答コード

結果	SW1 SW2	意味
成功	90 00h	操作が成功に完了しました。
エラー	6X XXh	失敗

5.5.6. PCSC 準拠のタグをアクセスする (ISO 14443-4)

すべての ISO14443-4 に準拠したカード (PICC カード) は、ISO7816-4 の APDU を理解できます。ACR1555U カードリーダーは ISO 7816-4 基準の APDU および応答を交換することによって、ISO14443-4 基準のカードと通信することができます。ACR1555U が内部で ISO14443 の 1 - 4 パートのプロトコルを処理します。

MIFARE Classic (1K/4K)、MIFARE Mini および MIFARE Ultralight タグは T=CL エミュレーションを介してサポートされます。MIFARE タグを標準な ISO 14443-4 タグとして取り扱えばいいです。詳しい情報が **PICC 的 PCSC 私有 APDU (帯専有拡張)** を参照してください。

ISO 7816-4 APDU フォーマット

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc	コマンドデータイン	Le
ISO 7816 4 パートのコマンド					データの長さ		応答データの予想の長さ

ISO 7816-4 仕様の応答データフォーマット (データ+2 バイト)

応答	データ出力		
結果	応答データ	SW1	SW2

一般的な的な ISO 7816-4 コマンドの応答コード

結果	SW1 SW2	意味
成功	90 00h	操作が成功に完了しました。
エラー	63 00h	操作が失敗しました。

典型的なシーケンスは：

1. タグを提出して、PICC インターフェースと接続します。
2. タグ中の情報を読み取り/更新する。

これを実行します：

1. タグと接続する。

タグの ATR は 3B 88 80 01 00 00 00 00 33 81 81 00 3Ah です。

その中、

ATQB アプリケーションのデータ = 00 00 00 00、ATQB プロトコル 情報 = 33 81 81。これは ISO 14443-4 Type B タグです。

2. APDU を送信して、乱数を入手する。



00 84 00 00 08

>> 1A F7 F3 1B CD 2B A9 58h [90 00h]

注：ISO 14443-4 Type A のタグに対して、APDU“FF CA 01 00 00h”によって ATS を入手できます。

例：

// ISO 14443-4 Type B PICC (ST19XR08E) から 8 バイトを読み取ります。

APDU = {80 B2 80 00 08h}

CLA = 80h

INS = B2h

P1 = 80h

P2 = 00h

Lc = なし

データ = なし

Le = 08h

応答：00 01 02 03 04 05 06 07h [\$9000h]

5.5.7. MIFARE DESFire タグをアクセスする (ISO 14443-3)

MIFARE® DESFire®は ISO7816-4 APDU パッケージモードとネイティブモードをサポートできます。MIFARE® DESFire®タグが活性化されると、MIFARE® DESFire®タグコマンドに送られた最初の APDU が“モード”を決定します。例えば最初の APDU が“ネイティブモード”を選択したら、残りの APDU コマンド必ず“ネイティブモード”です。それと同じ、最初の APDU が“ISO 7816-4 APDU パッケージモード”を選択する場合、残りの APDU は必ず“ISO 7816-4 APDU パッケージモード”です。

例 1：MIFARE® DESFire® ISO 7816-4 APDU パッケージモード

//ISO 14443-4 Type A PICC (MIFARE® DESFire®)から 8 バイトの乱数を読み取ります

APDU = {90 0A 00 00 01 00 00}

CLA = 90h; INS = 0Ah (MIFARE DESFire 指令); P1 = 00h; P2 = 00h

Lc = 01h; データ入力 = 00h; Le = 00h (Le = 00h 最大の長さを示す)

応答：7B 18 92 9D 9A 25 05 21 [\$91AF]

#ステータスコード{91 AFH} は MIFARE® DESFire®仕様で定義されています。詳細については、MIFARE® DESFire®仕様を参照してください。



例 2 : MIFARE DESFire ページング・リンク (ISO 7816 APDU パッケージモード)

// この例では、アプリケーションは“フレームレベルの連鎖”と関わっています。

//MIFARE® DESFire®カードのバージョン番号を取得するために。

ステップ 1 : APDU {90 60 00 00 00}を送信して、最初のフレームを取得します。INS=60h

応答 : 04 01 01 00 02 18 05 91 AF [\$91AF]

ステップ 2 : APDU {90 AF 00 00 00}を送信して、二番目のフレームを取得します。INS=AFh

応答 : 04 01 01 00 06 18 05 91 AF [\$91AF]

ステップ 3 : APDU {90 AF 00 00 00}を送信して、最後のフレームを取得します。INS=AFh

応答 : 04 52 5A 19 B2 1B 80 8E 36 54 4D 40 26 04 91 00 [\$9100]

5.5.8. FeliCa タグのアクセス

FeliCa タグをアクセスするコマンドは、PCSC タグと MIFARE タグをアクセスするコマンドと違います。このコマンドは FeliCa 基準に準拠して、ヘッダが追加されています。

FeliCa コマンドのフォーマット

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc	コマンドデータイン
FeliCa コマンド	FFh	00h	00h	00h	データの長さ	FeliCa コマンド (長さバイトで始まる)

FeliCa の応答データフォーマット (データ+2 バイト)

応答	データ出力
結果	応答データ

例のメモリブロックデータの読み取り

1. FeliCa を接続する。

ATR = 3B 8F 80 01 80 4F 0C A0 00 00 03 06 **11 00 3B** 00 00 00 00 42h

その中 : **11 00 3Bh** = FeliCa

2. FeliCa IDM の読み取り。

コマンド = FF CA 00 00 00h

応答 = [IDM (8 バイト)] 90 00h

例 : FeliCa IDM = 01 01 06 01 CB 09 57 03h

3. FeliCa コマンドアクセス。

例 : メモリブロックデータの「読み取り」

コマンド = FF 00 00 00 10 10 06 **01 01 06 01 CB 09 57 03** 01 09 01 01 80 00h

その中 :

Felica コマンド = 10 06 **01 01 06 01 CB 09 57 03** 01 09 01 01 80 00h

IDM = **01 01 06 01 CB 09 57 03h**

応答 = メモリブロックデータ

5.5.8. ISO15693 タグのアクセス

この節では、ISO 15693 プロトコルにおけるオプションコマンドについて説明します。

5.5.8.1. 単一ブロックを読み取る (Read Single Block)

1 つのデータブロックを ISO15693 から取り出すことに使われます。

コマンド :

コマンド	CLA	INS	P1	P2	LC	データ		Le
Read Single Block	FFh	FBh	00h	00h	02h	20h	ブロック 番号	--/00h

その中 :

ブロック番号 1 バイト。

データブロック番号

応答コード

結果	SW1 SW2	意味
成功	90 00h	操作が成功に完了しました。

結果	SW1 SW2	意味
エラー	64 XXh	失敗 XX はタブが返すエラーコードです

例：

//NXP ICODE SLI カードの 10 番目のブロックのデータを読み取る

コマンド： = { FF FB 00 00 02 20 10 }

応答： = { XX XX XX XX 90 00 }

5.5.8.2. 単一ブロックを書き込み (Write Single Block)

このコマンドは ISO15693 タブに 1 つのデータブロックを書き込むために使われます。

コマンド：

コマンド	CLA	INS	P1	P2	LC	データ		Le	
Write Single Block	FFh	FBh	00h	00h	N+2h	21h	ブロック 番号	データブ ロック	--/00h

その中：

- ブロック番号** 1 バイト。
データブロック番号
- ブロックデータ** N バイト。
データブロックに書き込み待ちのデータ
- LC** 1 バイト。
データブロック長さ + 2

応答コード

結果	SW1 SW2	意味
成功	90 00h	操作が成功に完了しました。
エラー	64 XXh	失敗 XX はタブが返すエラーコードです

例：

//NXP ICODE SLI カードの 10 番目のブロックにデータを書き込む

コマンド： = { FF FB 00 00 06 21 10 11 12 13 14 }

応答： = { 90 00 }

5.5.8.3. 複数のブロックを読み取る (Read Multiple Blocks)

複数のデータブロック複数 ISO15693 から取り出すことに使われます。

コマンド：

コマンド	CLA	INS	P1	P2	LC	データ		Le	
Read Multiple Blocks	FFh	FBh	00h	00h	03h	23h	1つ目の ブロック 番号	ブロックの 数	--/00h

その中：

1つ目のブロック番号 1バイト。

開始データブロック番号

ブロック数 1バイト。

要求中のブロック数は応答中にラベルが返されるブロック・セキュリティ・ステータス数より **1つ少ない**

ブロック数 = 要求中のブロック数 - 1

応答コード

結果	SW1 SW2	意味
成功	90 00h	操作が成功に完了しました。
エラー	64 XXh	失敗 XX はタブが返すエラーコードです

例：

//0x10 から 0x12 まで、複数ブロックのセキュリティ状態を読み取ります。NXP ICODE SLI カードの 0X03 目の連続ブロック。

コマンド： = { FF FB 00 00 03 23 10 02 }



応答 : = { XX XX XX XX XX XX XX XX XX XX XX XX 90 00 }

5.5.8.4. 複数のブロックを書き込み (Write Multiple Blocks)

このコマンドは ISO15693 タブに複数のデータブロックを書き込むために使われます。

コマンド :

コマンド	CLA	INS	P1	P2	LC	データ			Le	
Write Multiple Blocks	FFh	FBh	00h	00h	N+3h	24h	1つ目の ブロック 番号	ブロックの 数	データブ ロック	--/00h

その中 :

- 1つ目のブロック番号** 1バイト。
開始データブロック番号
- ブロック数** 1バイト。
要求中のブロック数は応答中にラベルが返されるブロック・セキュリティ・ステータス数より **1つ少ない**
ブロック数 = 要求中のブロック数 - 1
- ブロックデータ** Nバイト。
データブロックに書き込み待ちのデータ
- LC** 1バイト。
ブロックデータの長さ + 3

応答コード

結果	SW1 SW2	意味
成功	90 00h	操作が成功に完了しました。
エラー	64 XXh	失敗. XX はタブが返すエラーコードです

その中：

メッセージ表示 - 1 バイト

ビット	数値	説明
Bit 0	0	DSFID ない
	1	DSFID ある
Bit 1	0	AFI しない
	1	AFI ある
Bit 2	0	ストレージ容量ない
	1	ストレージ容量ある
Bit 3	0	ICNO.ない
	1	ICNO.ある
Bit 4 ~7	0	RFU

UID -8 バイト

DSFID -1 バイト

AFI -1 バイト

メモリ容量-2 バイト

バイト	説明
0	ブロックの数-1 (実際のブロック数 = ブロック数 + 1)
1	ブロックの大きさ (バイトを単位で) -1 (実際のブロックの大きさ=ブロックの大きさ (バイトを単位で) +-1)

IC -1 バイト

応答コード

結果	SW1 SW2	意味
成功	90 00h	操作が成功に完了しました。
エラー	64 XXh	失敗 XX はタブが返すエラーコードです

例：

コマンド： = { FF FB 00 00 01 2B }

応答： = { XX XX XX XX XX XX XX XX XX XX XX XX XX XX 90 00 }

5.5.8.7. 複数のブロックのセキュリティ状態を取得 (Get Multiple Blocks Security Status)

ブロックのセキュリティ状態を取得するために GET MULTIPLE BLOCKS SECURITY STATUS コマンドを使用します。

コマンド：

コマンド	CLA	INS	P1	P2	LC	データ		Le	
Get Multiple Blocks Security Status	FFh	FBh	00h	00h	03h	2Ch	1つ目のブロック番号	ブロックの数	--/00h

その中：

1つ目のブロック番号

1バイト。

開始データブロック番号

ブロック数

1バイト。

読み取り待ちのデータ・ブロックのセキュリティ・ステータスの数。

要求中のブロック数は応答中にラベルが返されるブロック・セキュリティ・ステータス数より **1つ少ない**

ブロック数 = 要求中のブロック数 - 1

Get System Information の応答フォーマット

応答	データ出力		
結果	ブロックセキュリティ状態	SW1	SW2

その中：

ブロックセキュリティ状態

ブロックごとに 1 バイト

00h : ロックされていない

01h : ロックされた

応答コード

結果	SW1 SW2	意味
成功	90 00h	操作が成功に完了しました。
エラー	64 XXh	失敗 XX はタブが返すエラーコードです



例：

//0x10 から 0x12 まで、複数ブロックのセキュリティ状態を読み取ります。0x03 個連続なブロック。

コマンド： = { FF FB 00 00 03 2C 10 02 }

応答： = { XX XX XX 90 00 }

5.5.9. サポート PICC ATR

デフォルトでは、次の PICC タイプ/技術がサポートされています。リーダライタにカードをタッチすると、PC _ to _ RDR _ lccPowerOn コマンドは次の ATR を CCID ホストに返します。

カードタイプ/技術	ATR
MIFARE Std 1k6	3B 8F 80 01 80 4F 0C A0 00 00 03 06 03 00 01 00 00 00 00 6A
MIFARE Std 4k6	3B 8F 80 01 80 4F 0C A0 00 00 03 06 03 00 02 00 00 00 00 69
MIFARE UltraLight6	3B 8F 80 01 80 4F 0C A0 00 00 03 06 03 00 03 00 00 00 00 68
MIFARE Plus SL1 2k6	デフォルト：MIFARE Std 1kと同じ 予備：3B 8F 80 01 80 4F 0C A0 00 00 03 06 03 00 36 00 00 00 00 5D
MIFARE Plus SL1 4k6	デフォルト：MIFARE Std 4kと同じ 予備：3B 8F 80 01 80 4F 0C A0 00 00 03 06 03 00 37 00 00 00 00 5C
MIFARE Plus SL2 2k	3B 8F 80 01 80 4F 0C A0 00 00 03 06 03 00 38 00 00 00 00 53
MIFARE Plus SL2 4k	3B 8F 80 01 80 4F 0C A0 00 00 03 06 03 00 39 00 00 00 00 52
MIFARE UltraLight C6	デフォルト：3B 8F 80 01 80 4F 0C A0 00 00 03 06 03 00 3A 00 00 00 00 51 予備：MIFARE UltraLightと同じ
SmartMX、模擬 MIFARE Std 1k6	デフォルト：MIFARE Std 1kと同じ 予備：ISO14443 -4、Type A 同じ
SmartMX、模擬 MIFARE Std 4k ⁶	デフォルト：MIFARE Std 4kと同じ 予備：ISO14443 -4、Type A 同じ

¹ ACS の Android ライブラリを使用

² ACS 定義された OS または iPadOS ライブラリを使用する

予備の ATR 定義のキャンセル。



カードタイプ/技術	ATR
ISO14443 -4、 Type A	3B 8n 80 01 T1 ..Tn Tck n = ATS 内履歴バイト数 T1 ..Tn = ATS 内履歴バイト数 Tck = xor 8n 80 01 T1 ..Tn
ISO14443 -4、 Type B	3B 88 80 01 T1 ..T8 Tck T1 ..T4 = ATQB 中のアプリケーションデータ T5 ..T7 =ATQB 中のプロトコル情報 T8 = ATA 中の MBLI Tck = xor 88 80 01 T1 ..T8
FeliCa	3B 8F 80 01 80 4F 0C A0 00 00 03 06 11 00 3B 00 00 00 00 42
ISO15693-3 Generic	3B 8F 80 01 80 4F 0C A0 00 00 03 06 0B 00 00 00 00 00 00 63
Infineon My-D Vicinity (SRF55Vxxx)	3B 8F 80 01 80 4F 0C A0 00 00 03 06 0B 00 0E 00 00 00 00 6D
ST LRI	3B 8F 80 01 80 4F 0C A0 00 00 03 06 0B 00 13 00 00 00 00 70
NXP I-Code SLI	3B 8F 80 01 80 4F 0C A0 00 00 03 06 0B 00 14 00 00 00 00 77
NXP I-Code SLIX/SLIX2	3B 8F 80 01 80 4F 0C A0 00 00 03 06 0B 00 35 00 00 00 00 56
PicoPass 2K	ISO14443B: 3B 8F 80 01 80 4F 0C A0 00 00 03 06 06 00 17 00 00 00 00 79
PicoPass 2KS	ISO14443B: 3B 8F 80 01 80 4F 0C A0 00 00 03 06 06 00 18 00 00 00 00 76
PicoPass 16K	ISO14443B: 3B 8F 80 01 80 4F 0C A0 00 00 03 06 06 00 19 00 00 00 00 77
PicoPass 16KS	ISO14443B: 3B 8F 80 01 80 4F 0C A0 00 00 03 06 06 00 1A 00 00 00 00 74
PicoPass 16K (8 x 2)	ISO14443B: 3B 8F 80 01 80 4F 0C A0 00 00 03 06 06 00 1B 00 00 00 00 75
PicoPass 16KS (8 x 2)	ISO14443B: 3B 8F 80 01 80 4F 0C A0 00 00 03 06 06 00 1C 00 00 00 00 72
PicoPass 32KS (16 + 16)	ISO14443B: 3B 8F 80 01 80 4F 0C A0 00 00 03 06 06 00 1D 00 00 00 00 73
PicoPass 32KS (16 + 8x2)	ISO14443B: 3B 8F 80 01 80 4F 0C A0 00 00 03 06 06 00 1E 00 00 00 00 70
PicoPass 32KS (8x2 + 16)	ISO14443B: 3B 8F 80 01 80 4F 0C A0 00 00 03 06 06 00 1F 00 00 00 00 71
PicoPass 32KS (8x2 + 8x2)	ISO14443B: 3B 8F 80 01 80 4F 0C A0 00 00 03 06 06 00 20 00 00 00 00 4E

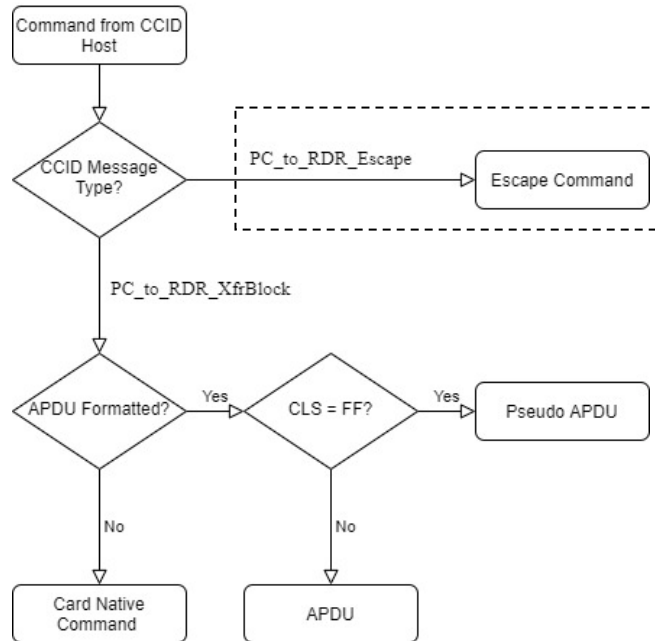


一般的なアプリケーションの応答時間を短縮するために、デフォルトでは次の PICC タイプ/テクノロジーのサポートが無効になっています。ユーザーは、直接コマンド“Set operation Mode”で、さまざまなタイプ/テクノロジーのサポートを有効にすることができます。対応するタイプ/テクノロジーが有効になり、リーダーにカードをタッチ、PC _ to _ RDR _ IccPowerOn コマンドは次の ATR を CCID ホストに返します。

カードタイプ/技術	ATR
SRI (SRIX4K/SRT512)	3B 8F 80 01 80 4F 0C A0 00 00 03 06 06 00 07 00 00 00 00 69
Topaz	3B 8F 80 01 80 4F 0C A0 00 00 03 06 02 00 30 00 00 00 00 5A
PicoPass 2K	ISO15693: 3B 8F 80 01 80 4F 0C A0 00 00 03 06 0A 00 17 00 00 00 00 75
PicoPass 2KS	ISO15693: 3B 8F 80 01 80 4F 0C A0 00 00 03 06 0A 00 18 00 00 00 00 7A
PicoPass 16K	ISO15693: 3B 8F 80 01 80 4F 0C A0 00 00 03 06 0A 00 19 00 00 00 00 7B
PicoPass 16KS	ISO15693: 3B 8F 80 01 80 4F 0C A0 00 00 03 06 0A 00 1A 00 00 00 00 78
PicoPass 16K (8 x 2)	ISO15693: 3B 8F 80 01 80 4F 0C A0 00 00 03 06 0A 00 1B 00 00 00 00 79
PicoPass 16KS (8 x 2)	ISO15693: 3B 8F 80 01 80 4F 0C A0 00 00 03 06 0A 00 1C 00 00 00 00 7E
PicoPass 32KS (16 + 16)	ISO15693: 3B 8F 80 01 80 4F 0C A0 00 00 03 06 0A 00 1D 00 00 00 00 7F
PicoPass 32KS (16 + 8x2)	ISO15693: 3B 8F 80 01 80 4F 0C A0 00 00 03 06 0A 00 1E 00 00 00 00 7C
PicoPass 32KS (8x2 + 16)	ISO15693: 3B 8F 80 01 80 4F 0C A0 00 00 03 06 0A 00 1F 00 00 00 00 7D
PicoPass 32KS (8x2 + 8x2)	ISO15693: 3B 8F 80 01 80 4F 0C A0 00 00 03 06 0A 00 20 00 00 00 00 42
Innovatron	3B 88 80 01 80 4F 05 F0 49 4E 4E 4F 35
CTS	3B 87 80 01 80 4F 04 F0 43 54 53 79

6.0. Escape コマンド

(Escape) コマンドは、PC_to_RDR_Escape (PCSC API の SCARD_CTL_CODE (3500) に対応する SCardControl()) を介して送信されます。コマンドの処理完了すると、リーダライタは RDR_to_PC_Escape メッセージを介してレスポンスを返します。



以下のコマンドは、PCD/NFC の構成、およびリーダライタへのアクセスのための特別な機能に使用されます。CCID ホストが PCSC API の SCARD_CTL_CODE (3500 (SCardControl)) に対応する CCID メッセージ PC_to_RDR_Escape を使用して、カードリーダーにこれらのコマンドを送信することができます。Escape コマンドを受信すると、リーダライタはコマンドを解読して実行し、レスポンスを生成して CCID ホストに返信します。

注釈：

これらのコマンドは正しいインタフェースを介して送信する必要があります。例えば、E 0 00 25 01 00 (6.4.1節) は PICCインタフェースを介して送信されるべきです (6.0節)。

6.1. PICCEscape コマンド

6.1.1. RF 制御 (RF Control) [E0 00 00 25 01 ...]

このコマンドは RF 制御を設定するために使われます。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc	データ出力
RF Control	E0h	00h	00h	25h	01h	RF 状態

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン
結果	E1h	00h	00h	00h	01h	RF 状態

RF 状態 : 1 バイト

RF 状態	説明
00h	RF オフ
01h	RF オン ポーリング
02h	RF オン ポーリングしない

デフォルト設定 – 01h (RF オン ポーリング)

6.1.2. PCD/PICC 状態取得 (Get PCD/PICC Status) [E0 00 00 25 00]

このコマンドは PCD/PICC の状態を取る際に使用されます。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Le
Get PCD/PICC Status	E0h	00h	00h	25h	00h

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン
結果	E1h	00h	00h	00h	01h	Get PCD/PICC Status

PCD/PICC 状態 : 1 バイト

RF 状態	説明
00h	RF オフ
01h	PICC ない
02h	PICC 準備完了
03h	PICC 選択済み/アクティブ
FFh	エラー

6.1.3. ポーリング/ATR オプションの取得 (Get Polling/ATR Option) [E0 00 00 23 00]

このコマンドはポーリングオプションを設定/取得するために使用され、他のコマンドを使用することなく設定を保存できます。このコマンドは、最初のリーダ/ライタ構成にのみ使用されます。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Le
Get Polling/ATR Option	E0h	00h	00h	23h	00h

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン
結果	E1h	00h	00h	03h	01h	PICCのポーリング/ATR オプション

6.1.4. ポーリング/ATR オプションの設定 (Set Polling/ATR Option) [E0 00 00 23 01 ...]

このコマンドはポーリングオプションを設置する時に使われます。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc	データ出力
Set Polling/ATR Option	E0h	00h	00h	23h	01h	PICCのポーリング/ATR オプション

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン
結果	E1h	00h	00h	00h	01h	PICCのポーリング/ATR オプション

PICC ポーリング/ATR オプション 1 バイト

操作パラメータ	パラメータ	説明	オプション
Bit 0	ポーリングを有効する	PICCが検出待ちのタブタイプをポーリングします。	1 = 検出 0 = スキップ
Bit 1	RF オフ間隔を有効にする		
Bit 2		RFU	
Bit 3	追加の MIFARE タイプに対する第 3 部分カード ATR の識別を有効にする	PICC が検出待ちのタブタイプをポーリングします。	1 = 検出 0 = スキップ 下記の表を確認ください
Bit 4 ~ 5	RF オフ		
Bit 6		RFU	
Bit 7	SmartMX/JCOS カードシミュレーション MIFARE 用のパート 4 ATR を有効化	PICC が検出待ちのタブタイプをポーリングします。	1 = 検出 0 = スキップ

RF オフ間隔-2 Bit ケース 1 : RF オフ無効 (Bit 1 = 0)

操作パラメーター		USB 実行(D0)	USB 保留(D2)
Bit 5	Bit 4		
0	0	RF オフない	250 ms
0	1		500 ms
1	0		1000 ms
1	1		2500 ms

ケース 2 : RF オフ有効 (Bit 1 = 1)

操作パラメーター		USB 実行(D0)	USB 保留(D2)
Bit 5	Bit 4		
0	0	250 ms	500 ms
0	1	500 ms	1000 ms
1	0	1000 ms	2500 ms
1	1	2500 ms	2500 ms

デフォルト設定-8 Bh (ポーリングを有効にし、RF オフを有効にし、第 3 部分カードが ATR における追加の MIFARE タイプの識別を有効にし、Rf オフ間隔 [00]、SmartMX/JCOS カードシミュレーション MIFARE に適用する第 4 部分 ATR を有効にする)

6.1.5. PICC ポーリングタイプ取得 (Get PICCPolling Type) [E0 00 01 20 00]

このコマンドは許可されるテクノロジー/ポーリングタイプを取得するために使用され、他のコマンドを使用することなく設定を保存できます。最初のリーダー/ライター構成にのみ使用されます。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Le
Get PICC Polling Type	E0h	00h	01h	20h	00h

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン
結果	E1h	00h	00h	00h	02h	PICC ポーリングタイプ

6.1.6. PICC ポーリングタイプ設定 (Set PICC Polling Type) [E0 00 01 20 02 ...]

このコマンドは PICC ポーリングタイプを設置する時に使われます。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc	データ出力	
						バイト 1	バイト 0
Set PICC Polling Type	E0h	00h	01h	20h	02h	PICC ポーリングタイプ	

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン	
						バイト 1	バイト 0
結果	E1h	00h	00h	00h	02h	PICC ポーリングタイプ	

PICC ポーリングタイプ-2 バイト、LSB の前で、ビットマスクは次の通りです

バイト	操作パラメーター	パラメーター	説明	オプション
バイト 1	Bit 0	ISO 14443A	PICCが検出待ちのタブタイプをポーリングします。RFUビットは0に設定してください。	1 = 検出 0 = スキップ
	Bit 1	ISO 14443B		
	Bit 2	FeliCa		
	Bit 3	RFU		
	Bit 4	Topaz		
	Bit 5	Innovatron		
	Bit 6	SRI/SRIX		
	Bit 7	RFU		
バイト 0	Bit 0	Picopass (ISO14443B)		
	Bit 1	Picopass (ISO15693)		
	Bit 2	ISO15693		
	Bit 3	CTS		
	Bit 4-7	RFU		

デフォルト設定- バイト 1 : 07h (ISO14443 Aタイプ、ISO14443 Bタイプ、FeliCa)

バイト 0 : 05h (Picopass (ISO14443B), ISO15693)

例：

コマンド： E0 00 01 20 02 07 05

応答： E1 00 00 00 02 07 05

ポーリングタイプ: バイト 1 = 07h = 0000 0111b = ISO14443A、ISO14443B、FeliCa

バイト 0 = 05h = 0000 0101b = Picopass (ISO14443B), ISO15693

6.1.7. 自動 PPS 取得 (Get Auto PPS) [E0 00 00 24 00]

PICC が認識されるたびに、リーダーは最大接続速度によっては定義変更れた PCD および PICC との間の通信速度を変更しようとします。カードが提案された接続速度をサポートしていない場合、リーダーはより遅い速度でとカードと接続しようとします。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Le
Get Auto PPS	E0h	00h	00h	24h	00h

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン	
結果	E1h	00h	00h	00h	02h	最高速度	現在速度

6.1.8. 自動 PPS 設定 (Set Auto PPS) [E0 00 00 24 01...]

このコマンドは自動的な PPS のを設置するために使用されます。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc	データ出力
Set Auto PPS	E0h	00h	00h	24h	01h	最高速度

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン	
結果	E1h	00h	00h	00h	02h	最高速度	現在速度



PPSの速率

速率	説明
00h	106 kbps;自動PPSが設定されていないと同じです。
01h	212 kbps
02h	424 kbps
03h	848 kbps

デフォルト設定 – 02h(424 kbps)

注釈：

- 1、通常、アプリケーションが使用中のPICCの最大接続速度を知っている必要があります。環境にも達成可能な最大速度に影響します。リーダーは提案されている通信速度をによるして、PICCと話をします。PICCや環境が提案されている通信速度の要件を満たしていない場合、PICCはアクセスできなくなります。
- 2、高いレート設定がリーダライタの動作に影響を与える場合は、低いレート設定に切り替えます。

6.1.9. PICC タイプ取得 (Read PICC Type) [E0 00 00 35 00]

PICC タイプを読み取る時にこのコマンドを使用します。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Le
Get PICC Type	E0h	00h	00h	35h	00h

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン	
結果	E1h	00h	00h	00h	02h	タイプ	状態

タイプ : 1 バイト

タイプ	説明
CCh	PICC ない
04h	Topaz
10h	MIFARE
11h	FeliCa
20h	Type A, Part 4
23h	Type B, Part 4
25h	Innovatron
28h	SRIX
30h	PicoPass
FFh	その他

状態 : 1 バイト

状態	説明
00h	RF オフ
01h	PICC ない
02h	PICC 準備完了
03h	PICC 選択済み/アクティブ
FFh	エラー

6.1.10. PICC- HID キーボードの Escape コマンド

6.1.10.1. 出力フォーマット取得 (Get Output Format) [E0 00 00 90 00]

このコマンドは RTC の出力フォーマットを取得する時に使用されます。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Le
Get Output Format	E0h	00h	00h	90h	00h

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン	
結果	E1h	00h	00h	00h	02h	出力フォーマット	出力順番

6.1.10.2. 出力フォーマット設定 (Set Output Format) [E0 00 00 90 02...]

このコマンドは出力フォーマットを設定する時に使用されます。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc	データ出力	
Set Output Format	E0h	00h	00h	90h	02h	出力フォーマット	出力順番

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン	
結果	E1h	00h	00h	00h	02h	出力フォーマット	出力順番

出力フォーマット 1 バイト。

操作パラメーター	パラメーター	説明	オプション
Bit 7 ~ 4	文字の大文字と小文字	PICCが検出待ちのタブタイプをポーリングします。	1 = 検出 0 = スキップ
Bit 3 ~ 0	表示モード		

出力順番 1 バイト。



状態	説明
00h	デフォルト順番(UIDバイト0, UIDバイト1 ... UIDバイトN) 例 : aa cc bb dd (原始/実際のUID順番)
01h	順番反転(UIDバイトN, UIDバイトN-1 ... UIDバイト0) 例 : dd bb cc aa (UID順番反転)

大文字と小文字 : 高 4 位(Bit 7 から Bit 4 まで)

状態(bit 7 から bit 4 まで)	説明(x bit を注目する必要がない)
1XXX	保留
00x0	小文字
00x1	大文字
000x	4バイトのUIDのみサポート
001x	4、7、8、10バイトのUIDサポート

表示モード : 低 4 位(Bit 3 から Bit 0)

状態(bit 7 から bit 4 まで)	説明(x bit を注目する必要がない)
0h	Hex
1h	Dec (バイトごと)
2h	Dec
3h	6H-6H
4h	8H-8H
5h	10H-10H
6h	14H-14H
7h	20H-20H
8h	6H-8D



状態(bit 7 から bit 4 ま で)	説明(x bit を注目する必要がない)
9h	6H-10D
Ah	8H-10D
Bh	10H-14D
Ch	2H4H-8D
Dh	14H-17D

6.1.10.3. UID 開始、中間、終了ビット文字の取得 (Get Character at Start, Between, at End UID) [E0 00 00 91 00]

このコマンドは UID 開始、中間、終了のビットを取得する際に使用されます。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Le
Get Character of UID	E0h	00h	00h	91h	00h

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン		
結果	E1h	00h	00h	00h	03h	中間	終わり	スタート

6.1.10.4. UID 開始、中間、終了ビット文字の設定 (Set Character at Start, Between, at End UID) [E0 00 00 91 03...]

このコマンドは UID 開始、中間、終了のビットを設定する際に使用されます。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc	データ出力		
Set Character of UID	E0h	00h	00h	91h	03h	中間	終わり	スタート

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン		
結果	E1h	00h	00h	00h	03h	中間	終わり	スタート

中間 : 1 バイト (各 UID 間のキャラクター)

状態	説明
FFh	中間にはキャラクターがない
その他	汎用シリアルバス (USB) HID使用テーブルを参照

終わり 1 バイト (末尾の文字を出力)

状態	説明
FFh	中間にはキャラクターがない
その他	汎用シリアルバス (USB) HID使用テーブルを参照

終始 1 バイト (開始文字を出力)

状態	説明
FFh	中間にはキャラクターがない
その他	汎用シリアルバス (USB) HID使用テーブルを参照

注釈:

1. AZERTYキーボードレイアウトは、零(0)とバックスペースキー“ではなく;” “,” “,” “,” “-”を中間の文字としてサポートされます。

6.1.10.5. キーボードレイアウト言語の取得 (Get Keyboard Layout Language) [E0 00 00 92 00]

このコマンドはキーボードレイアウト言語を取得する時に使用されます。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Le
Get Keyboard Layout Language	E0h	00h	00h	92h	00h

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン
結果	E1h	00h	00h	00h	01h	キーボードレイアウト言語

6.1.10.6. キーボードレイアウト言語の設定 (Set Keyboard Layout Language) [E0 00 00 92 01 ...]

このコマンドはキーボードレイアウト言語を設定する時に使用されます。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc	データ出力
Set Keyboard Layout Language	E0h	00h	00h	92h	01h	キーボードレイアウト言語



応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン
結果	E1h	00h	00h	00h	01h	キーボードレイアウト言語

キーボードレイアウト言語：1バイト

状態	説明
00h	英語
01h	フランス語
02h	保留
03h	リトアニア語

6.1.10.7. ホストインターフェース取得 (Get Host Interface) [E0 00 00 93 00]

このコマンドはホストインターフェースを取得する時に使用されます。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Le
Get Host Interface	E0h	00h	00h	93h	00h

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン
結果	E1h	00h	00h	00h	01h	ホストインターフェース

6.1.10.8. ホストインターフェース設定 (Set Host Interface) [E0 00 00 93 01...]

このコマンドはホストインターフェースを設定する時に使用されます。

お知らせ : 設定を適用するために、リーダーは自動的に電源を切ります。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc	データ出力
Set Host Interface	E0h	00h	00h	93h	01h	ホストインターフェース

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン
結果	E1h	00h	00h	00h	01h	ホストインターフェース

ホストインターフェース:バイト

状態	説明
00h	HIDキーボードのみ適応
01h	CCIDカードリーダーのみ適用

デフォルト設定—01h

6.1.11. PICC-カードシミュレーションの Escape コマンド

6.1.11.1. カードエミュレーションモードに入る (Enter Card Emulation Mode) [E0 0000 00 40 03 ...]

このコマンドは、MIFARE Ultralight カードや FeliCa カードをエミュレートするために、リーダーをカードエミュレーションモードに設定するために使用されます。

注： Lock バイトは、エミュレートされた MIFARE Ultralight カードでサポートされていません。UID は、ユーザが設定可能です。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc	データ出力		
Enter Card Emulation Mode	E0h	00h	00h : 臨時 01h : 保存	40h	03h	NFC モード	00h	00h

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン
結果	E1h	00h	00h	00h	03h	NFC モード

NFC 設備モード : 3 バイト

状態	説明
02h	NFCフォーラムタイプ2ラベルモード
03h	FeliCa
その他	カードリーダー/ライターモード

注： 異なるカードシミュレーションモードに切り替える前に、まずカードの読み取り/書き込みモードに入ってください。カードシミュレーションモードの初期完了後にレスポンスが表示されます。



バイトナンバー	0	1	2	3	USB でバイトアドレスへのアクセス
シリアルナンバー	SN0	SN1	SN2	SN3	Nil
保留	保留	保留	保留	保留	Nil
内部/ロック	保留	内部	Lock0	Lock1	Nil
データ読み取り/書き込み	Data0	Data1	Data2	Data3	0-3
データ読み取り/書き込み	Data4	Data5	Data6	Data7	4-7
データ読み取り/書き込み	Data8	Data9	Data10	Data11	8-11
データ読み取り/書き込み	Data12	Data13	Data14	Data15	12-15
データ読み取り/書き込み	Data16	Data17	Data18	Data19	16-19
データ読み取り/書き込み	Data20	Data21	Data22	Data23	20-23
データ読み取り/書き込み	Data24	Data25	Data26	Data27	24-27
データ読み取り/書き込み	Data28	Data29	Data30	Data31	28-31
データ読み取り/書き込み	Data32	Data33	Data34	Data35	32-35
データ読み取り/書き込み	Data36	Data37	Data38	Data39	36-39
データ読み取り/書き込み	Data40	Data41	Data42	Data43	40-43
データ読み取り/書き込み	Data44	Data45	Data46	Data47	44-47
データ読み取り/書き込み	Data48	Data49	Data50	Data51	48-51
データ読み取り/書き込み	Data52	Data53	Data54	Data55	52-55
データ読み取り/書き込み	
データ読み取り/書き込み	Data1984	Data1985	Data1986	Data1987	1984-1987

アクセス可能領域
(1988 バイト)

表16 : NFC フォーラムタイプ 2 ラベルのメモリマップ (2000 バイト)

メモリ	1 データブロック (16 バイト)	USB でバイトアドレスへのアクセス
データリーダー/ライター	Block 0	0-15
データ読み取り/書き込み	Block 1	16-31
データ読み取り/書き込み	Block 2	32-47
データ読み取り/書き込み	Block 3	48-63
データ読み取り/書き込み	Block 4	64-79
データ読み取り/書き込み	Block 5	80-95
データ読み取り/書き込み	Block 6	96-111
データ読み取り/書き込み	Block 7	112-127
データ読み取り/書き込み	Block 8	128-143
データ読み取り/書き込み	Block 9	144-159

表17 : FeliCa カードのメモリマップ (160 バイト)

その中 :

デフォルト : ブロック 0 データ:{10h, 01h, 01h, 00h, 09h, 00h, 00h, 00h, 00h, 00h, 01h, 00h, 00h, 00h, 00h, 1Ch}

デフォルトブロック 0 のデータ NFC タイプ 3 タグの属性情報ブロック

注釈 :

1. FeliCa カードエミュレーションのサポートは暗号化せずに読み取り/書き込み。
2. FeliCa カード識別番号 (IDm) はユーザに定義可能で、メーカーコードが (0388) に固定されています。

6.1.11.2. カードエミュレーションのデータを読み取る (Read Card Emulation Data) (NFC フォーラムタイプ 2 ラベル) [E0 00 00 60 04 ...]

このコマンドはカードエミュレーションカードのデータを読み取るために使用されます。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc	コマンドデータイン			
Read Card Emulation Data	E0h	00h	00h	60h	04h	00h	NFC モード	終始オフセット	長さ

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン
結果	E1h	00h	00h	00h	長さ	データ

終始オフセット： 1バイト – **表 16** 中 Data0 からのアドレス

長さ： 1バイト – バイト数量

6.1.11.3. カードエミュレーションのデータ書き込む (Write Card Emulation Data) (NFC フォーラムタイプ 2 ラベル) [E0 00 00 60 ...]

このコマンドは、エミュレートされたカードへの書き込みに使用されています。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc	コマンドデータイン				
Write Card Emulation Data	E0h	00h	00h	60h	長さ + 04h	01h	NFC モード	終始オフ セット	長さ	データ

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン				
結果	E1h	00h	00h	00h	03h	長さ	90h	00h		

NFC 設備モード：1バイト

状態	説明
02h	NFCフォーラムタイプ2ラベルモード
03h	FeliCa
その他	カードリーダライタモード

終始オフセット： 1バイト – **表 16** 中 Data0 からのアドレス

長さ： 1バイト – バイト数量

6.1.11.4. カードエミュレーションのデータを読み取る (Read Card Emulation Data) (NFC フォーラムタイプ 2 ラベル) (拡張)

このコマンドはカードエミュレーションカードのデータを読み取るために使用されます。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc		コマンドデータイン				
Read Card Emulation Data	E0h	00h	01h	60h	05h	00h	NFC モード	終始オフセ ット Bit [15:8]	終始オフセ ット Bit [7:0]		長さ

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン					
結果	E1h	00h	00h	00h	長さ	データ					

終始オフセット： 2バイト – 表 16 中 SN 0 からアドレスを読み取る

長さ： 1バイト – 読み取り待ちのバイト

6.1.11.5. カードエミュレーションのデータ書き込む (Write Card Emulation Data) (NFC フォーラムタイプ 2 ラベル) (拡張)

このコマンドは、エミュレートされたカードへの書き込みに使用されています。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc		コマンドデータイン				
Write Card Emulation Data	E0h	00h	01h	60h	長さ + 05h	01h	NFC モード	終始オフセ ット Bit [15:8]	終始オフセ ット Bit [7:0]	長さ	デー タ

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン					
結果	E1h	00h	00h	00h	03h	長さ	90h	00h			

NFC 設備モード： 1 バイト

状態	説明
02h	NFCフォーラムタイプ2ラベルモード
その他	カードリーダ/ライターモード

終始オフセット： 2バイト – 表 16 中 SN 0 からアドレスを書き込む

長さ： 1バイト – 書き込み待ちのバイト

6.1.11.6. NFC フォーラムタイプ 2 ラベル模擬 ID を設定 (Set Card Emulation of NFC Forum Type 2 Tag ID) [E0 00 00 61 03 ...]

このコマンドは、エミュレートされた MIFARE Ultralight の UID を設定するために使用されています。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc	コマンドデータイン
Set Card Emulation Lock Data	E0h	00h	00h	61h	03h	3 バイトの UID

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン
結果	E1h	00h	00h	00h	02h	90h 00h

6.1.11.7. NFC カードエミュレーションロックデータロックを設定する (Set Card Emulation Lock Data in NFC) [E0 00 00 65 01...]

このコマンドは NFC 通信中、カードエミュレーションのデータをロックするために使用されます。データがロックされると、NFC で書き換えることができません。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc	コマンドデータイン
Set Card Emulation Lock Data	E0h	00h	00h	65h	01h	ロック

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン
結果	E1h	00h	00h	00h	01h	ロック

ロック：1 バイト-NFC 通信で書き換えされないように、データを保護します。

操作パラメーター	パラメーター	説明	オプション
Bit 7 ~ 2	保留	保留	
Bit 1	Felica ロックを有効にする	データは NFC 通信で書き換えられません。USB 直接コマンドでデータを変更できます。	0：ロックを無効にする
Bit 0	NFC フォーラムタイプ 2 タブを有効にする		1：ロックを有効にする

6.1.11.8. カードエミュレーションの FeliCa の IDM を設定する (Set Card Emulation FeliCa IDm) [E0 00 00 64 06 ...]

このコマンドはカードエミュレーションの FeliCa カード上で、6 バイトの FeliCa カードフラグを設定するために使用されます。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc	コマンドデータイン
Set Card Emulation FeliCa IDm	E0h	00h	00h	64h	06h	IDm

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	データ出力
結果	E1h	00h	00h	00h	06h	IDm

その中 :

IDm 6 バイト

6.1.11.9. カードエミュレーション状態取得 (Get Card Emulation Status) [E0 00 00 69 00]

このコマンドは NFC 通信中、カードエミュレーションのデータを取得するために使用されます。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc
Get Card Emulation Status	E0h	00h	00h	69h	00h

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン
結果	E1h	00h	00h	00h	01h	状態

状態 : 1 バイト

操作パラメータ	モード	説明
Bit 7 ~ 6	保留	保留
Bit 5	模擬カードがアクティブ化された	1 = アクティブ化される
Bit 4	模擬カードが外れた	1 = カードが外れた
Bit 3	模擬カードが全部読み取りました	1 = すべてのデータが読み取りました
Bit 2	模擬カードが読み取りました	1 = データが読み取りました



操作パラメータ	モード	説明
Bit 1	模擬カード書き込まれた	1 = データ書き込まれた
Bit 0	模擬カードが検出された	1 = カード検出



6.1.11.10. シミュレーション NFC フォーラムタイプ 2 ラベルモードのコマンドサンプルセット

このコマンドセットは、ACR1555U の NFC フォーラムタイプ 2 ラベルモードをシミュレートし、ACS サイトをトリガします
<https://www.acs.com.hk>。ステップ：

1. 次のコマンドを使用してカードシミュレーションモードに入ります。

- 送信进入卡模拟模式 (Enter Card Emulation Mode)

E0 00 00 40 03 02 00 00

2. 下記のコマンドで NDEF データを含めています。データ書きます：

- 送信写入卡模拟数据 (Write Card Emulation Data) (NFC 论坛类型 2 标签)

**E0 00 00 60 1A 01 02 00 16 E1 10 F4 00 03 0F D1 01 0B 55 02 61 63 73 2E 63 6F 6D
2E 68 6B FE**

コマンドセットは、長い URL アドレスの例をトリガします

<https://www.example.com/this/is/a/very/long/url/that/keeps/going/on/and/on/with/even/more/segments/added/to/make/sure/it/exceeds/the/typical/length/limit/of/260/bytes/which/is/surprisingly/easy/to/do/if/you/keep/adding/more/and/more/segments/like/this/one/and/even/more>

ACR1555U で NFC フォーラムタイプ 2 ラベルモードをシミュレーションします。。ステップ：

1. 次のコマンドを使用してカードシミュレーションモードに入ります。

- 进入卡模拟模式 (Enter Card Emulation Mode) を送信する

E0 00 00 40 03 02 00 00

2. 下記のコマンドで NDEF データを書きます：

- 写入卡模拟数据 (Write Card Emulation Data) (NFC 论坛类型 2 标签) コマンドを送信する NDEF メッセージは 256 バイトを超えるため、2 つの部分に分けて NFC フォーラムタイプ 2 タグに送信する必要があります。

**E0 00 00 60 AC 01 02 00 A8 E1 10 F4 00 03 FF 01 09 C1 01 00 00 01 02 55 02 65 78
61 6D 70 6C 65 2E 63 6F 6D 2F 74 68 69 73 2F 69 73 2F 61 2F 76 65 72 79 2F 6C 6F
6E 67 2F 75 72 6C 2F 74 68 61 74 2F 6B 65 65 70 73 2F 67 6F 69 6E 67 2F 6F 6E 2F
61 6E 64 2F 6F 6E 2F 77 69 74 68 2F 65 76 65 6E 2F 6D 6F 72 65 2F 73 65 67 6D 65
6E 74 73 2F 61 64 64 65 64 2F 74 6F 2F 6D 61 6B 65 2F 73 75 72 65 2F 69 74 2F 65
78 63 65 65 64 73 2F 74 68 65 2F 74 79 70 69 63 61 6C 2F 6C 65 6E 67 74 68 2F 6C
69 6D 69 74 2F 6F 66 2F 32 36 30 2F 62 79 74**

**E0 00 00 60 6E 01 02 A8 6A 65 73 2F 77 68 69 63 68 2F 69 73 2F 73 75 72 70 72 69
73 69 6E 67 6C 79 2F 65 61 73 79 2F 74 6F 2F 64 6F 2F 69 66 2F 79 6F 75 2F 6B 65
65 70 2F 61 64 64 69 6E 67 2F 6D 6F 72 65 2F 61 6E 64 2F 6D 6F 72 65 2F 73 65 67
6D 65 6E 74 73 2F 6C 69 6B 65 2F 74 68 69 73 2F 6F 6E 65 2F 61 6E 64 2F 65 76 65
6E 2F 6D 6F 72 65 FE**

注釈：

NDEF (NFC データ相互フォーマット) に関する詳細な情報と規定を了解する必要がある場合は、NDEF 仕様を参照することをお勧めします。この仕様では、NDEF レコードの構造と使用について包全面的なガイドラインと詳細情報を提供し、これらの NDEF レコードは NFC データのインタラクションによく使用されています。NDEF 仕様は、ACR1555U デバイス環境における NDEF コマンドとデータの解釈と利用方法を深く理解するのに役立ちます。

6.2. ICCEscape コマンド

6.2.1. カード電源取得 (Get Card Power Configuration) [E0 00 00 0B 00]

このコマンドは、ICC カードの電源構成を取得するために使用され、最初のリーダライタ構成のみに使用されます。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Le
Get Card Power Configuration	E0h	00h	00h	0Bh	00h

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン
結果	E1h	00h	00h	00h	01h	カード電源配置

6.2.2. カード電源配置設定 (Set Card Power Configuration) [E0 00 00 0B 01...]

このコマンドはと ICC カードの電源配置を設定する時に使われます。最初のリーダライタ構成にのみ使用されます。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc	データ出力
Set Card Power Configuration	E0h	00h	00h	0Bh	01h	配置

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン
結果	E1h	00h	00h	00h	01h	カード電源配置

カードの電源配置 (1 バイト)

カード電源配置	説明
00h	自動検出、1.8V -> 3V -> 5V
01h	5 V のみ
02h	3 V のみ
03h	1.8 V のみ
04h	自動検出、5V -> 3V -> 1.8V



カード電源配置	説明
その他	RFU

デフォルト設定 - 04h (自動検出、5V -> 3V -> 1.8V)

6.3. 周辺設備制御と他の Escape コマンド

6.3.1. ファームウェアバージョン取得 (Get Firmware Version) [E0 00 00 18 00]

このコマンドはファームウェアのバージョンを入手する時に使われます。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Le
Get Firmware Version	E0h	00h	00h	18h	00h

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン
結果	E1h	00h	00h	00h	ファームウェアのバージョンの長さ	ファームウェアのバージョン

例：

コマンド： E0 00 00 18 00

応答コード： E1 00 00 00 12 41 43 52 31 35 35 35 20 46 57 20 31 2E 30 30 2E 30 30

16進法ファームウェアバージョン： 41 43 52 31 35 35 35 20 46 57 20 31 2E 30 30 2E 30 30

ASCII ファームウェアのバージョン： ACR1555 FW 1.00.00

6.3.2. シリアルナンバー取得 (Get Serial Number) [E0 00 00 47 00]

シリアルナンバーを取得する時にこのコマンドを使用します。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Le
Get Serial Number	E0h	00h	00h	47h	00h

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	データ出力
結果	E1h	00h	00h	00h	シリアルナンバーの長さ	シリアルナンバー

6.3.3. USB 記述子内の S/N を設定する (Set S/N in USB Descriptor) [E0 00 00 F0]

このコマンドは USB 記述子内の S/N を設定するために使われます。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン	
Set S/N in USB Descriptor	E0h	00h	00h	F0h	02h	00h	USB 記述子内の SN を有効する

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	データ出力		
結果	E1h	00h	00h	00h	03h	USB 記述子内の SN を有効する	90h	00h

USB 記述子内の SN を有効する (1 バイト)

USB 記述子内の SN を有効する	説明
00h	USB 記述子内の SN を無効する
01h	USB 記述子内の SN を有効する

6.3.4. ブザー制御の設定-単発 (Set Buzzer Control - Single Time) [E0 00 00 28 01 ...]

このコマンドは単発のブザーを設定するために使用されます。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc	データ出力
Buzzer Control	E0h	00h	00h	28h	01h	ブザー状態

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン
結果	E1h	00h	00h	00h	01h	ブザー状態



ブザーの状態(1バイト)

ブザー状態	説明
00h	OFF
01 ~ FFh	オン、持続時間は 10 ms を単位にする

6.3.5. ブザー制御の設定-重複 (Set Buzzer Control - Repeatable) [E0 00 00 28 03 ...]

このコマンドはブザーの周期を設定するために使用されます

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc	データ出力
Buzzer Control	E0h	00h	00h	28h	03h	ブザー状態

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン
結果	E1h	00h	00h	00h	03h	ブザー状態

ブザーの状態(3バイト)

操作パラメーター	ブザー状態	説明
パラメーター1 - バイト0	オン時間帯	01 ~ FF: オンにする持続時間は 10 ms を単位にする
パラメーター2 - バイト1	OFF 時間帯	01 ~ FF: OFF にする持続時間は 10 ms を単位にする
パラメーター3 - バイト2	繰り返し回数	01 ~ FF: 繰り返し回数

6.3.6. LED 状態取得 (Get LED Status) [E0 00 00 29 00]

このコマンドは LED の状態を取得するために使用されます。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Le
Get LED Status	E0h	00h	00h	29h	00h

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン
結果	E1h	00h	00h	00h	01h	LED 状態

6.3.7. LED 制御設定 (Set LED Control) [E0 00 00 29 01 ...]

このコマンドは LED 制御を設定するために使われます

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc	データ出力
Set LED Control	E0h	00h	00h	29h	01h	LED 状態

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン
結果	E1h	00h	00h	00h	01h	LED 状態

LED 状態 (1 バイト)

LED 状態	説明
Bit 0 : 緑の LED	1 = ON ; 0 = OFF
Bit 2 = 青色 LED	1 = ON ; 0 = OFF
Bit 3 : 黄色の LED	1 = ON ; 0 = OFF
Bit 4-7 : RFU	その他

6.3.8. UI 操作取得 (Get UI Behaviour) [E0 00 00 21 00]

このコマンド PCD UI の操作を取得するために使用され、他のコマンドを使用することなく設定を保存できます。最初のリーダライタ構成にのみ使用されます。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Le
Get PICC UI Behaviour	E0h	00h	00h	21h	00h

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン
結果	E1h	00h	00h	00h	01h	PICC UI 操作

6.3.9. UI 操作設定 (Set UI Behaviour) [E0 00 00 21 01 ...]

このコマンドは PICC UI 操作のパラメータを設定するために使われます。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc	データ出力
Set PICC UI Behaviour	E0h	00h	00h	21h	01h	PICC UI 操作

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン
結果	E1h	00h	00h	00h	01h	PICC UI 操作

UI 操作-1 バイト、ビットマスクは次の通りです

操作パラメータ	パラメータ	説明	オプション
Bit 0	動作中 (LED が速く点滅する)	リーダーのUI操作	1 = 有効にする 0 = 無効にする
Bit 1	カードの提示待ち (LED 点灯)		
Bit 2	カードが存在/アクティブ化 (LED 点灯)		
Bit 3	カードがアンテナ領域に入るイベント (ブザーが一時的に鳴る)		
Bit 4	カードがアンテナ領域から外すイベント (ブザーが一時的に鳴る)		

PICC デフォルト設定 - 1Fh

注釈:

1. UI 操作コマンドの取得/設定に SAM インタフェースは蓋まれていません。



6.3.10. BLE UI 操作取得 (Get BLE UI Behaviour) [E0 00 00 4B 01 05]

このコマンドは LED ののは操作を読み取る際に使用されます。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc	データ出力
Get BLE UI Behaviours	E0h	00h	00h	4Bh	01h	05h

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン
結果	E1h	00h	00h	00h	01h	BLEと充電 UI 操作

6.3.11. BLE UI 操作設定 (Set BLE UI Behaviour) [E0 00 00 4B 02 05 ...]

このコマンドは青色の BluetoothLED 操作を設定するために使われます。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc	応答データ (1 バイト目)	データ出力
Set BLE UI Behaviour	E0h	00h	00h	4Bh	02h	05h	BLE UI 操作

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン
結果	E1h	00h	00h	00h	01h	BLE UI 操作

BLE UI 操作-1 バイト、ビットマスクは次の通りです

操作パラメーター	パラメーター	説明	オプション
Bit 0	青色 BLE LED	LEDがリーダライターに制御される	1 = 有効にする 0 = 無効にする

BLEのデフォルト設定 - 01h



6.3.12. スリープモードオプションの取得 (Get Sleep Mode Option) [E0 00 00 50 00]

このコマンドはデバイスがスリープモードに入るタイマーを確認する時に使用されます。

注意：ファームウェアバージョン 1.02.04以降でのみ使用可能

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc
Get Sleep Timer Option	E0h	00h	00h	50h	00h

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータ イン
結果	E1h	00h	00h	00h	01h	時間

その中：

時間 1バイト：タイマー

00h = 60 s (デフォルト)

01h = 90s

02h = 120s

03h = 180s

04h = スリープしない

6.3.13. スリープモードオプションの設定 (Set Sleep Mode Option) [E0 00 00 48 ...]

60 秒後に何も操作しない場合、デフォルトでは、リーダーがスリープモード入ります。このコマンドはデバイスがスリープモードに入る前の時間間隔を設定する時に使用されます。

注意：ファームウェアバージョン 1.02.04以降でのみ使用可能

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	データ出力
Set Auto Power Off	E0h	00h	00h	48h	時間

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン
結果	E1h	00h	00h	00h	01h	時間

その中：

時間 1 バイト。時間

00h = 60 s (デフォルト)

01h = 90s

02h = 120s

03h = 180s

04h = スリープしない

6.3.14. Tx パワー数値取得 (Get Tx Power Value) [E0 00 00 51 00]

このコマンドは Bluetooth の Tx パワーを読み取る際に使用されます。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc
Get Tx power Value	E0h	00h	00h	51h	00h

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン
結果	E1h	00h	00h	00h	01h	Tx パワー

6.3.15. Tx パワー数値設定 (Set Tx Power Value) [E0 00 00 49...]

このコマンドは Bluetooth の Tx パワーを修正する際に使用されます。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	データ出力
Get Tx power Value	E0h	00h	00h	49h	Tx パワー

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン
結果	E1h	00h	00h	00h	01h	Tx パワー

その中 :

Tx パワー 1 バイト

00h = -23 dBm、距離 : ~3 メーター

01h = -6 dBm (デフォルト)、距離 : ~7 メーター

02h = 0 dBm、距離 : ~17 メーター

03h = 4 dBm、距離 : ~25 メーター

デフォルト値 -01h

6.3.16. MAC アドレス取得 (Get MAC Address) [E0 00 00 43 00]

このコマンドは BLE リーダーの MAC アドレスを読み取る際に使用されます。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc
Get MAC Address	E0h	00h	00h	43h	00h

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン
結果	E1h	00h	00h	00h	06h	MAC アドレス

その中 :

MAC アドレス 6 バイト

AA:BB:CC:DD:EE:FF (リトルエンドフォーマット)

BLE MAC アドレス : FF:EE:DD:CC:BB:AA



6.3.17. BLE 放送名称取得する (Get BLE Advertising Name) [E0 00 00 44 00]

BLE 放送名称を読み取る時にこのコマンドを使用します。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc
Get BLE Advertising Name	E0h	00h	00h	44h	00h

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン
結果	E1h	00h	00h	00h	length	BLE 放送名称



6.3.18. バッテリ取得 (Get Battery Level) [E0 00 00 52 00]

このコマンドは現在の電池残量検査するために使用されます。

注：Read Writerが Bluetoothモードになっている場合にのみ使用できます。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc
Get Battery Level	E0h	00h	00h	52h	00h

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	コマンドデータイン
結果	E1h	00h	00h	00h	01h	電池残量

その中：

電池残量	1 バイト
	64h = 100%残量
	5Ah = 90%残量
	50h = 80%残量
	46h = 70%残量
	3Ch = 60%残量
	32h = 50%残量
	28h = 40%残量
	1Eh = 30%残量
	14h = 20%残量
	0Fh = 15%残量



6.3.19. BLE バインドレコードの削除 (Remove BLE Bonding Record) [E0 00 00 5B 00]

BLE バインドレコードを削除するために使われます。

注：USBモードのリーダーライターのみに適用します。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc
Remove BLE Bonding Record	E0h	00h	00h	5Bh	00h

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	データ出力
結果	E1h	00h	00h	00h	02h	90h 00h

6.3.20. BLE 通信モード読み取る (Read BLE Communication Mode)

BLE 通信モードを読み取る時にこのコマンドを使用します。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc
Read BLE Communication Mode	E0h	00h	00h	77h	00h

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	データ出力
結果	E1h	00h	00h	00h	01h	通信モード

6.3.21. BLE 通信モード設定 (Set BLE Communication Mode)

BLE 通信モードを設定する時にこのコマンドを使用します。

ステップ (1) 乱数を取得します。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc
Get Random Number	E0h	00h	00h	75h	00h

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	データ出力
結果	E1h	00h	00h	00h	10h	16 バイトの乱数

ステップ (2) BLE 通信モードを設定する :

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc
Set BLE Communication Mode	E0h	00h	00h	77h	暗号化された 16 バイト乱数 + 暗号化された 16 バイトモード値

その中 :

モード値	
通信モード	15 バイト任意値

通信モード 1 バイト 00h : 明文
 01h : 認証



応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	データ出力
結果	E1h	00h	00h	00h	02h	SW1 SW2

結果	SW1 SW2	意味
成功	90 00h	操作が成功に完了しました。
エラー	67 00h	操作が失敗しました。

6.3.22. 顧客マスターキーリライター (Customer Master Key Rewrite)

顧客マスターキーを設置する時にこのコマンドを使用します。

ステップ (1) 乱数を取得します。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc
Get Random Number	E0h	00h	00h	75h	00h

応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	データ出力
結果	E1h	00h	00h	00h	10h	16 バイトの乱数

ステップ (2) 顧客マスターキーの上書き :

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc
Customer Master Key Rewrite	E0h	00h	00h	76h	暗号化された 16 バイト乱数 + 暗号された 16 バイトの新しいマスターキー

応答状態コード (成功)

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	データ出力
結果	E1h	00h	00h	00h	02h	90 00h

応答状態コード (失敗)

応答	CLA	INS	P1	P2	Le
結果	E1h	00h	00h	00h	00h

6.3.23. 認証エラーカウンタを読み込む (Read Authentication Error Counter)

このコマンドが認証エラーカウンタを読み取る時に使われる。

コマンド

コマンド	CLA	INS	P1	P2	Lc
Read Authentication Error Counter	E0h	00h	00h	72h	00h



応答コード

応答	CLA	INS	P1	P2	Le	データ出力
結果	E1h	00h	00h	00h	01h	エラーカウンタ

その中：

エラーカウンタを数値 1バイト

付録A. NDEF メッセージ

このセクションでは、NDEF メッセージを使用して NTag に URL をエンコードする方法について説明します。

このコマンドのデータフォーマットを了解したい場合、“NFC Forum NFC Data Exchange Format (NDEF) Specifications 1.0”を参照してください。

例：

NDEF メッセージ = { D1 01 0B 55 02 61 63 73 2E 63 6F 6D 2E 68 6Bh }

オフセット	コンテンツ	長さ	説明
0	D1	1	NDEF ヘッダ。TNF = 01h、SR=1、MB=1、ME=1
1	01	1	レコード名の長さ (1 バイト)
2	0B	1	URI ペイロードの長さ (11 バイト)
3	55 (“U”)	1	レコードタイプ“U”
4	02	1	略語“http://www.”
5	61 63 73 2E 63 6F 6D 2E 68 6B	10	URL 自体。“acs.com.hk”

Ntag にエンコード = { 03 0F D1 01 0B 55 01 61 63 73 2E 63 6F 6D 2E 68 6B FEh }

オフセット	コンテンツ	長さ	説明
0	03	1	TLV ヘッダ。03h = NDEF メッセージ
1	0F	1	NDEF メッセージの長さ (15 バイト)
2	D1 01 0B 55 01 61 63 73 2E 63 6F 6D 2E 68 6B	15	NDEF メッセージ
17	FE	1	TLV ヘッダ。FEh = 終了記録

付録B. ロットビット状態とスロットビットエラー

各 Bulk-IN メッセージには、スロットビットエラーとスロットビット状態レジスタの値が含まれています。

オフセット	データフィールド	大きさ	数値	説明
0	bmICCStatus	2ビット	0、1、2	0 - ICC が存在し、アクティブ状態（安定給電がオン、RST 信号が非アクティブ） 1 - ICC は存在しますが非アクティブ（ハードウェアエラーのため非アクティブまたはオフ） 2 - ICC が存在しない 3 - RFU
2	bmRFU	4ビット	RFU	スマートポスターデータの長さ（15 バイト）
6	bmCommandStatus	2ビット	0、1、2	0 - 処理にエラーがない 1 - 失敗（エラーレジスタによるエラーコード） 2 - 時間延長のリクエスト 3 - RFU

表18 : スロットビットステータスレジスタ

エラーコード	エラー名称	可能な原因
FFh	CMD_ABORTED	ホストが現在のアクティビティを中止しました
FEh	ICC_MUTE	ICC と通信する時、CCID がタイムアウト
FDh	XFR_PARITY_ERROR	ICC と通信する時にパリティエラー
FCh	XFR_OVERRUN	ICC と通信する時にオーバーランエラー
FBh	HW_ERROR	総合的なハードウェアエラーが発生しました
F8h	BAD_ATR_TS	
F7h	BAD_ATR_TCK	
F6h	ICC_PROTOCOL_NOT_SUPPORTED	
F5h	ICC_CLASS_NOT_SUPPORTED	
F4h	PROCEDURE_BYTE_CONFLICT	
F3h	DEACTIVATED_PROTOCOL	
F2h	BUSY_WITH_AUTO_SEQUENCE	自動シーケンス進行中

エラーコード	エラー名称	可能な原因
E0h	CMD_SLOT_BUSY	コマンドを処理しているスロットに 2 番目のコマンドを送信する
C0h から 81h まで	ユーザー定義	
80h 及び 必要要件 を埋める値	RFU	
7Fh から 01h まで	サポートされていないエラーメッセージパラメータのインデックス	01h : dwLength エラー 05h : bSlot 存在しない 07h : bPowerselect エラー (サポートされない) 08h : wLevelParameter エラー 0Ah : FI - DI ペアリングが無効またはサポートされていません 0Bh : TCCKTS パラメータ無効 0Ch : 保護時間サポートしない 0Dh : T = 0 WI 無効またはサポートされていません T = 1 BWI または CWI 無効またはサポートされていません 0Eh : 要求されたクロック停止のサポートが無効またはサポートされていません 0Fh : IFSC 大きさが無効またはサポートされていません 10h : NAD 数値が無効またはサポートされていません
00h	このコマンドをサポートできません。	

表19 : スロットビットエラーレジスタ (bmCommandStatus = 1)